



LS600h / LS600hL

取扱説明書

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	30
安全なドライブのために	32
シートベルト	34
SRS エアバッグ	39
お子さまの安全のために	49
子供専用シート	50
チャイルドシートの取り付け	58
排気ガスに対する注意	65

1-2. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴	66
ハイブリッドシステムの注意	70

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	76
オートアラーム	77

2 メーターの見方

2. 計器の見方

警告灯／表示灯	84
計器類	88
マルチインフォメーション ディスプレイ	93
エネルギーモニター／ 燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面	101

3 各部の操作

3-1. キー

キー	110
----------	-----

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	116
ワイヤレスリモコン	126
ドア	128
トランク	133

3-3. シートの調整

フロントシート	140
パワーリヤシート	147
ドライビングポジション メモリー	158
リヤシートポジション メモリー	163
ヘッドレスト	165

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	169
インナーミラー	170
ドアミラー	172

3-5. ドアガラス・

ムーンルーフの開閉

パワーウィンドウ	175
ムーンルーフ	178

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって.....	184
荷物を積むときの注意.....	192

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ.....	193
EV ドライブモード.....	198
トランスミッション.....	201
方向指示レバー.....	207
パーキングブレーキ.....	208
ブレーキホールド.....	211
ホーン（警音器）.....	213

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....	214
アダプティブハイビーム システム.....	217
フォグランプスイッチ.....	224
ワイパー＆ウォッシャー.....	226
ヘッドランプクリーナー.....	229

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....	230
--------------	-----

4-5. 運転支援装置について

クルーズコントロール.....	233
レーダークルーズ コントロール （全車速追従機能付）.....	237
LKA（レーンキーピング アシスト）.....	249
ドライブモードセレクト スイッチ.....	258
電子制御 エアサスペンション.....	262
運転を補助する装置.....	263
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）.....	270
後方プリクラッシュ セーフティシステム.....	280
BSM（ブラインドスポット モニター）.....	283
ナイトビュー （歩行者検知機能付）.....	288

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス.....	298
寒冷時の運転.....	300

1

2

3

4

5

6

7

8

5 室内装備・機能

5-1. レクサスクライメイト コンシェルジュ	
レクサスクライメイト コンシェルジュ.....	306
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	307
・ インテリアランプ	308
・ パーソナルランプ	309
5-3. 収納装備	
収納装備一覧	311
・ グローブボックス	313
・ コインホルダー	314
・ ドアポケット	314
・ カップホルダー	315
・ コンソールボックス	317
・ 小物入れ	318
トランク内装備	321
5-4. その他の室内装備の使い方	
サンバイザー／ バニティミラー	324
時計	326
灰皿	327
シガレットライター	328
アクセサリソケット／ アクセサリコンセント	330
ステアリングヒーター	334
コンフォータブル・ エアシート	336
アームレスト	341
テーブル	342
リヤサンシェード	344
リヤドアサンシェード	348
コートフック	351
アシストグリップ	352

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ	354
内装の手入れ	357
6-2. 簡単な点検・部品交換	
ボンネット	360
ガレージジャッキ	363
エンジンルームカバー	365
ウォッシュ液の補充	367
タイヤについて	368
電子キーの電池交換	376
ヒューズの点検・交換	378
電球（バルブ）の交換	382

7 万の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....	388
非常点滅灯 (ハザードランプ).....	389
発炎筒.....	390
車両を緊急停止するには.....	392

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	393
警告灯がついたときは.....	397
警告メッセージが 表示されたときは.....	403
パンクしたときは (スベアタイヤ装着車).....	407
パンクしたときは (タイヤパンク応急修理キット 装着車).....	417
ハイブリッドシステムが 始動できないときは.....	431
シフトレバーが シフトできないときは.....	433
パーキングブレーキが 解除できないときは.....	434
電子キーが 正常に働かないときは.....	439
補機バッテリーが あがったときは.....	441
オーバーヒートしたときは.....	445
スタックしたときは.....	450

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量など) ...	454
--------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧.....	459
-------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	472
車から音が鳴ったときは (音さくいん).....	476
アルファベット順さくいん.....	478
五十音順さくいん.....	480

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・GPS ボイスナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・後席9型ワイドディスプレイ
- ・エアコン・デフォッガー
- ・ミラーヒーター
- ・音声操作システム
- ・クリアランスソナー
- ・ETC システム/ ITS スポットサービス (DSRC)
- ・バックガイドモニター
- ・ハンズフリー
- ・G-Link

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ 電気モーター回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション
- ・ 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、レクサスはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています)

ハイブリッドシステムについて

LS600h/LS600hLは電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。

LS600h/LS600hL を安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

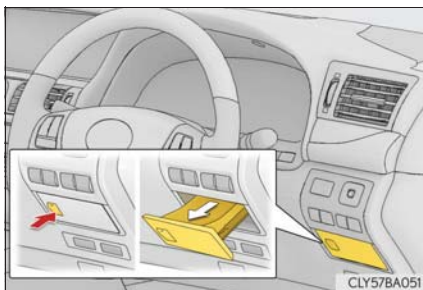
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

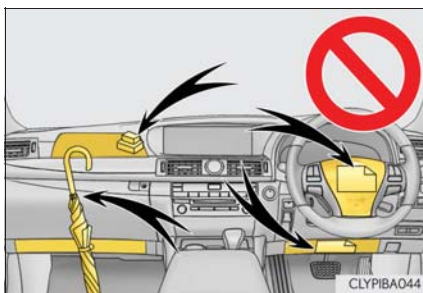
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

⇨ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➤ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



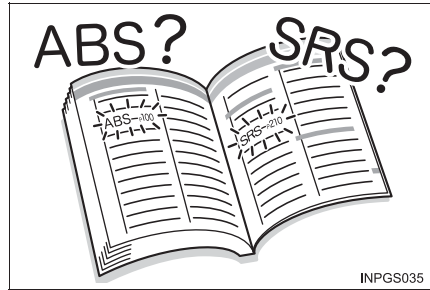
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん 480
- ・ アルファベット順
さくいん 478



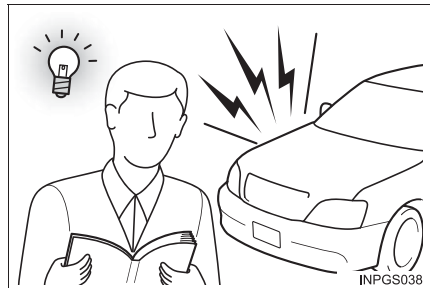
■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 12



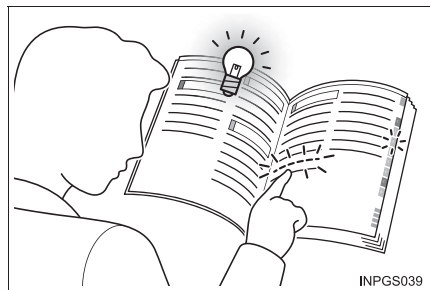
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん) 472
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん) 476



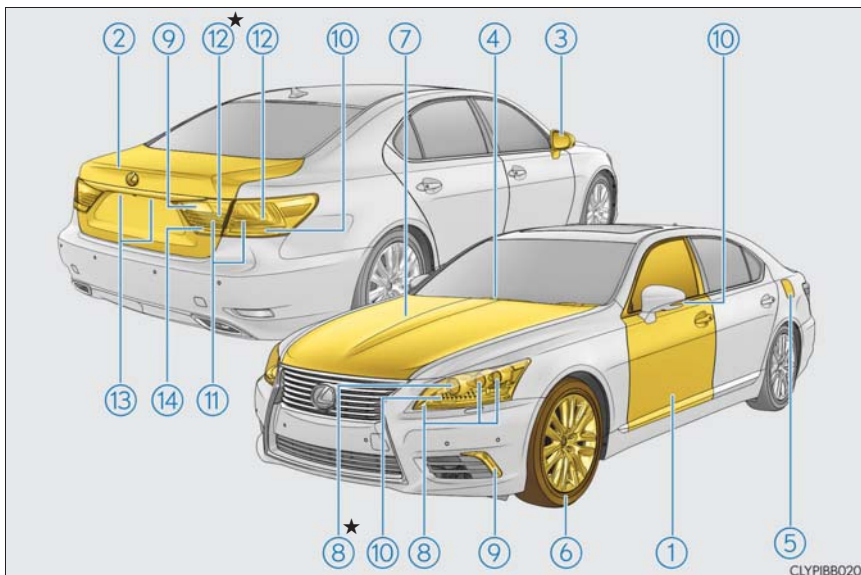
■ タイトルから探す

- ・ 目次 2



イラスト目次

■ 外観



- ① ドアP. 128
 施錠／解錠P. 117, 126
 ドアガラスの開閉P. 175
 メカニカルキーでの施錠／解錠P. 439
 警告灯・警告メッセージP. 400, 403
- ② トランクP. 133
 車内から開けるP. 133
 車外から開けるP. 117, 126
 メカニカルキーで開けるP. 440
 警告灯・警告メッセージP. 400, 403
- ③ ドアミラーP. 172
 鏡面の角度調整P. 172
 ミラーの格納P. 172
 調整位置の登録P. 158
 曇りを取る（ミラーヒーター）※

- ④ **ワイパー**P. 226
 冬季の注意P. 300
 凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★※
 洗車時の注意P. 355
- ⑤ **給油口**P. 230
 給油方法P. 230
 燃料の種類・燃料タンク容量P. 454
- ⑥ **タイヤ**P. 368
 サイズ・空気圧P. 371, 458
 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 300
 点検・ローテーション・空気圧警報システムP. 368
 パンク時の対処P. 407, 417
- ⑦ **ボンネット**P. 360
 開け方P. 360
 エンジンルームカバーP. 365
 エンジンオイルP. 454
 オーバーヒート時の対処P. 445
 警告メッセージP. 403

走行に関わる外装のランプ・バルブ

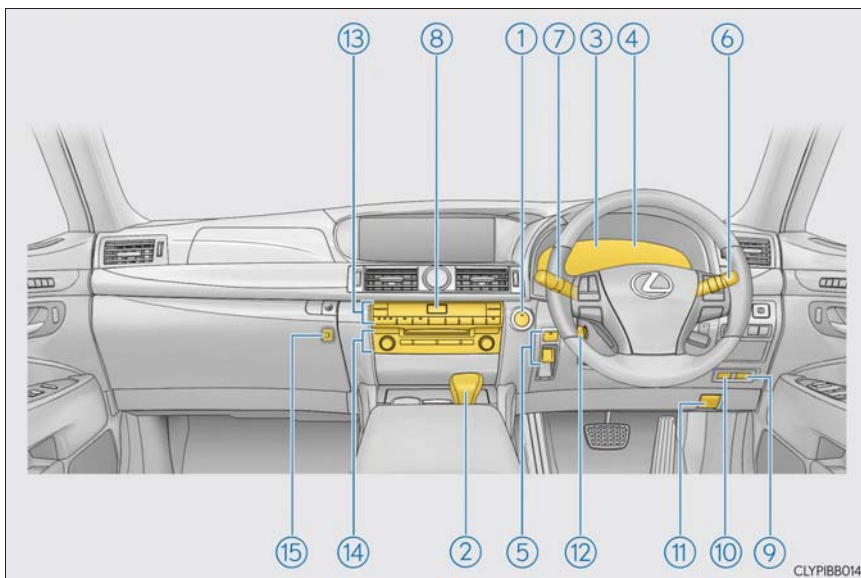
（交換要領：P. 382, ワット数：P. 458）

- ⑧ **ヘッドランプ・車幅灯**P. 214
- ⑨ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ** ★P. 224
- ⑩ **方向指示灯**P. 207
- ⑪ **尾灯**P. 214
- ⑫ **制動灯**
 坂道などでの発進補助P. 263
- ⑬ **番号灯**P. 214
- ⑭ **後退灯**
 シフトポジションを R にするP. 201

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ インストルメントパネル



CLYPIB014

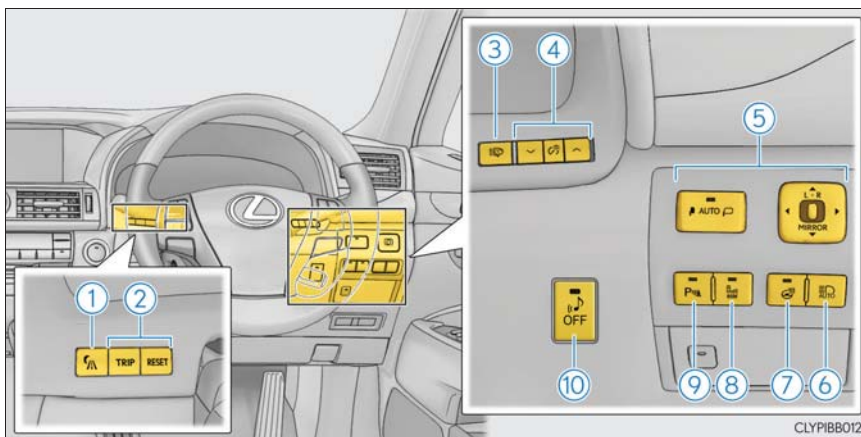
- ① パワースイッチ P. 193
 ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P. 193
 ハイブリッドシステムの緊急停止 P. 392
 ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P. 431
 警告メッセージ P. 403
- ② シフトレバー P. 201
 シフトポジションの切りかえ P. 201
 けん引時の注意 P. 393
 シフトレバーが動かないときの対処 P. 433
- ③ メーター P. 88
 見方・明るさの調整 P. 88
 警告灯／表示灯 P. 84
 警告灯点灯時の対処 P. 397

- ④ マルチインフォメーションディスプレイP. 93
 - 表示内容P. 93
 - エネルギーモニターP. 101
 - 警告メッセージ表示時の対処P. 403
- ⑤ パーキングブレーキスイッチP. 208
 - かける・解除するP. 208
 - 冬季の注意P. 301
 - 警告ブザー・警告メッセージP. 403
- ⑥ 方向指示レバーP. 207
 - ランプスイッチP. 214
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯P. 214
 - フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★P. 224
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチP. 226
 - 使い方P. 226
 - ウォッシャー液の補充P. 367
 - 警告メッセージP. 403
- ⑧ 非常点滅灯スイッチP. 389
- ⑨ トランクオープナーP. 133
- ⑩ 給油口オープナーP. 231
- ⑪ ボンネットオープナーP. 360
- ⑫ ハンドル位置調整スイッチP. 169
 - 調整方法P. 169
 - 調整位置の登録P. 158
- ⑬ オートエアコン※
 - 操作方法※
 - リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）※
- ⑭ オーディオ※
 - 音楽を聴く※
 - 電話をかける・受ける（ハンズフリー）※
- ⑮ トランクオープナーメインスイッチP. 134

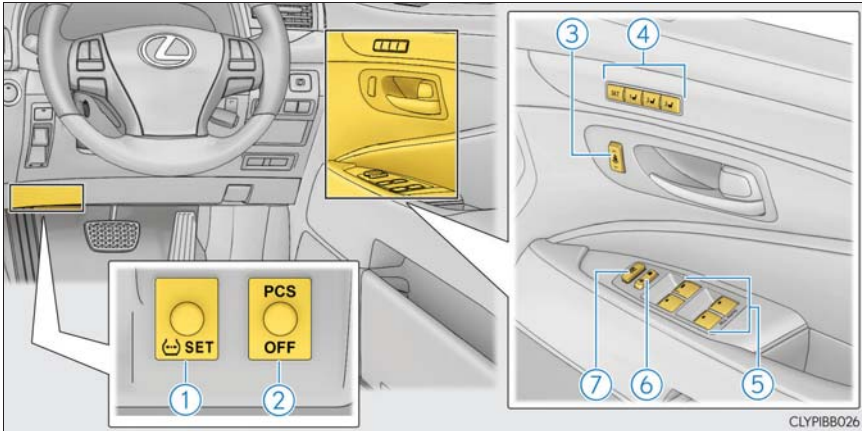
★：仕様により異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ インストルメントパネル スイッチ類



- ① ナイトビュースイッチ★P. 288
- ② オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットスイッチP. 90
- ③ ヘッドランプクリーナースイッチP. 229
- ④ インストルメントパネル照度調整スイッチP. 90
- ⑤ ドアミラースイッチP. 172
- ⑥ アダプティブハイビームシステムスイッチP. 217
- ⑦ ステアリングヒータースイッチP. 334
- ⑧ BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ★P. 283
- ⑨ クリアランスソナースイッチ※
- ⑩ 車両接近通報一時停止スイッチP. 67



- ① タイヤ空気圧警報リセットスイッチP. 370
- ② プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ★P. 272
- ③ シートベルト高さ調整スイッチP. 34
- ④ ドライビングポジションメモリースイッチP. 158
- ⑤ パワーウィンドウスイッチP. 175
- ⑥ ドアロックスイッチP. 128
- ⑦ ウィンドウロックスイッチP. 175

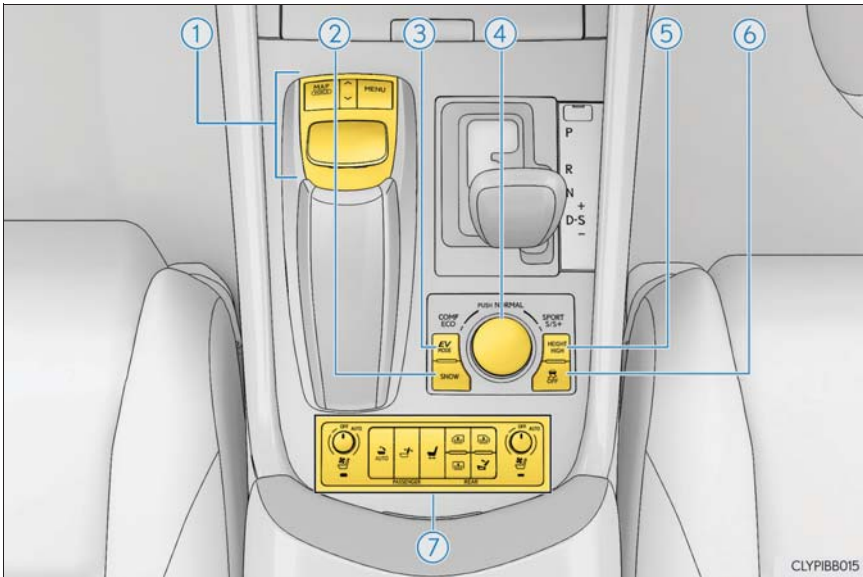
★：仕様により異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



CLYPIBA00B

- ① オーディオスイッチ※ 1
- ② パドルシフトスイッチ★P. 202
- ③ 戻るスイッチ※ 1
- ④ トークスイッチ※ 1
- ⑤ 電話スイッチ※ 1
- ⑥ DISP スイッチP. 94
- ⑦ 車間距離切りかえスイッチ★P. 239
- ⑧ クルーズコントロールスイッチ
クルーズコントロール★P. 233
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付) ★P. 237
- ⑨ LKA (レーンキーピングアシスト) スイッチ★P. 251
- ⑩ ブレーキホールドスイッチ.....P. 211



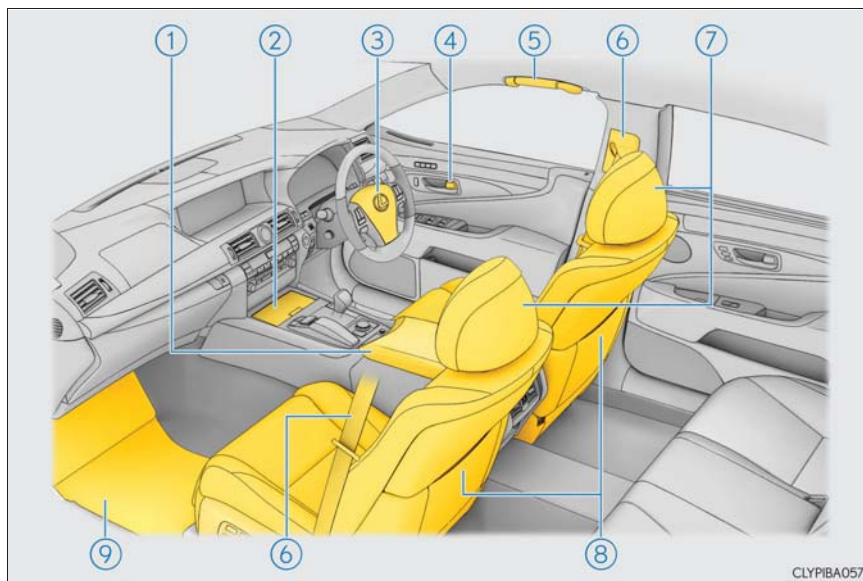
- ① リモートタッチ※¹
- ② スノーモードスイッチP. 204
- ③ EV ドライブモードスイッチP. 198
- ④ ドライブモードセレクトスイッチP. 258
- ⑤ 車高選択スイッチP. 262
- ⑥ VSC (ビークルスタビリティコントロール) OFF スイッチP. 265
- ⑦ シート・室内装備スイッチ※²
 - リヤサンシェードスイッチP. 344
 - リヤドアサンシェードスイッチ★P. 348
 - フロントコンフォータブル・エアシートスイッチ★P. 336
 - リヤシート位置もどしスイッチ★P. 150
 - 助手席パワーシートスイッチ★P. 141

★：仕様により異なる装備やオプション装備

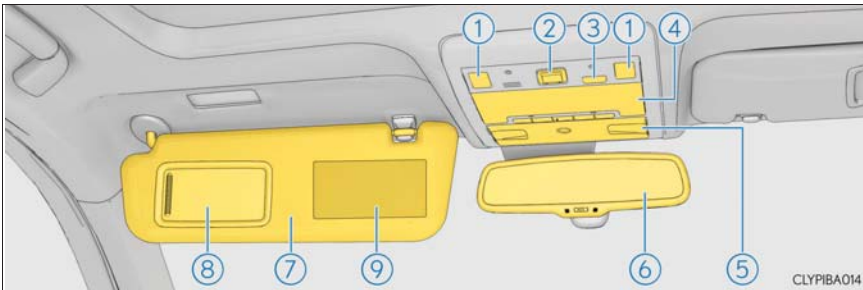
※¹：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※²：スイッチの配置はグレードによって異なります。

■フロント席



- ① コンソールボックスP. 317
 アクセサリーソケットP. 330
 AUX 端子※
 USB 端子※
- ② カップホルダーP. 315
 アクセサリーソケット★P. 330
 シガレットライター★P. 328
- ③ SRS エアバッグP. 39
- ④ ドアロックレバーP. 128
- ⑤ アシストグリップP. 352
- ⑥ シートベルトP. 34
- ⑦ ヘッドレストP. 165
- ⑧ フロントシートP. 140
- ⑨ フロアマットP. 30



- ① ムーンルーフスイッチ★P. 178
- ② ヘルプネットスイッチパネル※
- ③ 侵入センサー OFF スイッチP. 80
- ④ インテリアランプP. 308
パーソナルランプP. 309
- ⑤ 小物入れ★P. 318
セキュリティカメラ★P. 80
- ⑥ インナーミラーP. 170
- ⑦ サンバイザーP. 324
- ⑧ バニティミラーP. 324
- ⑨ エアバッグ警告ラベル

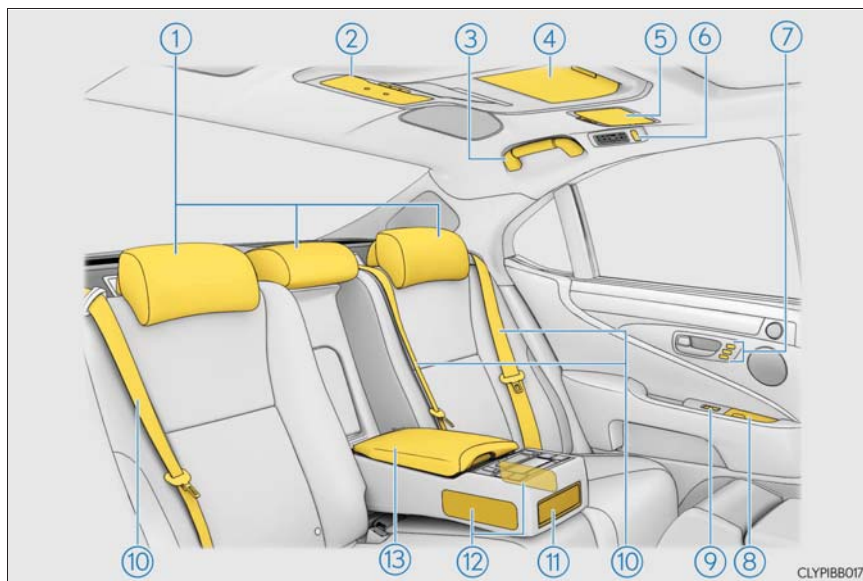


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けな_いてください。(→ P. 63)

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■5人乗り リヤ席



CLYPIB017

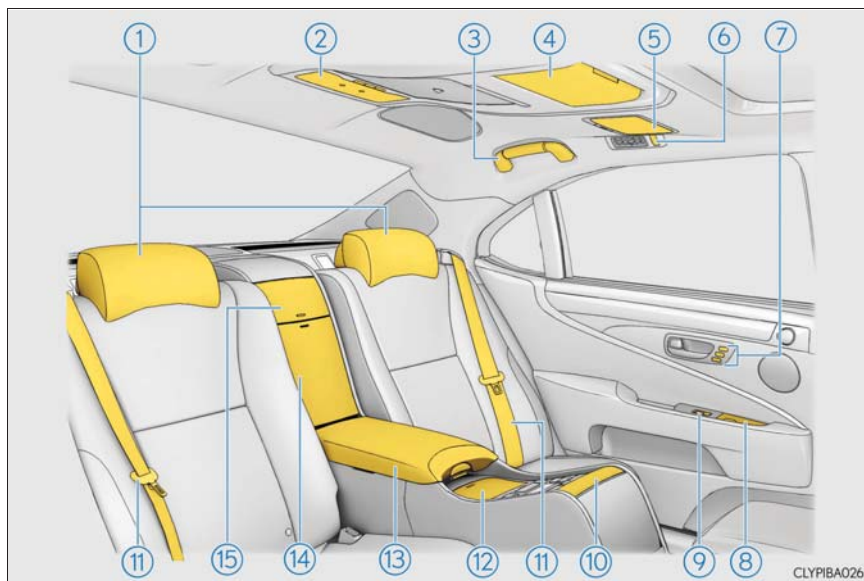
- ① ヘッドレストP. 165
- ② インテリアランプP. 308
パーソナルランプP. 309
- ③ アシストグリップP. 352
- ④ 後席9型ワイドディスプレイ★※
- ⑤ バニティミラーP. 324
- ⑥ コートフックP. 351
- ⑦ シートポジションメモリースイッチ★P. 163

- ⑧ 小物入れ★P. 318
灰皿★P. 327
- ⑨ パワーウインドウスイッチP. 175
- ⑩ シートベルトP. 34
- ⑪ カップホルダーP. 315
- ⑫ ペルビックサポートシートスイッチ★P. 151
リヤシートリラクゼーションシステム /
ペルビックサポートシートスイッチ★P. 153
- ⑬ 小物入れP. 318
後席9型ワイドディスプレイリモコン★※
アクセサリコンセントP. 332
ヘッドホンジャック★※

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■4人乗り リヤ席



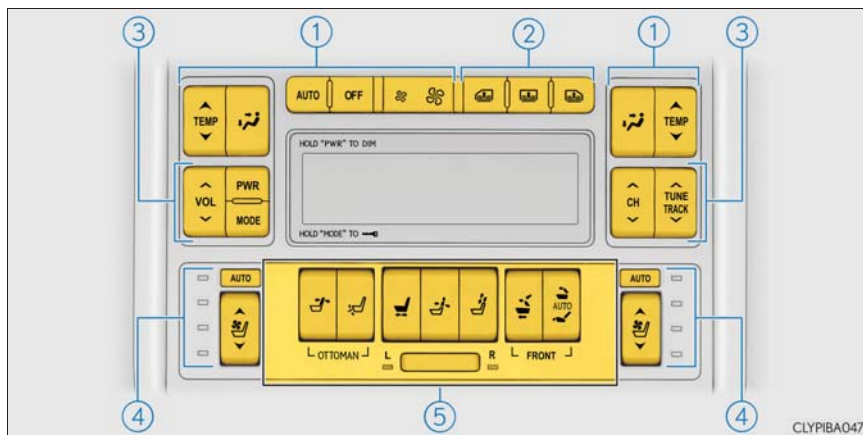
- | | | |
|---|------------------|-------------|
| ① | ヘッドレスト |P. 165 |
| ② | インテリアランプ |P. 308 |
| | パーソナルランプ |P. 309 |
| ③ | アシストグリップ |P. 352 |
| ④ | 後席9型ワイドディスプレイ* | |
| ⑤ | バニティミラー |P. 324 |
| ⑥ | コートフック |P. 351 |
| ⑦ | シートポジションメモリースイッチ |P. 163 |

- ⑧ 小物入れ★P. 318
- 灰皿★P. 327
- ⑨ パワーウィンドウスイッチP. 175
- ⑩ テーブルP. 342
- ⑪ シートベルトP. 34
- ⑫ カップホルダーP. 315
- ⑬ リヤシートコンソール
 - リヤシートリラクゼーションシステム /
ペルビックサポートシートリモコンP. 151, 153
 - 後席9型ワイドディスプレイリモコン※
 - シガレットライター★P. 328
 - アクセサリソケット★P. 330
 - ビデオ端子※
 - 小物入れP. 318
- ⑭ 小物入れP. 318
- ⑮ 後席ブルーレイディスク™(BD)/DVD プレーヤー※
 - ディスク挿入口※
 - SD カード挿入口※
 - ヘッドホンジャック※

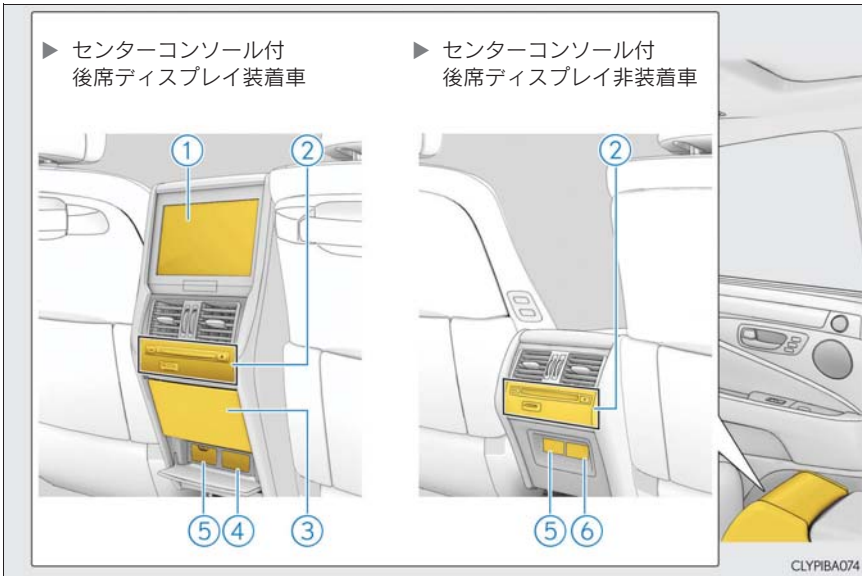
★：仕様により異なる装備やオプション装備

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■リヤ席 スイッチ類



- ① リヤエアコンスイッチ★※ 1
- ② リヤサンシェードスイッチ★※ 2P. 344
リヤドアサンシェードスイッチ★P. 348
- ③ リヤオーディオスイッチ★※ 1
- ④ リヤコンフォータブル・エアシートスイッチ★P. 337
- ⑤ パワーリヤシートスイッチ★※ 2P. 147
助手席コントロールスイッチ★※ 2P. 142, 150
ペルピックサポートシートスイッチ★※ 2P. 151



- ① 後席9型ワイドディスプレイ※1
- ② 後席ブルーレイディスク™(BD)/DVD プレーヤー★※1
ディスク挿入口※1
SDカード挿入口※1
- ③ 小物入れP. 318
- ④ アクセサリーソケットP. 330
- ⑤ ビデオ端子★※1
- ⑥ シガレットライター★.P. 328
アクセサリソケット★P. 330
アクセサリコンセント★P. 332

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※2：スイッチの配置はグレードによって異なります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	30
安全なドライブのために	32
シートベルト	34
SRS エアバッグ	39
お子さまの安全のために	49
子供専用シート	50
チャイルドシートの取り付け	58
排気ガスに対する注意	65

1-2. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴	66
ハイブリッドシステムの注意	70

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	76
オートアラーム	77

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

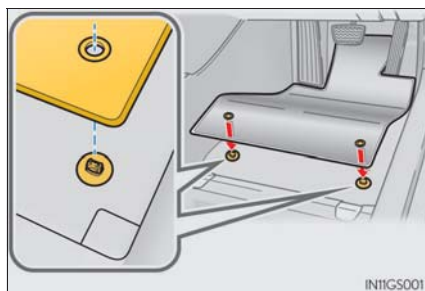
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

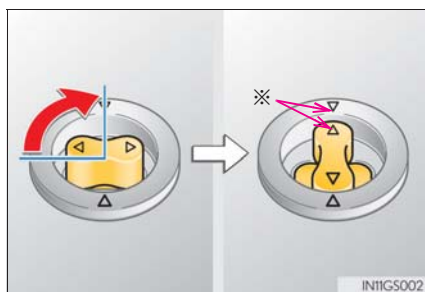
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にとしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になるほか、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

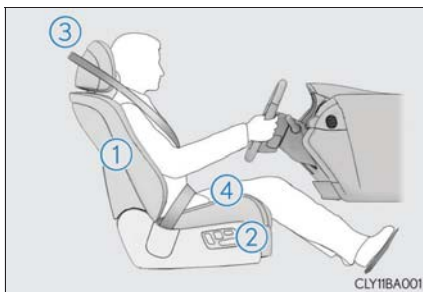


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する (→ P. 140)
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする (→ P. 140)
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→ P. 165)
- ④ シートベルトを正しく着用する (→ P. 34)



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→ P. 34)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 50)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→ P. 170, 172)

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

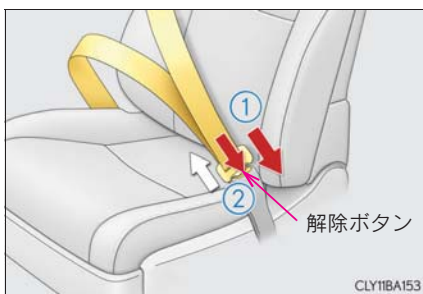
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチツ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す
はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタンを押してください。



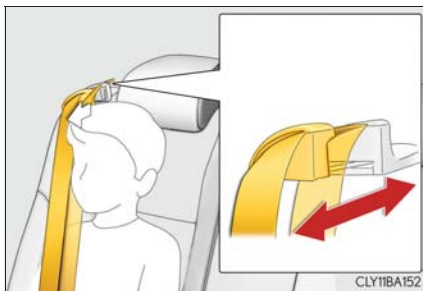
シートベルトの高さ調節（フロント席）

- ① アジャスターを上げる
- ② アジャスターを下げる



シートベルトコンフォートガイド (リヤ外側席)

お子さまや体の小さい方はコンフォートガイドを前方にスライドさせて肩部ベルトが首にかからないように調整してください。

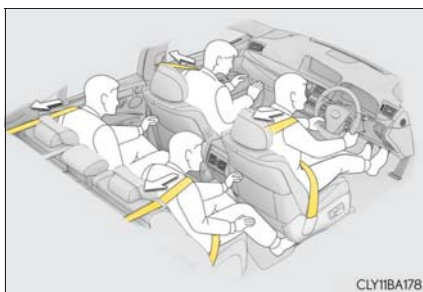


シートベルトプリテンショナー (フロント席・リヤ外側席)

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



プリクラッシュシートベルト (プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席)

衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
(→ P. 270)

 知識**■ お子さまのシートベルトの使い方**

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→ P. 50)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 34)

■ シートベルト高さの自動調整

調整後のシートベルト高さをドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 158)

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

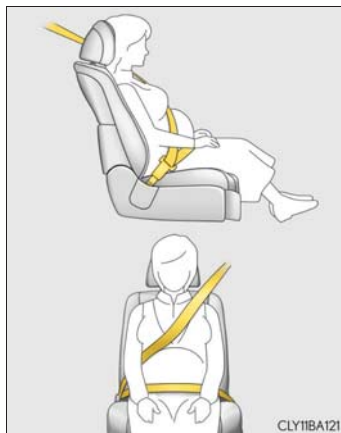
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 34)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

 **警告****■ お子さまをのせるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

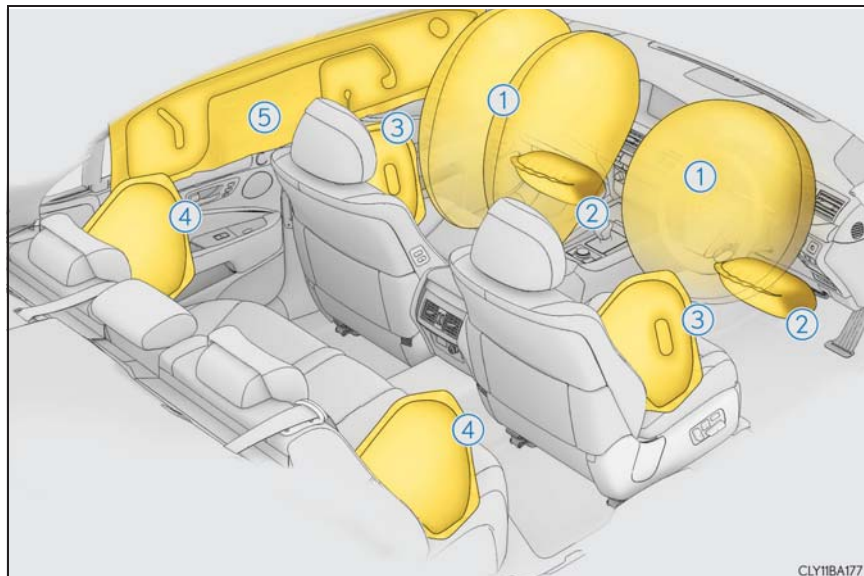
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

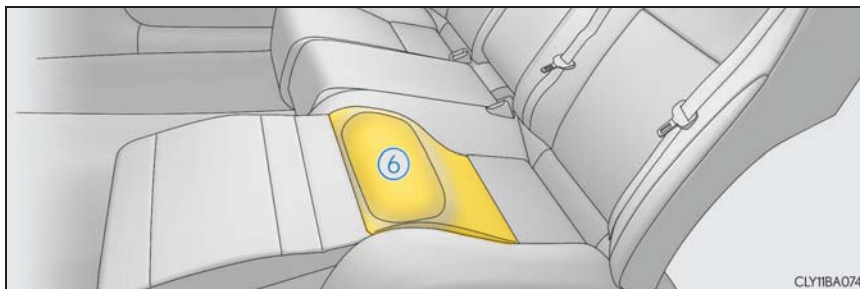


◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ② SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ③ SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ④ SRS リヤサイドエアバッグ ★
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)



- ⑥ SRS シートクッションエアバッグ (リラクゼーションシートのみ)
(リラクゼーションシート乗員の拘束に寄与)

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 50)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

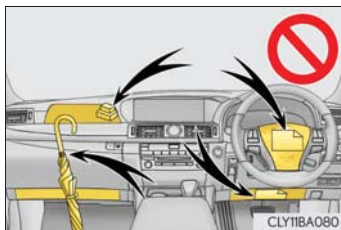



警告
■ SRS エアバッグについて

- 助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→ P. 424)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグとシートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

**警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部・フロントピラー・ガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・リア席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに应答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

- フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

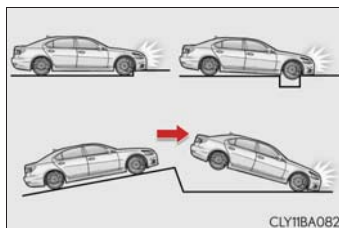
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ、SRS シートクッションエアバッグが作動する場合があります。

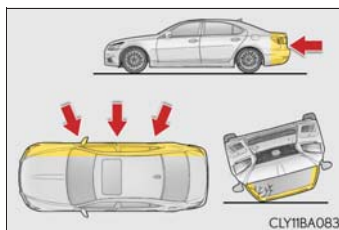
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグが作動することがあります。

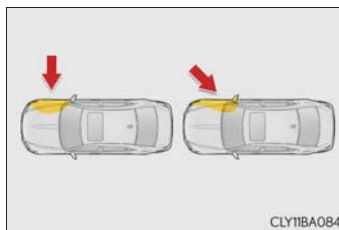
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

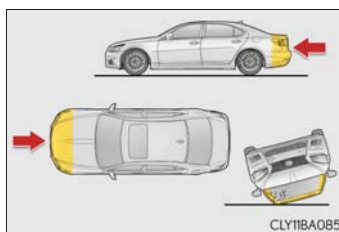
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



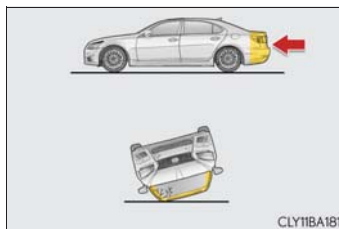
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- 後方からの衝突
- 横転

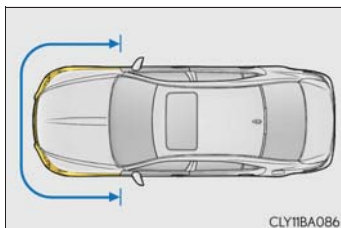


■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

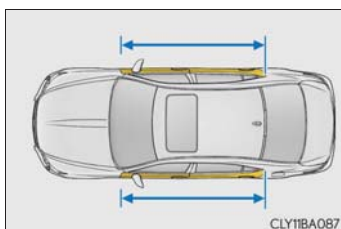
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかのSRSエアバッグがふくらんだとき

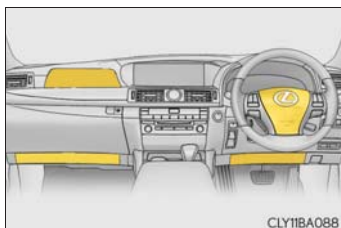
- フロントSRSエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグ、SRSシートクッションエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRSサイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



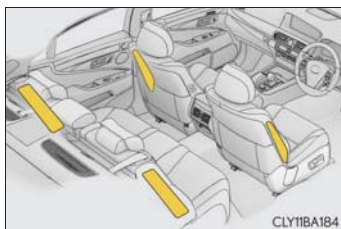
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



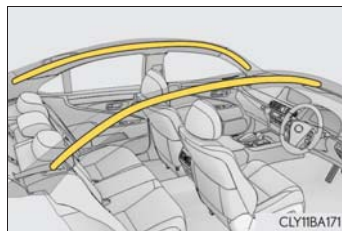
- リラクゼーションシート：シートクッションの表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 50)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめます。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→ P. 129) ・ ウィンドウロックスイッチ (→ P. 175) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ ・ ボンネット ・ トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター ・ 発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 58)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0	: 10kg まで
グループ0 ⁺	: 13kg まで
グループI	: 9 ~ 18kg
グループII	: 15 ~ 25kg
グループIII	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

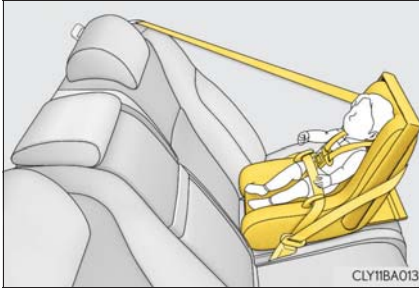
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとまなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0⁺ に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0⁺、I に相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II、III に相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表 (シートベルトでの取り付け)

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kgまで）	×	U	U
0+（13kgまで）	×	U	U
I（9～18kg）	前向き UF	U	U
	うしろ向き×		
II（15～25kg）	UF	U	U
III（22～36kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表 (ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL1, IL2
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL1, IL2
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF, IL2
	B1	ISO/F2X	IUF, IL2
	A	ISO/F3	IUF, IL2
II (15 ~ 25kg)		(1)	×
III (22 ~ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1) : サイズ等級表示(AからG)のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用(ユニバーサル)カテゴリーのISOFIX対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1 : この質量グループでの使用を許可された「レクサス純正 NEO G-Child ISO baby」に適しています。

IL2 : この質量グループでの使用を許可された「レクサス純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

× : ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートの一覧

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
C	ISO/R3			
I (9 ~ 18kg)	B	ISO/F2	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

 知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■ シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 52) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→ P. 53) を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「1」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。*

(例 1) : 質量グループが「0⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「1」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

* ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→ P. 54) で指定されている製品を使用してください。

- 3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。*

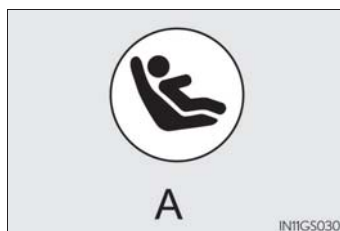
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



- 1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順2で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



- 2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



- 3 トップテザー（→P. 58, 59）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- シートをいちばんうしろにさげる



■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■ 子供専用シートを使用しない場合

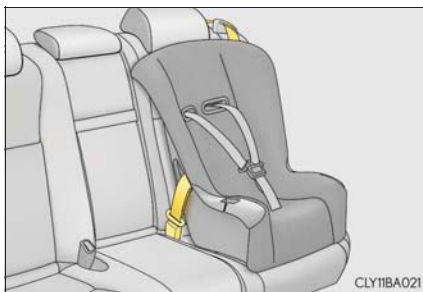
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。

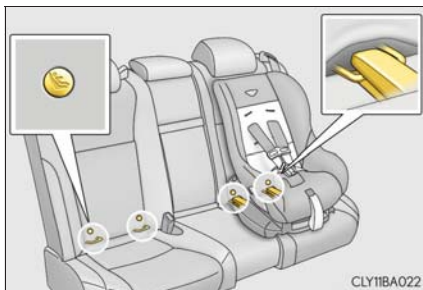
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 60)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 61)

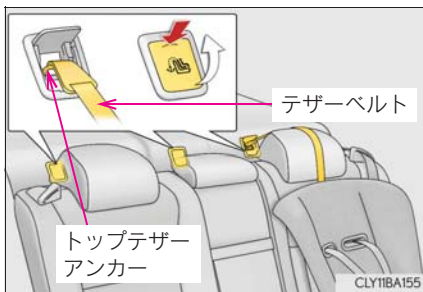
リヤ外側シートに装備されています。
(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いていません)



▶ 5人乗り

トップテザーアンカー (→ P. 61)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

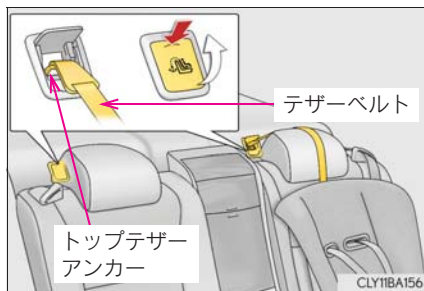


▶ 4人乗り

トップテザーアンカー (→ P. 61)

テザーベルトを固定するときに使います。

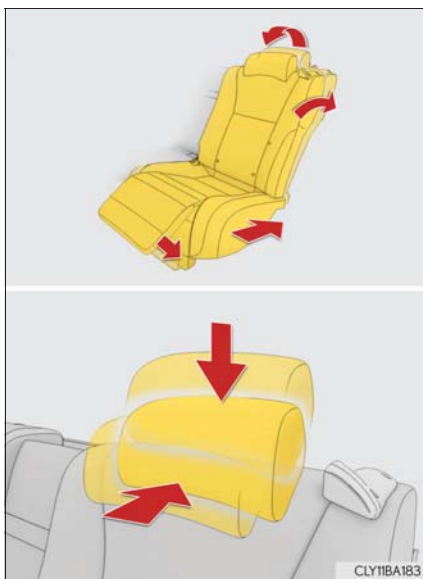
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。



パワーリヤシートの外側席にチャイルドシートを取り付ける前に (パワーリヤシート装着車)

シートを次のように調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれ上部をいちばんうしろにする
- ヘッドレストをいちばん低くし、いちばんうしろにする
- リラクゼーションシート: 背もたれをいちばん上まで起こし、オットマン (フットレスト) を絡納する



シートベルトで固定する

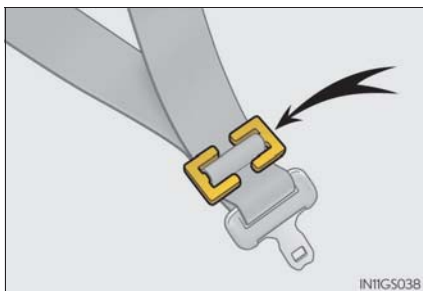
チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチツ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。
（ロックングクリップ品番：73119-22010）



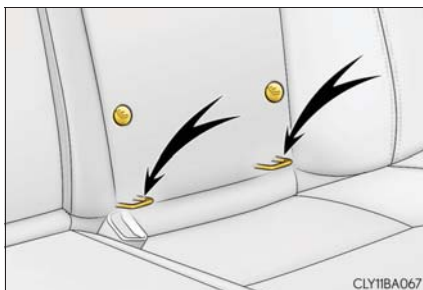
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる、または格納する (→ P. 165)

2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



3 チャイルドシートをシートに取り付ける

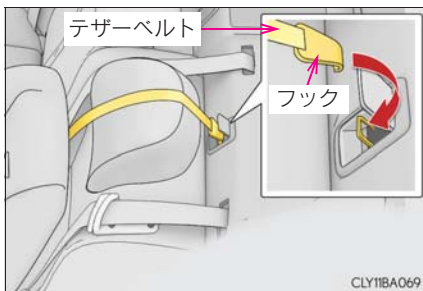
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



5 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



**警告****■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆずって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告が表示されています。併せて参照してください。



警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心になるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランクを閉じてください。

トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

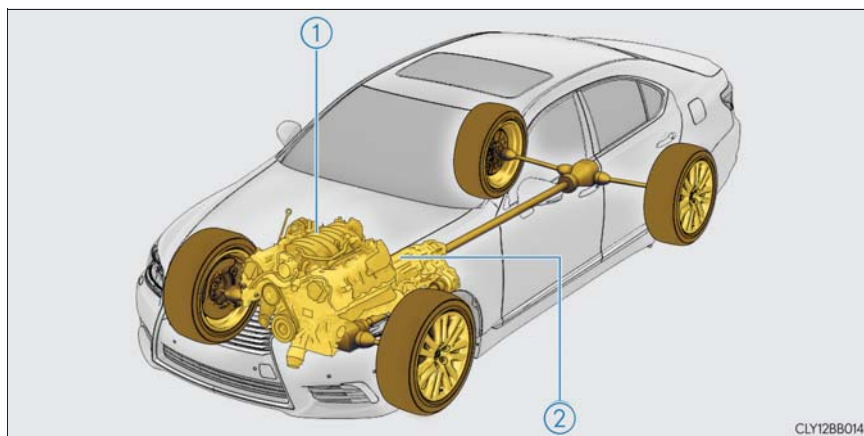
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

LS600h/LS600hLのハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① ガソリンエンジン
- ② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止し、電気モーターを使って走行します。

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

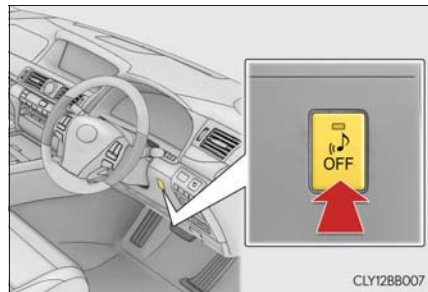
消音するには、パワースイッチが ON モードのとき、スイッチを押す

スイッチ上のインジケータが点灯します。再度スイッチを押すとインジケータが消灯します。

インジケータ点灯：消音

インジケータ消灯：吹鳴

パワースイッチを ON モードにすると、車両接近通報装置は ON になります。



知識

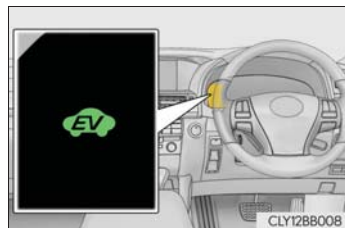
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケータについて

電気モーターの動力のみで走行しているときは、EV インジケータが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 駆動用電池充電時
- 暖房をかけているとき

■ 駆動用電池の充電について

● ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

● シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D または S で運転してください。

■ 補機バッテリーの充電について

→ P. 443

■ 補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われなくなることがあります。

自動停止しない状態が2～3日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- トランクを開けたときに聞こえる作動音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるトランスミッション付近からの音
- 急加速時のエンジン音
- アクセルペダルから足を離したとき、またはブレーキペダルを踏んだときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動や音
- バッテリートレイ上部にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなる場合があります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなる場合があります。

■メンテナンスや修理・廃車について

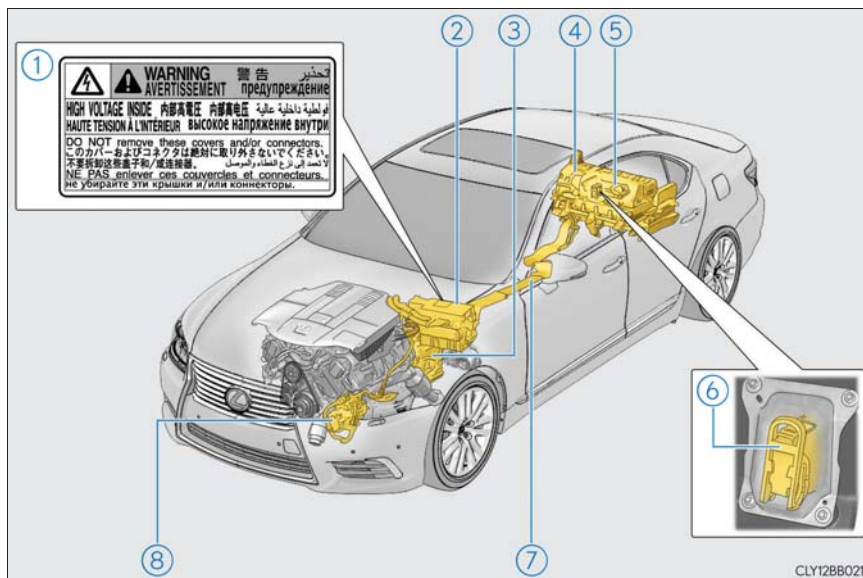
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

EVインジケーターを点灯しないように変更できます。(カスタマイズ一覧:→ P. 459)

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

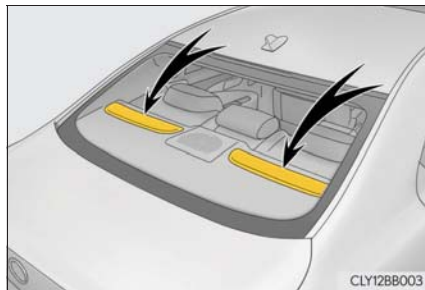


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① コーションラベル | ⑤ DC / DC コンバーター |
| ② パワーコントロールユニット | ⑥ サービスプラグ |
| ③ 電気モーター | ⑦ 高電圧ケーブル（オレンジ色） |
| ④ 駆動用電池 | ⑧ エアコンコンプレッサー |

駆動用電池冷却用吸入口

パッケージトレイ上部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。



緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

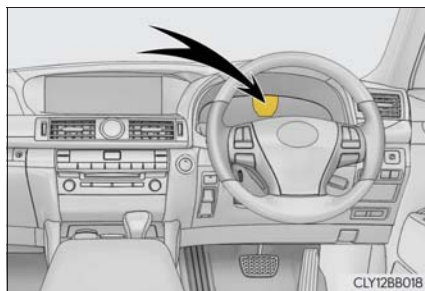
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるため、レクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



 知識**■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 400）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 13L です。車両の傾きによって給油量はかわります）

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

警告**■ 高電圧・高温について**

この車は、高電圧システムを使用しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグがリヤシート奥に設置してあります。サービスプラグはレクサス販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。



 警告**■ 事故が発生したとき**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- タイヤが接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。（→P. 393）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。

適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

- 吸入口の上に荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因となります。
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に働かずハイブリッドシステムが始動できないことがあります。(→P. 122)

注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が開いているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき
(→ P. 443)



■ オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、補機バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ G-Link (ご契約のお客様のみ)

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー & スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 / G-Link / G-Security」を参照してください。

注意

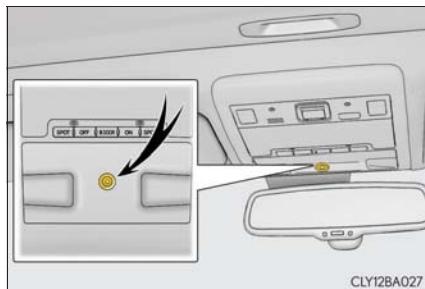
■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

セキュリティカメラ★

オートアラームが作動するとカメラが車内の様子を撮影します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書 / G-Link / G-Security」をご覧ください。



侵入センサーとは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 77)

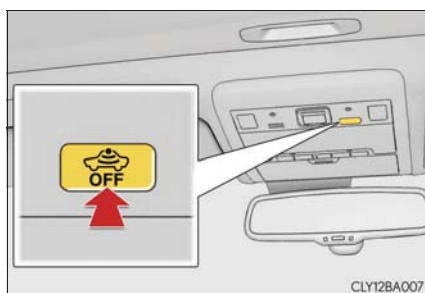
■ 侵入センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 侵入センサーOFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

 知識

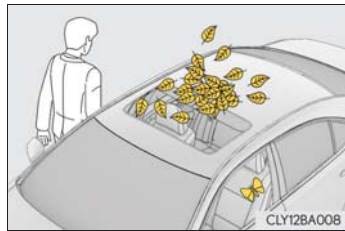
■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

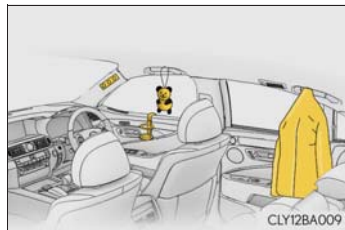
■ 侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
 - ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
 - ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
 - ・ 室外の歩行者の動き



- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
 - ・ 立体駐車場に駐車したとき
 - ・ フェリー・トレーラー・列車などで車両を運搬するとき
 - ・ ガラスに付着した氷を削り落とすとき
 - ・ 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
 - ・ ひょう・落雷などのとき

★：仕様により異なる装備やオプション装備

 注意

■ 侵入センサーを正しく動作させるために

- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	84
計器類	88
マルチインフォメーション ディスプレイ	93
エネルギーモニター／ 燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面	101

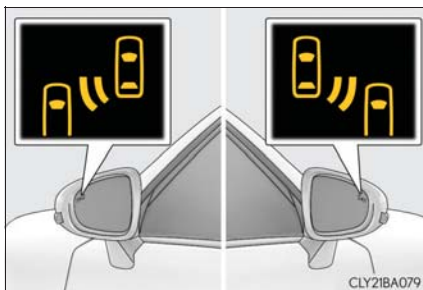
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラー内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター



◆ ドアミラー（ブラインドスポットモニター装着車）



警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 (→ P. 397)



ブレーキホールド作動表示灯
(→ P. 399)

(点滅)



充電警告灯 (→ P. 397)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 399)

(点滅)



エンジン警告灯
(→ P. 398)



ブレーキ警告灯 (→ P. 399)



SRS エアバッグ/プリテン
ションナー警告灯 (→ P. 398)



半ドア警告灯 (→ P. 400)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 (→ P. 398)



燃料残量警告灯 (→ P. 400)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 398)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 400)



PCS (プリクラッシュセーフ
ティシステム) 警告灯★
(→ P. 398)



マスターウォーニング
(→ P. 400)

(点滅)



スリップ表示灯 (→ P. 399)



タイヤ空気圧警告灯
(→ P. 400)

※ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

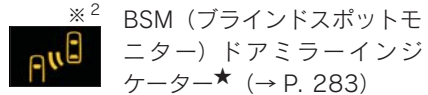
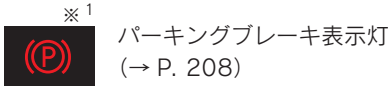
★：仕様により異なる装備やオプション装備

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→ P. 207)		※ ¹ ブレーキホールドスタンバイ表示灯 (→ P. 211)
	尾灯表示灯 (→ P. 214)		※ ¹ ブレーキホールド作動表示灯 (→ P. 211)
	ハイビーム表示灯 (→ P. 214)		クルーズコントロールセット表示灯 (→ P. 233, 237)
	アダプティブハイビームシステム表示灯 (→ P. 217)		クルーズコントロール表示灯 (→ P. 233, 237)
	フロントフォグランプ表示灯 (→ P. 224)		レーダークルーズコントロール表示灯★ (→ P. 237)
	リヤフォグランプ表示灯★ (→ P. 224)		LKA (レーンキーピングアシスト) 表示灯★ (→ P. 251)
	EV インジケーター (→ P. 67)		※ ¹ エアサスペンション HIGH 表示灯 (→ P. 262)
	EV ドライブモード表示灯 (→ P. 198)		※ ¹ スリップ表示灯 (→ P. 264) (点滅)
	READY インジケーター (→ P. 193)		※ ¹ VSC (ビークルスタビリティコントロール) OFF 表示灯 (→ P. 265)
	スノーモード表示灯 (→ P. 204)		※ ¹ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 警告灯★ (→ P. 272) (速い点滅)

★：仕様により異なる装備やオプション装備



- ※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- ※² 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
- ・ BSM メインスイッチが ON の状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき
 - ・ パワースイッチが ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき
- システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

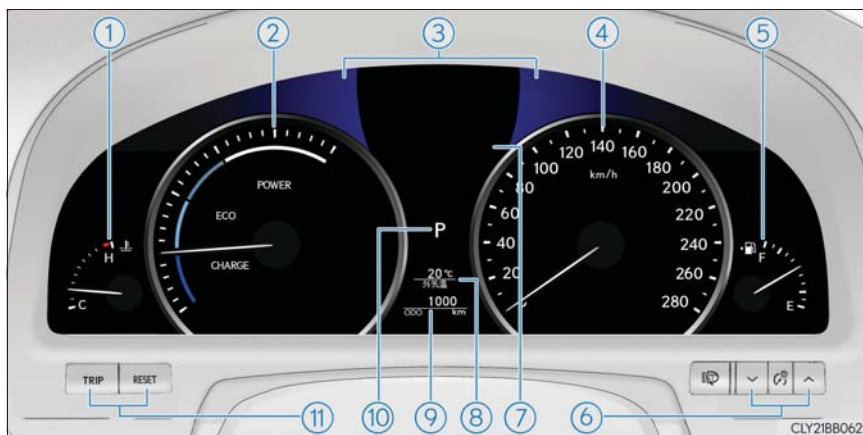


■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類

- ▶ 走行モードがスポーツモード (→ P. 258) 以外のとき



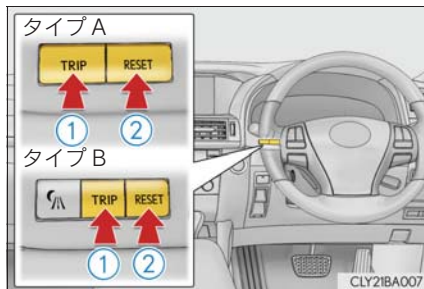
- ▶ 走行モードがスポーツモード (→ P. 258) のとき



- ① 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
- ② ハイブリッドシステムインジケーター
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→ P. 91)
- ③ ECO ランプ (青)・SPORT ランプ (赤)
走行モードや運転状態によって色や明るさがかわります。(→ P. 92)
- ④ スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ⑤ 燃料計
燃料残量を示します。
- ⑥ インストルメントパネル照度調整スイッチ
- ⑦ マルチインフォメーションディスプレイ
走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 93)
- ⑧ 外気温
外気温を -40°C ~ 50°C の間で表示します。
- ⑨ オドメーター／トリップメーター
オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けことができます。
- ⑩ シフトポジション・シフトレンジ表示
選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 201)
- ⑪ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットスイッチ
- ⑫ タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

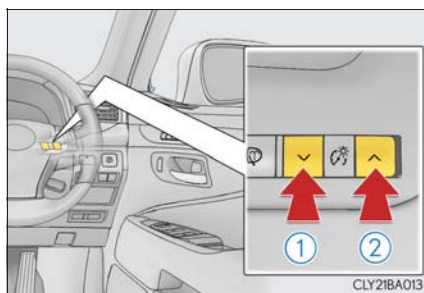
- ① 表示を切りかえる
- ② 表示中のトリップメーターの走行距離を0にもどす



インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

- ① 暗くする
- ② 明るくする



知識

■ メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ インストルメントパネルの照度調整について

● メーター：

周囲が明るいときの照度（昼照度）と、周囲が暗いときの照度（夜照度）それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

ただし、昼照度のときに照度調整をすると、昼照度の変更にあわせて夜照度の設定も変わります。

● 時計・温度・スイッチ照明：

照度レベルは、メーターの夜照度と連動しています。

■ 減光制御（夜照度への切りかえ）について

メーター・時計・温度照明は、周囲が暗い状態で車幅灯点灯時のみ夜照度に切りかわります。

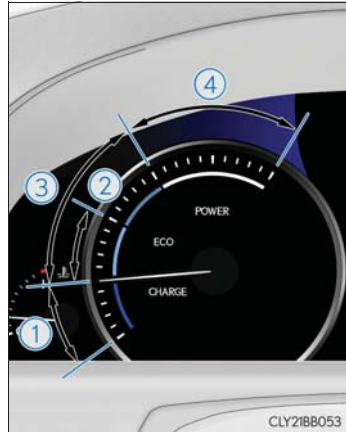
■メーター照度の自動調整について

メーター照度は、周囲の明るさをライトセンサーで感知して自動調整されます。ただし、次の場合メーター照度は自動調整されません。

- 昼照度の場合：手動操作で照度を最も明るくしたとき
- 夜照度の場合：手動操作で照度を最も明るく、または最も暗くしたとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

- ① チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。
- ② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。
- ③ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。
- ④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。



- 走行モードがスポーツモード以外の際に表示されます。
- インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- チャージエリアは、回生[※]状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■ ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件について

- 次の条件を満たして走行しているとき、ECO ランプ（青）が点灯します。（より環境に配慮した運転状態であるほど ECO ランプが明るくなり、非エコ運転の範囲に近づくほど暗くなります。（→ P. 91）また、停車時やエコ運転の範囲をこえた状態では消灯します。ただし、エコドライブモード選択時は、停車時やエコ運転の範囲をこえた状態でも消灯しません）
 - ・ シフトレバーが D にあるとき
 - ・ パドルシフトスイッチ★を操作していないとき
 - ・ 走行モードがノーマルモード、コンフォートモードまたはエコドライブモードで、EV ドライブモードまたはスノーモードを使用していないとき
 - ・ 車速が約 100km/h 以下のとき
- 走行モードがスポーツモードのときは、SPORT ランプ（赤）が点灯します。

■ タコメーターについて

走行モードがスポーツモードのとき、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■ カスタマイズ機能

ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 461）

注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 445）

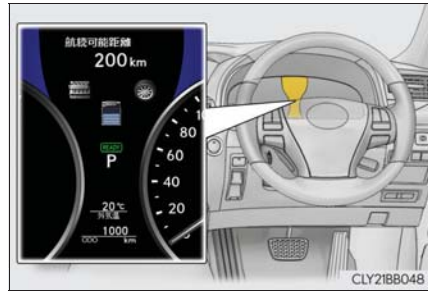
★：仕様により異なる装備やオプション装備

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関するさまざまな情報を表示します。

- トリップインフォメーション
(→ P. 94)
航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。
 - ドライブモニター (→ P. 96)
給油後平均燃費か航続可能距離のどちらかを表示します。
 - クリアランスソナー表示※
(→別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)
 - レーダークルーズコントロール表示★※ (→ P. 237)
 - LKA (レーンキーピングアシスト) 表示★※ (→ P. 252)
 - 警告メッセージ (→ P. 403)
各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。(→ P. 94)
- ※ システム使用時に自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。(→ P. 94)



トリップインフォメーション

■ 表示の切りかえ

DISPスイッチを押すごとに切りかわります。

ドライブモニターで表示中の情報は、トリップインフォメーション画面では表示されません。



■ エネルギーモニター

→ P. 102

■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
 - ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 給油の際はパワースイッチを OFF にしてください。
万一、パワースイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

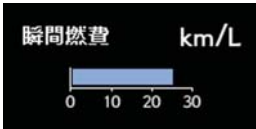
■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。
ナビゲーション画面の区間燃費画面も更新されます。(→P. 105)
- ・表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費



給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 給油後走行距離



給油をしてからの走行距離を表示します。

■ 走行時間



リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。

■ 平均車速



リセットしてからの平均車速を表示します。

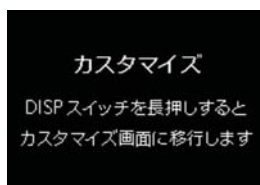
リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。

■ タイヤ空気圧



タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

■ カスタマイズ



マルチインフォメーションディスプレイの設定を変更できます。(→P. 97)

ドライブモニター

給油後平均燃費・航続可能距離のどちらかを選択して表示させることができます。

ドライブモニターに表示させると、他の走行に関する情報や自動表示される警告メッセージと同時に表示させることができます。

表示・選択方法は、「ディスプレイの設定変更」を参照してください。

ドライブモニターで表示中の情報は、トリップインフォメーション画面では表示されません。



ディスプレイの設定変更

- 1 停車した状態で、「カスタマイズ」画面が表示されるまでDISPスイッチを押す



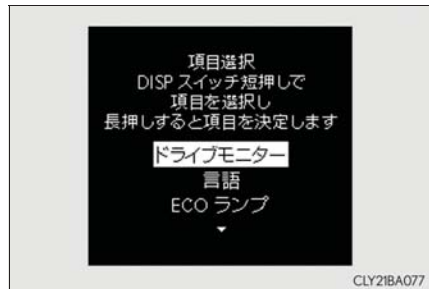
- 2 設定項目の選択画面が表示されるまでDISPスイッチを押し続ける



- 3 設定変更を行う項目を選択し、DISPスイッチを押し続ける

DISPスイッチを押すたびに、カーソルが次の項目へ移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISPスイッチを押し続けると、その項目の設定画面が表示されます。



4 設定を変更する

DISP スイッチを押すとカーソルが移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP スイッチを押し続けると、設定が変更され、手順 **3** の画面にもどります。

**5** 「戻る」を選択して DISP スイッチを押し続ける

手順 **1** の画面にもどります。



 知識**■ システムチェック表示**

パワースイッチを ON モードにしたとき、「SYSTEM CHECK」と表示されます。

■ タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチを ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで2、3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで2、3分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 航続可能距離
- 平均燃費
- 給油後平均燃費
- 給油後走行距離
- 走行時間
- 平均車速

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 461)

 警告**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

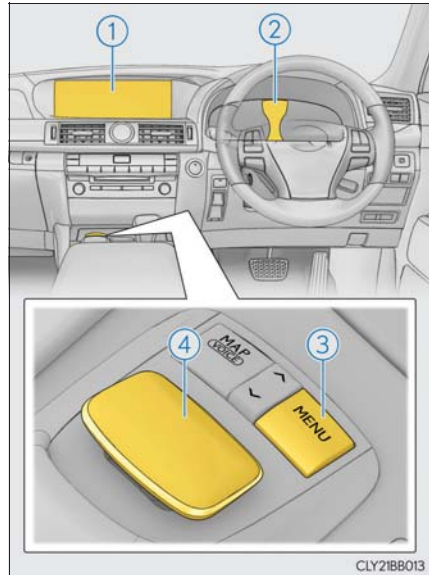
 注意**■ ディスプレイの設定を変更するとき**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面／Harmonious Driving Navi. 画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。

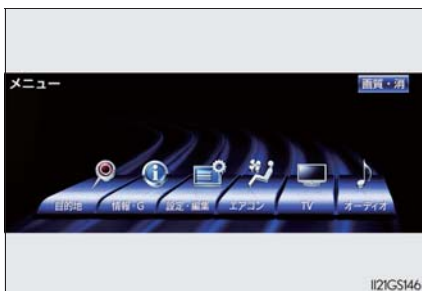
- ① ナビゲーション画面
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
- ③ MENU ボタン
- ④ リモートタッチノブ



エネルギーモニターの見方

■ ナビゲーション画面表示

- 1 リモートタッチの MENU ボタンを押してメニュー画面を表示させる
- 2 「情報・G」を選択する



- 3 「エコ情報」を選択する

燃費画面またはHarmonious Driving Navi. 画面が表示されたときは、「エネルギー」を選択します。


















エネルギーモニターは、サイド画面にも表示することができます。別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイ表示

DISPスイッチを押してエネルギーモニターを表示させる



	ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ
電気のエネルギーで走行しているとき	 <p>エネルギーモニター エンジン モーター CLAZ18B054</p>	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	 <p>エネルギーモニター エンジン モーター CLAZ18B055</p>	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	 <p>エネルギーモニター エンジン モーター CLAZ18B056</p>	
駆動用電池に充電しているとき	 <p>エネルギーモニター エンジン モーター CLAZ18B057</p>	
	 <p>エネルギーモニター エンジン モーター CLAZ18B058</p>	
エネルギーの流れがないとき	 <p>エネルギーモニター エンジン モーター CLAZ18B059</p>	
駆動用電池の残量表示	<p>少ない 多い</p>  <p>⇔</p> 	<p>少ない 多い</p>  <p>⇔</p> 

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費画面の見方

燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

- 1 リモートタッチのMENU ボタンを押し、「情報・G」を選択する
- 2 情報画面の「エコ情報」を選択する
- 3 エネルギーモニターまたは Harmonious Driving Navi. 画面が表示されたときは、「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。

- 1 履歴消去
- 2 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)
- 3 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

■マーク1つが 30Wh です。

- 4 ハイブリッドシステム始動後平均車速
- 5 ハイブリッドシステム始動後走行時間
- 6 航続可能距離 (→ P. 107)

平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。

- ① 平均燃費更新
- ② 履歴消去
- ③ 最高燃費表示
- ④ 平均燃費表示
- ⑤ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからと平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



Harmonious Driving Navi. 画面の見方

- ① リモートタッチのMENU ボタンを押し、「情報・G」を選択する
- ② 情報画面の「エコ情報」を選択する
- ③ エネルギーモニターまたは燃費画面が表示されたときは、「Driving Navi.」を選択する



- ① ステータス／ポイント表示※

エコ運転の採点結果や走行情報を G-BOOK センターに送信し、計算されたデータをもとにポイントやステータスを表示します。

ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

③ エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

⑤ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ[※]

走行情報などを G-BOOK センターへ送信し、ステータス/ポイント表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO² 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

- ・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

- ・ エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

[※] G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

 知識**■過去の区間平均燃費の記録を更新するには**

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■G-BOOK センターへ送信する走行情報について

G-BOOK センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費等とは一致しないことがあります。

■Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

各部の操作

3

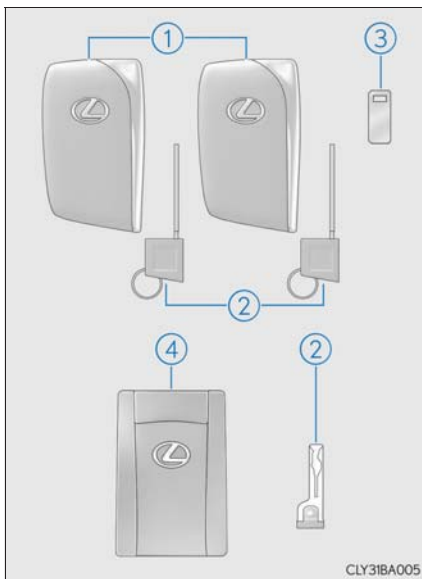
3-1. キー	
キー	110
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
スマートエントリー& スタートシステム	116
ワイヤレスリモコン	126
ドア	128
トランク	133
3-3. シートの調整	
フロントシート	140
パワーリヤシート	147
ドライビングポジション メモリー	158
リヤシートポジション メモリー	163
ヘッドレスト	165
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	169
インナーミラー	170
ドアミラー	172
3-5. ドアガラス・ ムーンルーフの開閉	
パワーウインドウ	175
ムーンルーフ	178

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 116)
 - ・ ワイヤレス機能の作動 (→ P. 126)
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート
- ④ カードキー
スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→ P. 116)



メカニカルキーを使うには

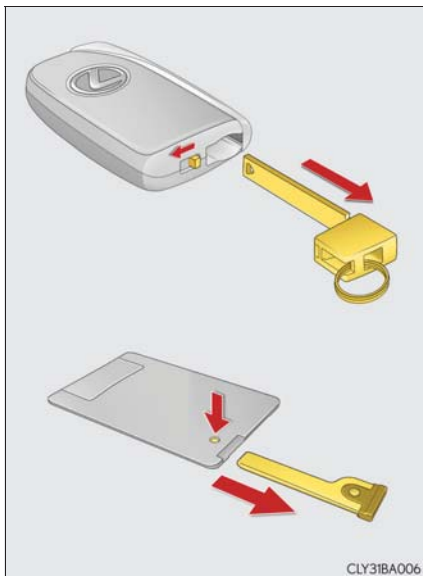
メカニカルキーを取り出すには、次の操作を行ってください。

電子キー：解錠レバーをスライドしてキーを取り出す

カードキー：解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 439)



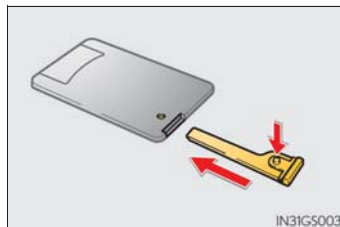
 知識

■ 電子キーについて

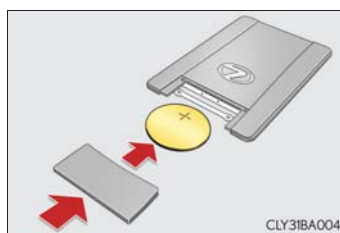
- 電子キーは一部本革を使用しています。お手入れについては P. 357 を参照してください。
- 金属部分をお手入れする際は、真水をひたした布を固くしぼり、表面の汚れをふき取ってください。
- 長期間使用しないときは、汚れを落としてから、直射日光や室内灯などの光が当たらない常温・常湿の場所に保管してください。

■ カードキーについて

- カードキーは非防水です。
- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。(→ P. 134, 313)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キー取り扱いの注意

- 本革部分の劣化・変形・損傷をさけるために、次のことをお守りください。
 - ・ 他の鍵やアクセサリーなどの硬いものと同時に携帯しない
 - ・ 直射日光や室内灯に長時間さらさないようにする
 - ・ ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものの上に置かない
高温になると革が張り付くおそれがあります。
 - ・ めらさない
万一ぬれてしまったときは、やわらかい布でふき取り陰干ししてください。
 - ・ 油脂や薬品・ハンドクリーム・香水が付着した手でさわらない
 - ・ お手入れの際、皮革クリーナー・溶剤・皮革補修剤を使用しない
- 本革部分は染色してあるため、汗や水分が付着していると衣類へ色移りするおそれがあります。
- 電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
 - ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - ・ 必ず日本国内でご使用下さい。

 注意**■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき**

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

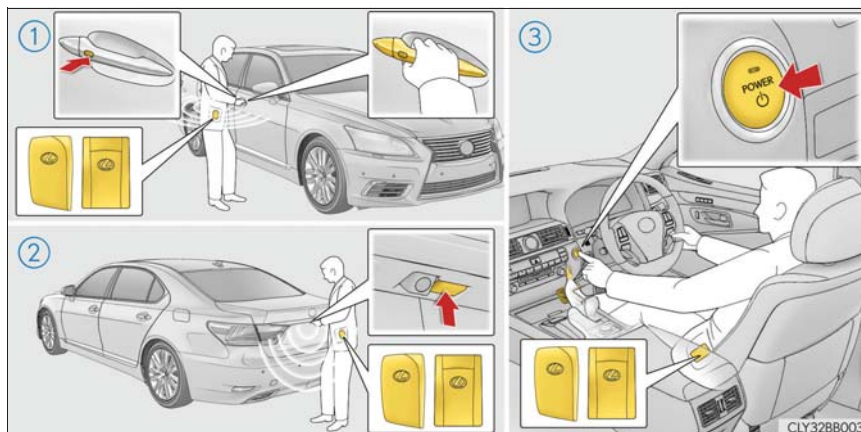
■ カードキーの取り扱いについて

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

スマートエントリー&スタートシステム

機能概要

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



- ① ドアを解錠・施錠する（→ P. 117）
- ② トランクを開ける（→ P. 117）
- ③ ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 193）

知識

■ 作動の合図

ドア：

ブザーと非常点滅灯で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：

ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：

ブザーで知らせます。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

ドアの解錠・施錠

ハンドルを握って解錠する

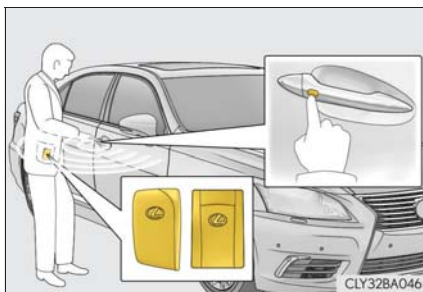
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

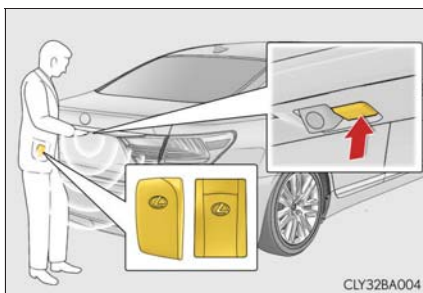
長押しするとドアガラスが閉まります。ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。



トランクを開ける

スイッチを押す

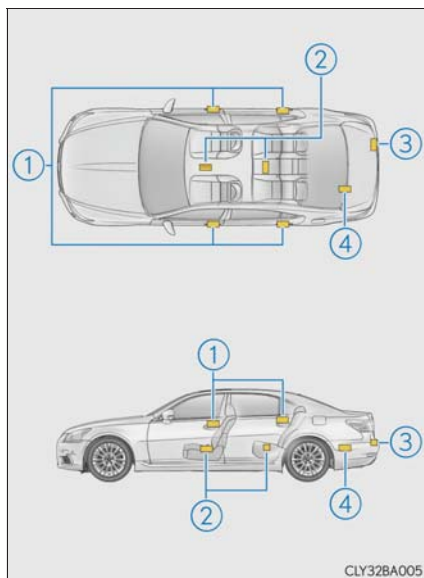
パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。



アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車内アンテナ
- ③ トランク外アンテナ
- ④ トランク内アンテナ



CLY32BA005

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

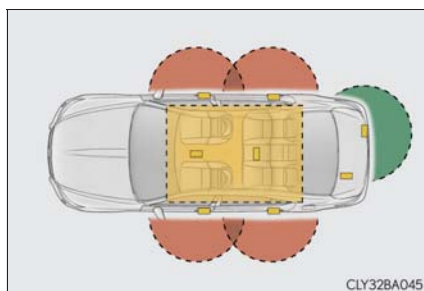


：トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。



：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



CLY32BA045

 知識

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。次にしながい適切に対処してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と2秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出したあと、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と60秒間鳴る	パワースイッチをOFFにせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	パワースイッチをOFFにしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリモードにした(アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた)	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。
車内から“ピー”と鳴り続ける※1	パワースイッチがONモードまたはアクセサリモードのとき、シフトレバーをP以外の位置にしたままドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーをPに入れ、パワースイッチをOFFにしてください。




警告音	状況	対処方法
車内・車外から“ピー”と鳴り続ける※ ¹	パワースイッチがONモードまたはアクセサリモードのとき、シフトレバーをP以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを開めた	シフトレバーをPに入れ、パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
車内から“ポーン”と1回鳴る※ ¹	電子キーの電池が残り少ない	電子キーの電池を交換してください。
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした。	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動してください。※ ²
車内から“ポーン”と1回鳴る 車外から“ピー、ピー、ピー”と3回鳴る※ ¹	パワースイッチをOFFにせず電子キーを外に持ち出して運転席ドアを開めた	パワースイッチをOFFにしたあと、再度運転席ドアを閉めてください。
	パワースイッチがOFFになっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを開めた	キーを車内に戻してください。

※¹ メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。


※² 電子キーが車内にあってもハイブリッドシステムが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 122)


■ 解錠ドアの切りかえ機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 オートアラームの侵入センサーを停止する
(操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 80)
- 3  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
	握ったドアハンドル側の前後席を解錠	車外：“ピピッ” (4 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	握ったドアハンドルのドアのみ解錠	車外：“ピピッ” (1 回) 車内：“ポーン” (1 回)
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)

オートアラームの誤作動防止のため、設定切りかえ後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→ P. 77)

■ 節電機能

電子キーの電池と車の補機バッテリー保護のため、次の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 1ヶ月以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

- 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかをおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- 電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する (→P. 126)
- メカニカルキーで施錠・解錠する (→P. 439)

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法: → P. 439)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ ご注意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ トランクを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・ ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠をおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します。）
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■ 長期間運転しないとき

盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

■ オートアラームについて

スマートエントリー&スタートシステムで施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 77)

■ システムを正しく作動させるために

● 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。 : → P. 119)

● トランク内に電子キーを置かないでください。

電子キーの場所 (応急用タイヤ★付近、トランク内側の端)、状況 (金属製のかばんの中、金属製のものの付近など)、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。(→ P. 135)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

● ドア・トランクの施錠・解錠 : → P. 439

● ハイブリッドシステムの始動 : → P. 440

■ 電池の消耗について

● 電池の標準的な寿命は 1 ~ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します)

● 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを始動または停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→ P. 119)

● 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 376)

● 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電池が切れたとき

→ P. 376

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 459)

警告

■ 電波がおよぼす影響について

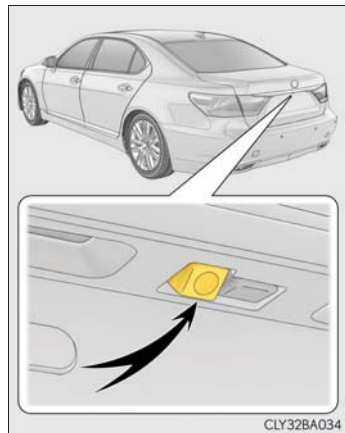
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 118）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■ トランクを開けるとき

誤ってバックガイドモニターのカメラを押さないでください。
強い衝撃を与えると、カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。



ワイヤレスリモコン

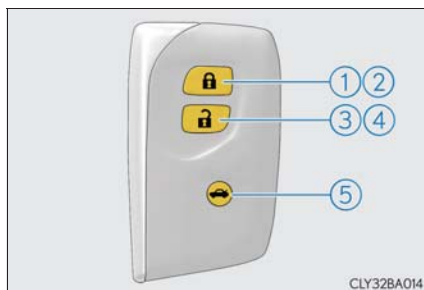
機能概要

ドアを施錠・解錠、トランクを開錠できます。

- ① 全ドアを施錠する
- ② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める（押し続ける）※
- ③ 全ドアを解錠する
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く（押し続ける）※
- ⑤ トランクを開ける（押し続ける）

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 459）



★：仕様により異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動の合図

ドア：

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

トランク：

ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ★：

ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする時、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。)

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 116

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。(→ P. 77)

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 122

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 439

■ 電池の消耗について

→ P. 124

■ 電池が切れたとき

→ P. 376

■ カスタマイズ機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 459)

ドア

ドアの解錠／施錠

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能・ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

◆ スマートエントリー&スタートシステム

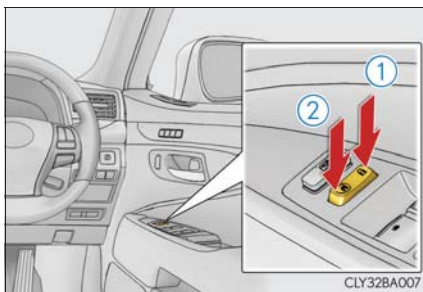
→ P. 116

◆ ワイヤレス機能

→ P. 126

◆ ドアロックスイッチ

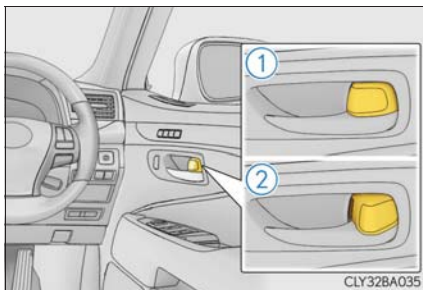
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

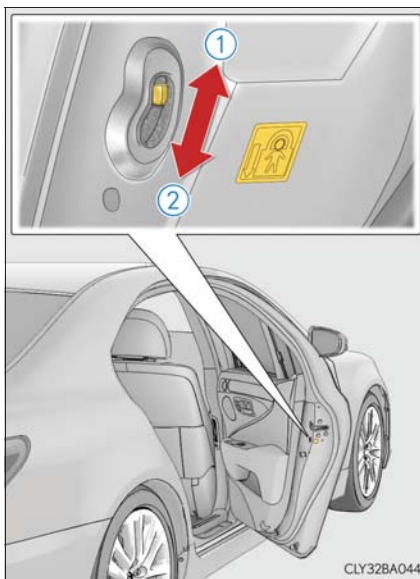
- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 459 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。)
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■ メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 439)

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 459)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

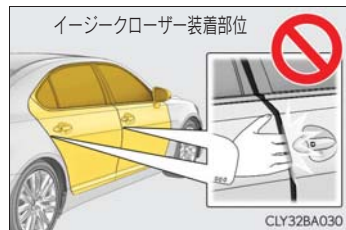
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■イージークローザーについて

- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。指などを挟まないよう十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。



 注意**■ イージークローザーの故障を防ぐために**

ひんぱんにドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

トランク

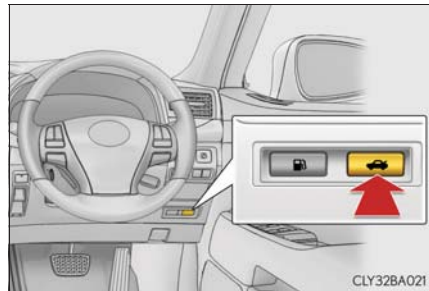
トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

パワートランクリッド装着車は、トランククローザーで閉めることもできます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す

パワートランクリッド装着車は、自動で全開します。



車外からトランクを開ける

- スマートエントリー&スタートシステム
→ P. 116
- ワイヤレスリモコン
→ P. 126

トランクローザー（パワートランクリッド装着車）

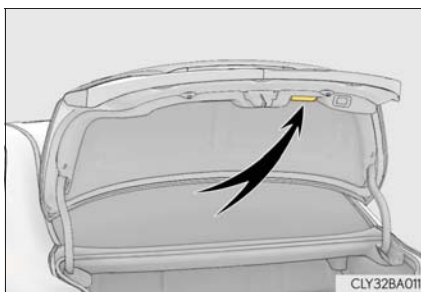
スイッチを押すとブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。



トランクを閉めるとき

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



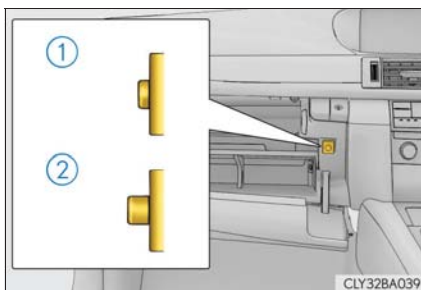
トランクオープナーを一時的に無効にする

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチをOFFにする

- ① ON
- ② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。



 知識**■ トランクリッドランプ／トランクランプ**

トランクを開けたとき、トランクリッドランプ／トランクランプが点灯します。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

- パワースイッチがOFFになっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）

トランク内に電子キーを置いたままトランクリッドを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクリッドの解除スイッチで開けられます。

■ 過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■ 落下防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ 挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクが閉まる途中でトランクリッドが異物を挟むと、作動が停止して開きます。

■ メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→ P. 440）

■ 駐車場などでキーを預けるときは

→ P. 112

 **警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■ トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ イージークローザーについて

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。

また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 **警告****■ パワートランクリッドについて（パワートランクリッド装着車）**

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ ハイブリッドシステム停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- トランクリッドにレクスス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

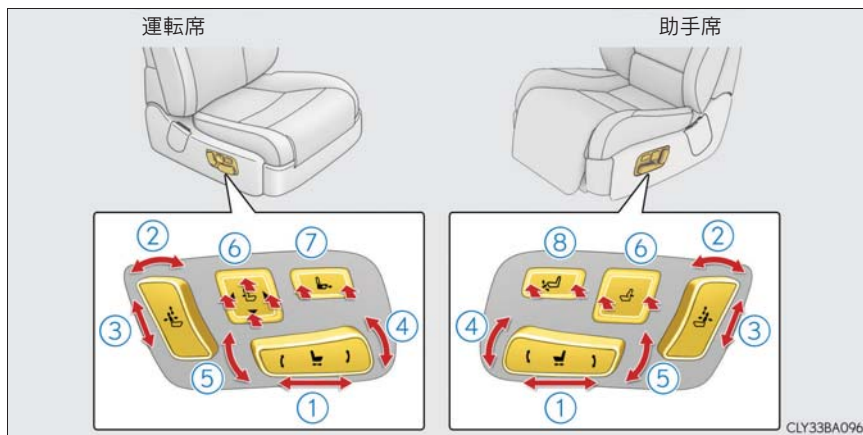
イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

■ パワートランクリッドの故障を防ぐために（パワートランクリッド装着車）

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

フロントシート

調整のしかた



① 前後位置調整

運転席はシートの動きに合わせてヘッドレストの高さも自動で上下します。

② リクライニング調整

③ ヘッドレストの上下調整 (→ P. 165)

④ クッション前端の上下調整

⑤ シート全体の上下調整

⑥ 腰部位置調整 (ランバー／ペルビックサポート)

運転席：硬さ・前後・上下の調整

助手席：硬さと前後調整★

⑦ クッションの長さ調整★

⑧ オットマン角度調整★

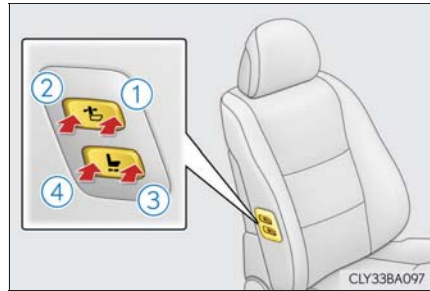
オットマンを上げたまま前方へ位置調整を行うとオットマンが下に作動します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

運転席からの助手席操作について

▶ パワーリヤシート非装着車

- ① シートバックを前に傾ける
- ② シートバックをうしろに傾ける
- ③ シートを前方に動かす
- ④ シートを後方に動かす

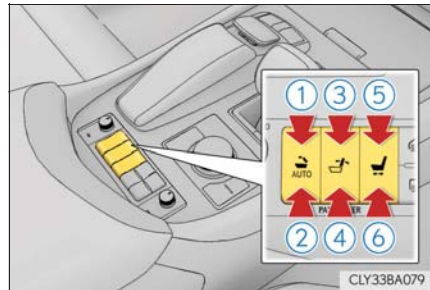


▶ パワーリヤシート装着車

- ① シートバックを前に傾け、シートを前方に動かす
- ② シートバックをうしろに傾け、シートを後方に動かす

リヤシートが中立位置でない場合、1度スイッチを押すとリヤシートが中立位置に戻ります。もう1度スイッチを押すと助手席が中立位置に戻ります。

- ③ シートバックを前に傾ける
- ④ シートバックをうしろに傾ける
- ⑤ シートを前方に動かす
- ⑥ シートを後方に動かす



リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート非装着車）★

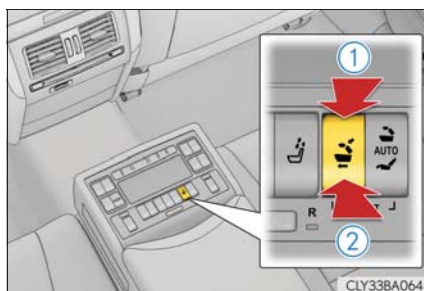
- ① 助手席を前へ移動
 前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。
- ② 助手席をうしろへ移動
 ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。



リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート装着車）

▶ 5人乗り

- ① 助手席を前へ移動
 前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。
- ② 助手席をうしろへ移動
 ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。



▶ 4人乗り

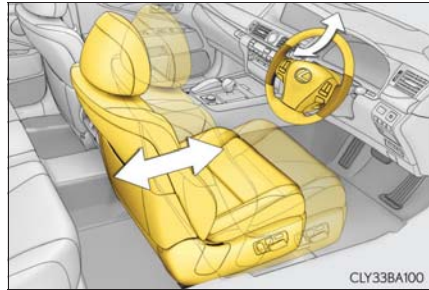
- ① 助手席を前へ移動
 前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。
- ② 助手席をうしろへ移動
 ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

パワーイージーアクセスシステム

運転者・助手席乗員が乗り降りしやすいよう、乗降時にオートアウェイ機能／オートリターン機能が作動します。



■ 降車時のオートアウェイ機能

▶ 運転席

次のすべての操作を行ったとき、ハンドルが最前方・最上段に、運転席が後方にそれぞれ移動します。

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ パワースイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

▶ 助手席

助手席シートの腰部位置（ランバー／ペルビックサポート）★やオットマン★などを調整をした場合、停車中に助手席ドアを開けると、降車しやすいよう、助手席がもとの状態にもどります。

■ 乗車時のオートリターン機能（運転席）

次のいずれかの操作を行ったとき、ハンドルが手前に、運転席が前方にそれぞれ移動します。

- ・ パワースイッチをアクセサリモードにする
- ・ シートベルトを着用する

★：仕様により異なる装備やオプション装備

 知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

- 降車時に、シートの位置が最後方付近にあると、オートアウェイ機能が作動しない場合があります。
- オートアウェイ機能作動中にシート位置を調整すると、作動が停止します。
- オートアウェイ機能作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にオートリターン機能は作動しません。

■ 可倒式ヘッドレスト★の作動について

- パワースイッチが ON モードのとき、助手席側面または、センターコンソール上のシートリクライニングスイッチの操作にあわせてヘッドレストが次のように作動します。
 - ・ 前方ヘリクライニング時：
リクライニング作動後、ヘッドレストが上昇したのち前倒しになり、作動が完了するとブザーが鳴ります。作動の途中でスイッチから手をはなすと、ヘッドレストは中立位置に戻ります。
 - ・ 後方ヘリクライニング時：
ヘッドレストが前倒しになっていると、中立位置まで戻ります。
- 次の場合、シートリクライニングスイッチを操作してもヘッドレストは作動しません。
 - ・ パワースイッチが OFF のとき
 - ・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知しているとき
 - ・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
 - ・ 助手席ドアが開いているとき

■ リヤ席からの助手席操作について

パワースイッチが ON モードのとき使用できます。ただし次の場合は、スイッチを操作しても助手席が作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

■ 運転席クッション長さの自動調整★

運転席を前方に調整しているとき、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動的にクッションが短くなるよう調整します。

■ シート作動の自動停止（リラクゼーションシート装着車）

シート操作時やオートアウェイ機能作動時に、フロントシートがテーブル（4人乗り）またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。（マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

警告**■ シートを調整するとき**

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。
足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■ 前後調整や助手席オットマン★の操作をするとき

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

 警告**■ 助手席オットマンの使用について（助手席オットマン装着車）**

- 走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 助手席オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 助手席オットマンの上には絶対に乗らないでください。
助手席オットマンが破損し、転倒などして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際は助手席オットマンを格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

 注意**■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について**

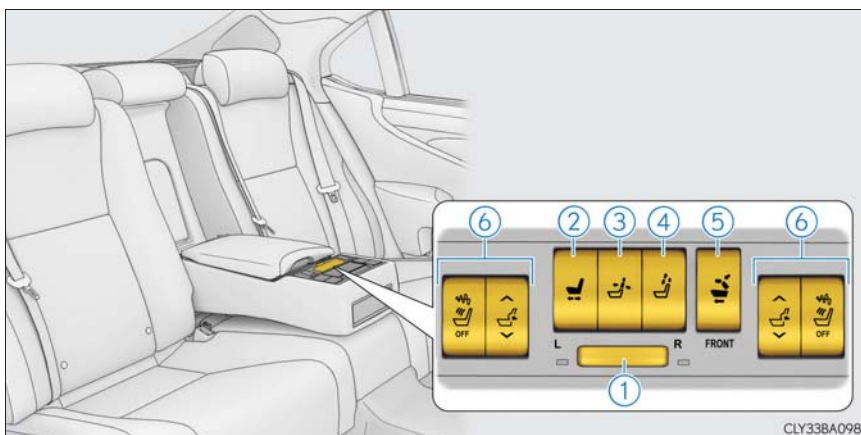
操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■ 助手席オットマンの故障を防ぐために（助手席オットマン装着車）

- 足元のスペースを確保し助手席オットマンの作動を妨げないようにしてください。
- 助手席オットマン部分に重いものを乗せないでください。
- 助手席オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

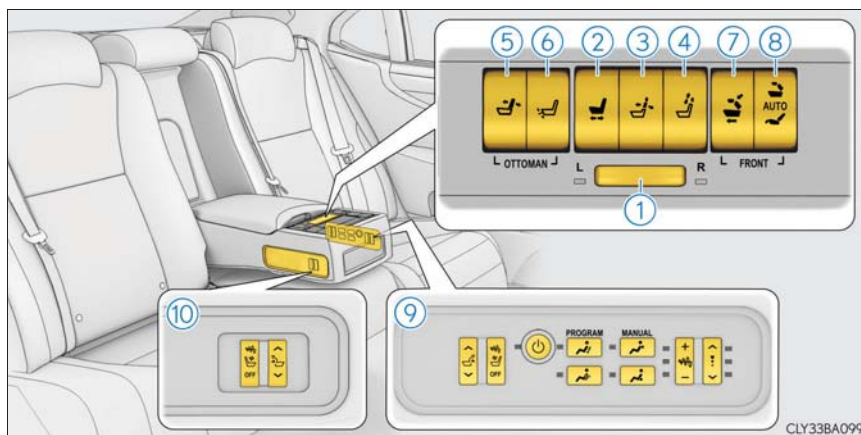
パワーリヤシート★

- ▶ 5人乗り（リラクゼーションシート非装着車）



- ① シート選択
調整できるシートのインジケーターが点灯します。
- ② 前後位置調整
- ③ 背もたれ上部角度調整
- ④ ヘッドレスト高さ調整（→P. 165）
- ⑤ 助手席コントロールスイッチ（→P. 142）
- ⑥ ペルビックサポートシートスイッチ

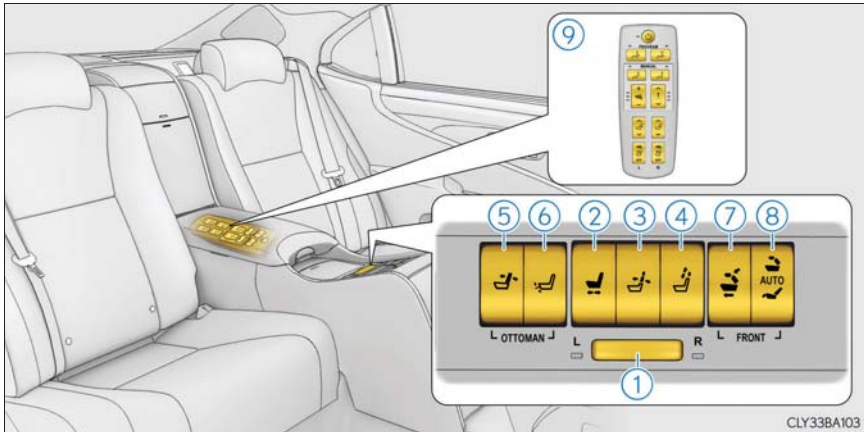
▶ 5人乗り（リラクゼーションシート装着車）



リヤ左席（助手席うしろ側の席）には、リクライニング機能とオットマン（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

- ① シート選択
調整できるシートのインジケーターが点灯します。
- ② 前後位置調整
- ③ 背もたれ上部角度調整
- ④ ヘッドレスト高さ調整（→P. 165）
- ⑤ リクライニング調整
- ⑥ オットマン（フットレスト）角度調整
- ⑦ 助手席コントロールスイッチ（→P. 142）
- ⑧ リラクゼーションモードスイッチ
- ⑨ リヤシートリラクゼーションシステム/ペルビックサポートシートスイッチ
- ⑩ ペルビックサポートシートスイッチ

▶ 4人乗り



リヤ左席（助手席うしろ側の席）には、リクライニング機能とオットマン（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

① シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

② 前後位置調整

③ 背もたれ上部角度調整

④ ヘッドレスト高さ調整（→P. 165）

⑤ リクライニング調整

⑥ オットマン（フットレスト）角度調整

⑦ 助手席コントロールスイッチ（→P. 142）

⑧ リラクゼーションモードスイッチ

⑨ リヤシートリラクゼーションシステム/ペルビックサポートシートリモコン

ドア連動シートリターン機能

ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

フロント席からリヤシートを戻す

ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へ戻ります。



リラクゼーションモード（リラクゼーションシート装着車）

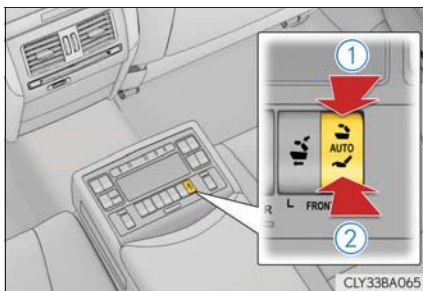
スイッチ操作で、シートをリラクゼーションモードにすることができます。助手席が前へ移動し、リヤ左席の背もたれとアウトマンが同時に作動します。

▶ 5人乗り

スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

- ① リラクゼーションモードにする
- ② 中立位置に戻す

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。

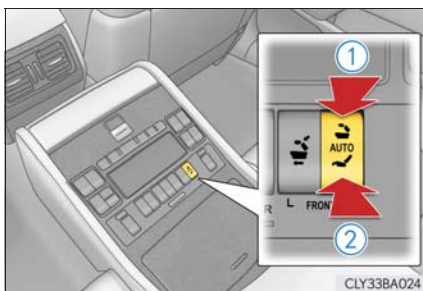


▶ 4人乗り

スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

- ① リラクゼーションモードにする
- ② 中立位置に戻す

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。





ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）

腰部のサポート機能にバイブレーターを備えたペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）が左右席に装備されています。腰位置に内蔵されたサポートボードの前後位置とバイブレーターの速度をお好みにより調整することができます。

- ▶ 5人乗り（リラクゼーションシート非装着車）

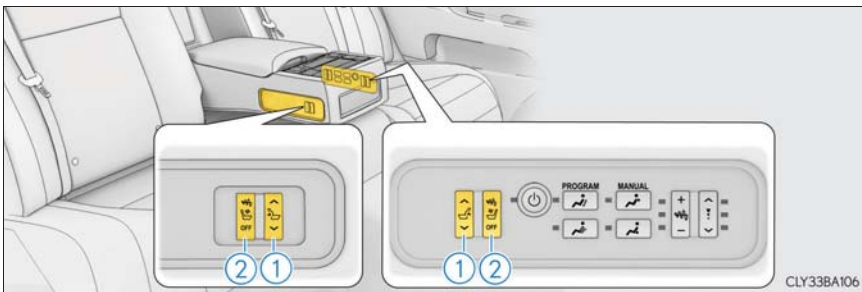


- ① 前後調整スイッチ
- ② バイブレータースイッチ



 を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。 を押すごとに、バイブレーターの速度を3段階で調整することができます。

OFF を押すとバイブレーターが停止します。

- ▶ 5人乗り（リラクゼーションシート装着車）





- ① 前後位置調整スイッチ
- ② バイブレータースイッチ

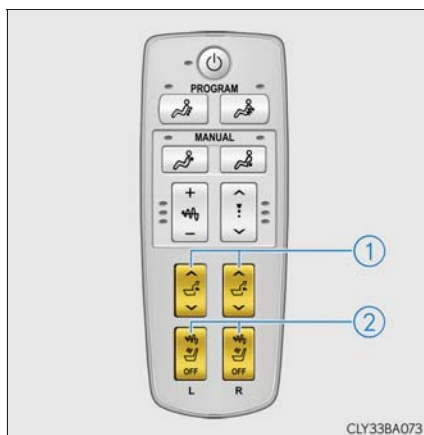
 を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。 を押すごとに、バイブレーターの速度を3段階で調整することができます。

OFF を押すとバイブレーターが停止します。

▶ 4 人乗り

- ① 前後位置調整スイッチ
- ② バイブレータースイッチ

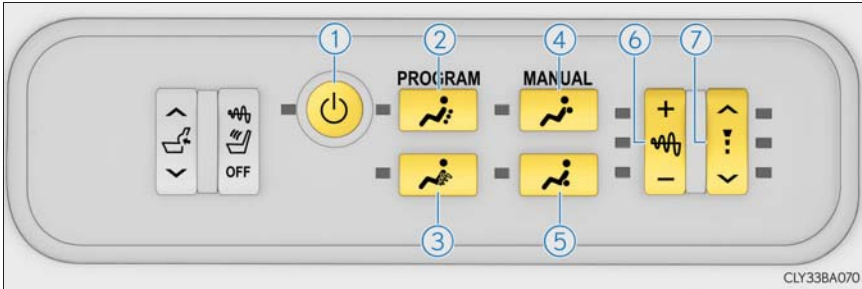
 を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。 を押すごとに、バイブレーターの速度を 3 段階で調整することができます。OFF を押すとバイブレーターが停止します。



リヤシートリラクゼーションシステム（リラクゼーションシート装着車）

エアの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが左席（助手席うしろ側の席）に装備されています。作動の強さ、速度をお好みにより調整することができます。

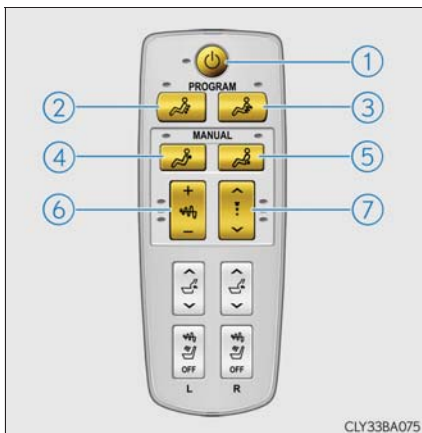
▶ 5人乗り



- | | |
|--|-------------------------------|
| ① システムの ON/OFF、各作動の停止
約3分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的にシステムが OFF になります。 | ④ 肩部の作動を開始 |
| ② リフレッシュの自動コースを開始
背中全体へ部分的に作動します。 | ⑤ 腰部の作動を開始 |
| ③ ストレッチの自動コースを開始
腰部中心に作動をします。 | ⑥ 作動の強さ調整
3段階で調整することができます。 |
| | ⑦ 作動の速度調整
3段階で調整することができます。 |

▶ 4 人乗り

- ① システムのON/OFF、各作動の停止
約 3 分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的にシステムが OFF になります。
- ② リフレッシュの自動コースを開始
背中全体へ部分的に作動します。
- ③ ストレッチの自動コースを開始
腰部中心に作動をします。
- ④ 肩部の作動を開始
- ⑤ 腰部の作動を開始
- ⑥ 作動の強さ調整
3 段階で調整することができます。
- ⑦ 作動の速度調整
3 段階で調整することができます。



 知識

■ ドア連動シートリターン機能について

● 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

● 作動の停止

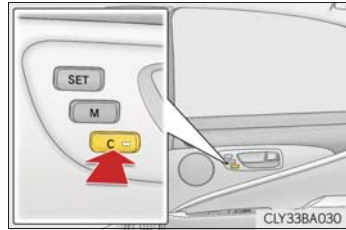
次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- ・ SET・M・C ボタンのいずれかを押す (→ P. 163)
- ・ シート調整スイッチのいずれかを押す

● 機能のキャンセル

C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケータが点灯します。ドアを連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。



● パワースイッチ OFF 後の作動

パワースイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

■ リラクゼーションモードについて (リラクゼーションシート装着車)

● 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき使用できます。ただし次の場合は、スイッチを押しても作動しません。

- ・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
- ・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
- ・ 助手席ドアが開いているときの前方への作動

● パワースイッチ OFF 後の作動

パワースイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、リターン操作でリヤシートを中立位置に戻すことができます。

■ ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）について**● 作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

● 自動停止機能

- ・ バイブレーターの作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。
- ・ バイブレーターは、使用している方のドアを開けると、自動的に停止します。

● リターン機能

サポートプレートは、使用している方のドアを開けると、自動的にもとの位置に戻ります。

■ リヤシートリラクゼーションシステムについて**● 作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

● 自動停止機能

各作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。

 警告

■ パワーシートについて

- シート調整について
背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 前後調整やオットマンの操作をするときは（リラクゼーションシート装着車）
足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。
- フロント席からリヤシートを戻すとき
リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。
- オットマンの使用について（リラクゼーションシート装着車）
 - ・ オットマン部分には座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
 - ・ 走行中は角度調整をしないでください。
 - ・ 格納するときにシートの下に手や足を入れしないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

■ ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）/リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について

- 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。
- お子さまは使用しないでください。
- 食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

 注意

■ オットマンの故障を防ぐために（リラクゼーションシート装着車）

- 足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを載せないでください。
- オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

ドライビングポジションメモリー

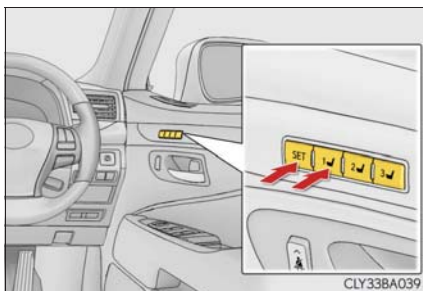
お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度・シートベルトの高さ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

助手席側のスイッチ★は助手席の位置を登録できます。

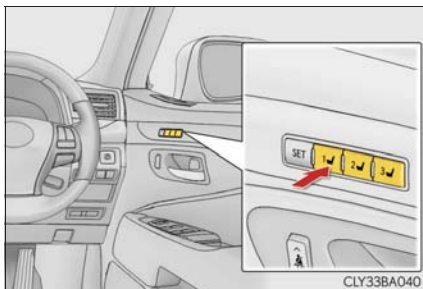
ポジションの登録

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチをONモードにする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・シートベルト高さをお好みの位置に調整する（助手席の位置を記憶させるときは、助手席をお好みの位置に調整する）
- 4 SET ボタンを押したあと3秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



ポジションの呼び出し

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチをONモードにする
- 3 1～3のうち呼び出したいボタンを押す



★：仕様により異なる装備やオプション装備



知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ~ 3 のボタンを押す

呼び出し作動中にシート、ハンドル、ドアミラー角度、シートベルト高さの調整スイッチを操作すると、操作したシステムがマニュアル作動に切り替わります。

■ 助手席のポジションを呼び出すときの作動制限

助手席オットマン装着車：

助手席オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置より下に登録されている場合のみ作動します。

リラクゼーションシート装着車：

後席用テーブル使用時（4人乗り）または、オットマン作動時はポジションの呼び出しができません。

■ 助手席オットマン★の自動調整

ポジションの呼び出し時、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動で助手席オットマンが格納されるよう調整します。

メモリーコール機能（運転席）


ドアの解錠と連動してお好みのポジションを呼び出せます。

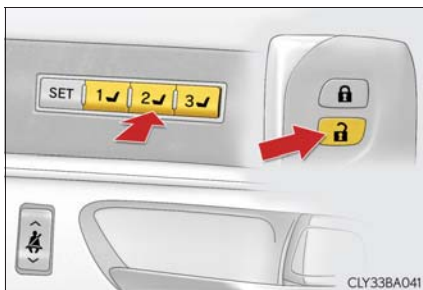
◆ 登録


お好みのポジションをあらかじめ1～3のいずれかのボタンに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

1 パワースイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

2 1～3のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  をブザーが鳴るまで押す。



オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんドアを開閉してください。（ を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）

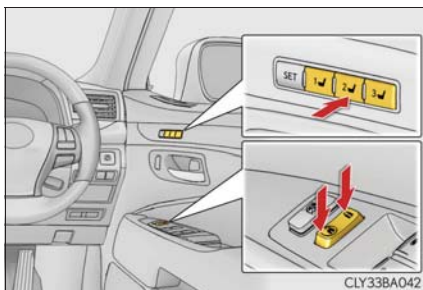
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 77）

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

1 パワースイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。


2 1～3のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。（運転席側・助手席側のどちらか一方でおこなう。）



◆ 呼び出し

- 1 ポジションを登録した電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠する
登録したポジションのオートアウェイ位置が呼び出されます。
- 2 パワースイッチをアクセサリモードにする、またはシートベルトを着用する
オートリターン機能が作動し、登録したポジションが呼び出されます。

◆ 解除

- 1 パワースイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める
- 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：
SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  をブザーが鳴るまで押す
ドアロックスイッチで解除する場合：
SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す



知識

■ ドアの解錠と連動させたとき

運転席ドアを開けると運転席が登録したポジションまで動くように作動しますが、乗車しやすいように登録したポジションより少し後方でいったんシートが止まります。パワースイッチをアクセサリモードまたはシートベルトを装着すると、登録したポジションまでもう一度スライドします。

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席：

パワースイッチを OFF にしたあとでも、運転席ドアを開けて 180 秒以内、または再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならスイッチ操作（1～3）でポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

助手席：

パワースイッチを OFF にしたあとでも、助手席ドアを開けて 180 秒以内ならスイッチ操作（1～3）でポジションの呼び出しができます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置が各シート調整機構の最端部にある状態でさらにその端部方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ シート作動の自動停止（リラクゼーションシート装着車）

シート操作時やオートアウェイ機能作動時に、フロントシートがテーブル（4人乗り）またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。（マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

■ カスタマイズ機能

オートアウェイ機能によるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 459）



警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたりたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

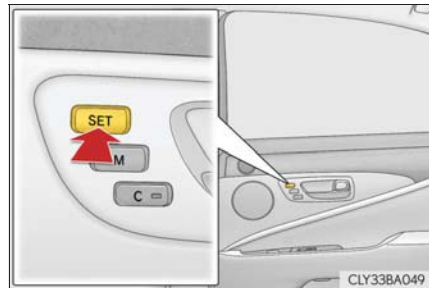
リヤシートポジションメモリー★

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

ポジションの登録

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 リヤ席を好みの位置に調整する
- 3 SET ボタンをブザーが鳴るまで押す

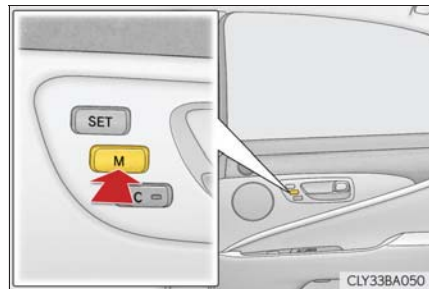
すでに登録されている場合は、上書きされます。



ポジションの呼び出し

M ボタンをブザーが鳴るまで押す

リラクゼーションシート装着車：
オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置よりも下に登録されている場合のみ作動します。

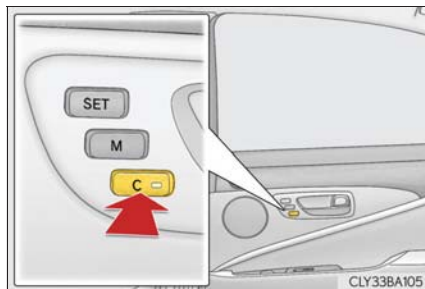


機能のキャンセル

C ボタンを押すと、ポジションの呼び出し作動やドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケーターが点灯します。

機能を復帰させるにはもう一度 C ボタンを押します。



知識

■ ドア連動シートリターン機能について

● 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

● 作動の停止

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- ・ SET・M・C ボタンのいずれかを押す
- ・ シート調整スイッチのいずれかを押す

● パワースイッチ OFF 後の作動

パワースイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

警告

■ シート調整時の警告

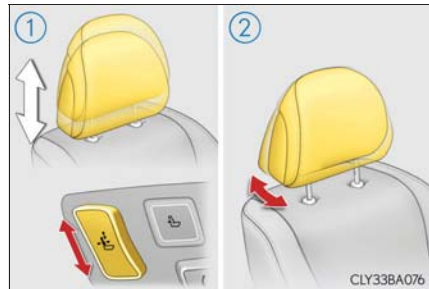
シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

ヘッドレスト

フロント席

- ① 上下調整
- ② 前後調整※

※ 可倒式ヘッドレスト装着車：
運転席のみ調整できます。



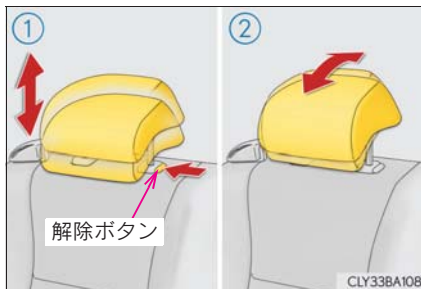
リヤ外側席

▶ 手動式

- ① 上下調整

下げるときは解除ボタンを押しながら調整します。

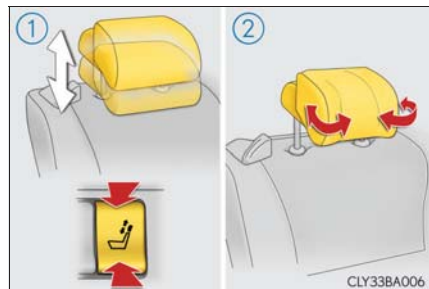
- ② 前後調整



▶ 電動式

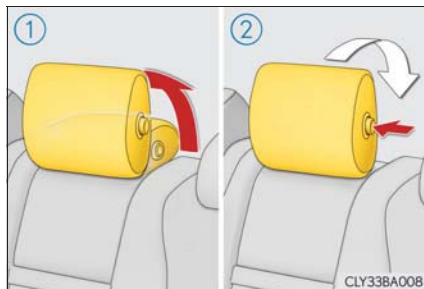
- ① 上下調整

- ② サイドサポート調整



リヤ中央席（5人乗り）

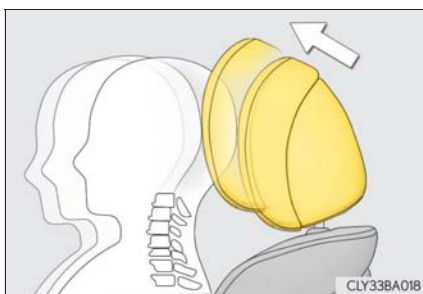
- ① 使用時
- ② 格納時



アクティブヘッドレスト※（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車および可倒式ヘッドレストを除く）

追突の衝撃を車両が感知することで、ヘッドレスト前面が斜め上方に動き、乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

後退時に、後方からの弱い衝撃でも作動する場合があります。



※ フロント席

プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車）

→ P. 280

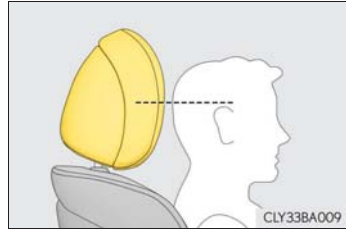
 知識

■ ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

■ ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤ席について

手動式ヘッドレスト：

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

中央席：

リヤ中央席に座るときは、必ずヘッドレストを手前に引き起こしてご使用ください。

■ アクティブヘッドレスト★について

- 助手席に乗員がいないと、助手席のアクティブヘッドレストは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトがバックルに留められている場合は、追突時に乗員がいなくても助手席のアクティブヘッドレストが作動することがあります。
- アクティブヘッドレストが作動すると、ヘッドレスト前面が斜め上方に出たままの状態になるため、作動後は必ずレクサス販売店で修理を受けてください。

 **警告****■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- 手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■ 助手席アクティブヘッドレスト★について

助手席座面には座布団などを敷かないでください。

乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

■ アクティブヘッドレスト★の取り扱い

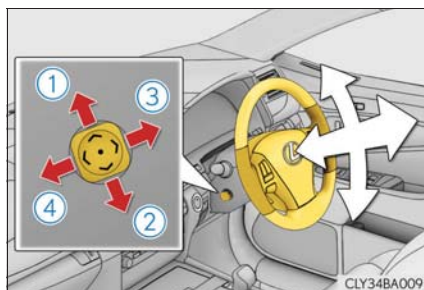
- レクサス純正品以外のヘッドレストカバーをつけないでください。
- アクティブヘッドレストの取りはずしや取り付け、分解、廃棄などは、レクサス販売店にご相談ください。不適切に扱うと、事故の際に正常に作動しなくなるおそれがあります。

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

- ① 上方へ
- ② 下方へ
- ③ 手前へ
- ④ 前方へ



知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整

好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 158)

■ パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→ P. 143)

警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

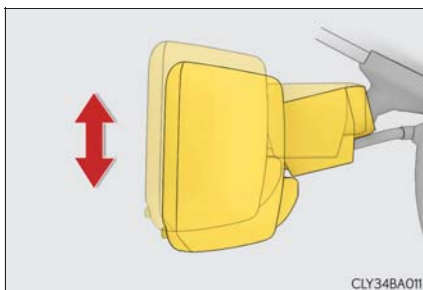
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



自動防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

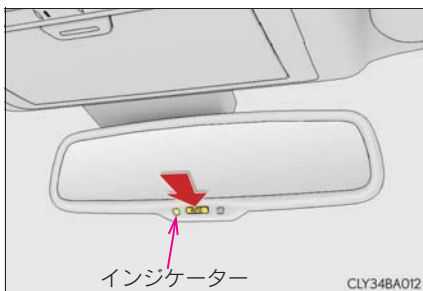
自動防眩機能の切りかえ

ON / OFF

ON のときはインジケータが点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

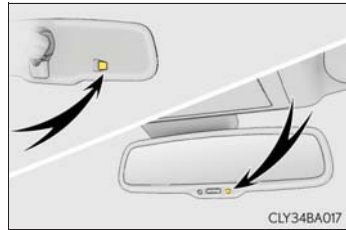
ボタンを押すと OFF になりインジケータが消灯します。



 知識

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないください。

 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ インナーミラーの調整について（LKA [レーンキーピングアシスト] 装着車）

白線認識用カメラの前にかからないようにしてください。
LKAの誤作動につながるおそれがあります。

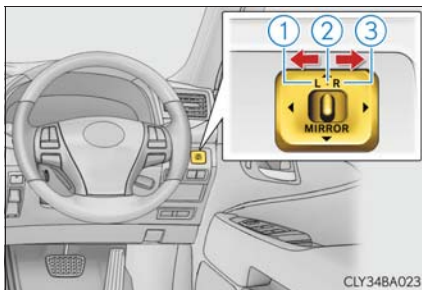


ドアミラー

調整のしかた

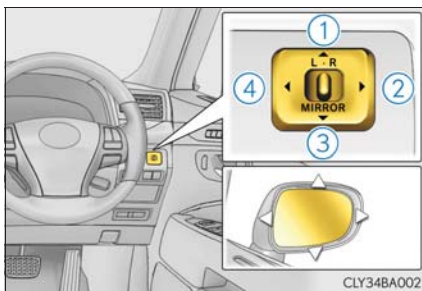
1 調整するミラーを選ぶ

- ① 左
- ② 中立の位置
- ③ 右



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

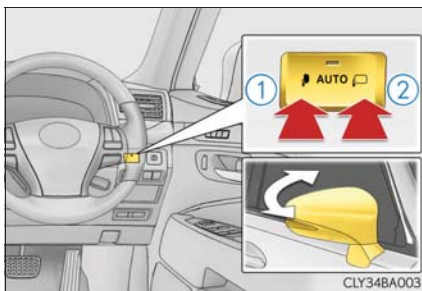
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーの格納・復帰のしかた

■ マニュアル作動

- ① 格納する
- ② もとの位置にもどす

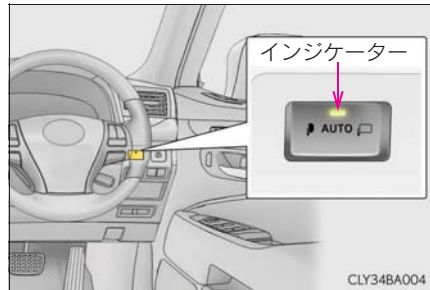


■ オート作動

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

中立の位置 (AUTO) にする

中立の位置 (AUTO) にすると、インジケーターが点灯します。



リバース連動機能

- ミラー選択スイッチがLまたはRの位置になっているときは、後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置(L・Rの間)にしてください。
- リバース連動機能の作動中に鏡面調整スイッチを操作すると、鏡面の角度を変更・記憶することができ、以降のリバース連動作動時には調整後の角度で作動します。
ただし、リバース連動機能が作動していないときの鏡面角度を基準として鏡面が動くため、機能の非作動時に鏡面を調整すると、リバース連動作動時の鏡面角度もかわります。

 知識**■ 鏡面調整の作動条件**

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。

(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください)

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 158)

■ 自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→ P. 170)

■ 寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

 **警告****■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

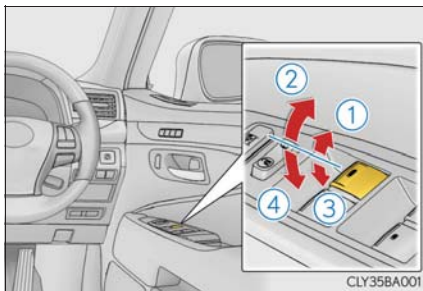
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開※

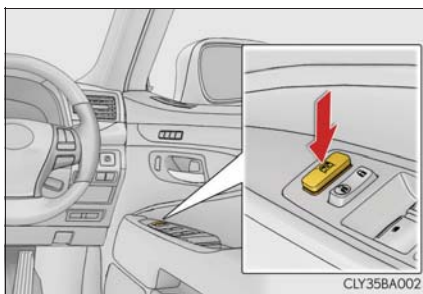
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識**■ 作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。
 - 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける
 - 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける
 - 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを閉じることができます。(→P. 117)
- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。(→P. 439)

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 459)

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

**■ 挟み込み防止機能**

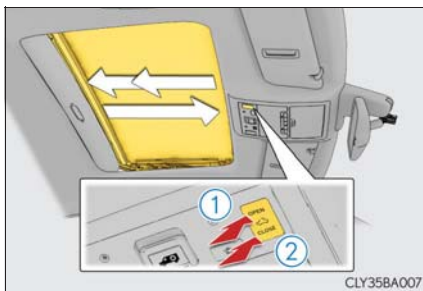
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ/ダウンできます。

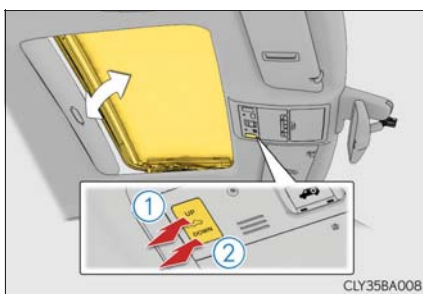
ムーンルーフを開閉する

- ① ムーンルーフを開く※
全開の手前の位置で止まります。(風切り音の低減機能)
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。
- ② ムーンルーフを閉める※
※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



チルトアップ/ダウンする

- ① チルトアップ※
- ② チルトダウン※
※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリモードまたはOFFにしたあとでも、約45秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- スマートエントリー&スタートシステムでムーンルーフを閉じることができます。(→P. 117)
- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。(→P. 439)

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※²その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“UP”側を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態でも 10 秒間停止し、※²微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※¹途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※²10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 459)

警告

次のことを必ずお守りください。

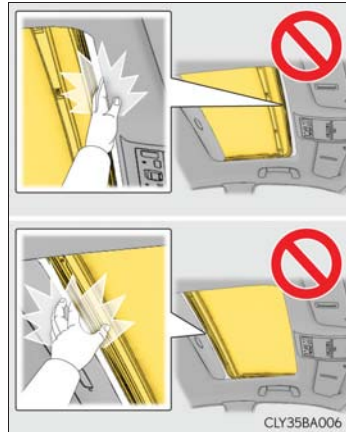
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

**■挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転

4

- 4-1. 運転にあたって**
 運転にあたって..... 184
 荷物を積むときの注意..... 192
- 4-2. 運転のしかた**
 パワー（イグニッション）
 スイッチ 193
 EV ドライブモード..... 198
 トランスミッション..... 201
 方向指示レバー..... 207
 パーキングブレーキ..... 208
 ブレーキホールド..... 211
 ホーン（警音器）..... 213
- 4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方**
 ランプスイッチ..... 214
 アダプティブ
 ハイビームシステム..... 217
 フォグランプスイッチ..... 224
 ワイパー & ウォッシャー 226
 ヘッドランプクリーナー 229
- 4-4. 給油のしかた**
 給油口の開け方230
- 4-5. 運転支援装置について**
 クルーズコントロール.....233
 レーダークルーズ
 コントロール
 （全車速追従機能付）.....237
 LKA（レーンキーピング
 アシスト）.....249
 ドライブモードセレクト
 スイッチ258
 電子制御
 エアサスペンション.....262
 運転を補助する装置.....263
 PCS（プリクラッシュ
 セーフティシステム）270
 後方プリクラッシュ
 セーフティシステム.....280
 BSM（ブラインドスポット
 モニター）.....283
 ナイトビュー
 （歩行者検知機能付）.....288
- 4-6. 運転のアドバイス**
 ハイブリッド車運転の
 アドバイス298
 寒冷時の運転300

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 193

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする(→ P. 201)
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する(→ P. 208)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーをPにします。(→ P. 201)

駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける
- 3 シフトレバーをPにする(→ P. 201)
- 4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。

[※] 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

 知識**■ 上り坂発進について**

ヒルスタートアシストコントロールが働きます。(→ P. 263)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 298の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 392 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 201)

 **警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーをDに入れしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 通常走行中にシフトレバーをNにしないでください。ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **警告****■ ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示されたら**

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ブレーキディスクの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやブレーキディスクなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずパワースイッチをOFFにしてください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ブレーキシステムは三つの独立したシステムで構成されており、一つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

■ 万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

 注意**■ 部品の損傷を防ぐために**

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けしないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 407, 417 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ バックシートトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ ナビゲーション画面の前
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステム始動のしかた

- 1 パワースイッチを ON モードにし（→ P. 194）、パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

- 4 パワースイッチを押す

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステム停止のしかた

- 1 車両を停止させる
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 パーキングブレーキをかける (→P. 208)
- 4 パワースイッチを押す
- 5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてパワースイッチのインジケータが消灯していることを確認する

パワースイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

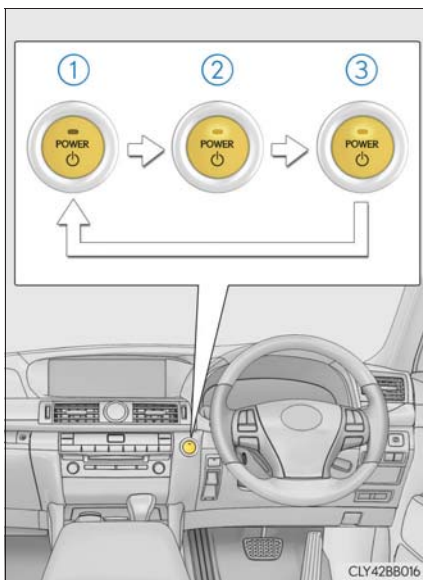
② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できません。
スイッチ上のインジケータが橙色に点灯します。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケータが橙色に点灯します。

※ シフトレバーが P 以外ときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



 知識**■ 自動電源 OFF 機能**

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリモードにしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■ 高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチツ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→ P. 124

■ 外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 122

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 123

■ ハイブリッドシステムが始動しないとき

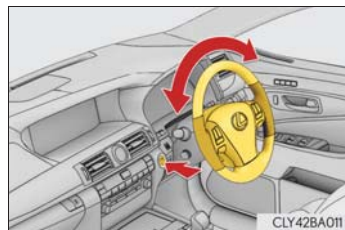
イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 76)
レクサス販売店へご連絡ください。

■ ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“パワー”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■ パワースイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 403

■ 電子キーの電池が切れたときは

→ P. 376

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 439

 **警告****■ ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→ P. 392)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

 **注意****■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ ハイブリッドシステムを始動するとき

- 必要以上にアクセルペダルを踏み込まないでください。
- もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

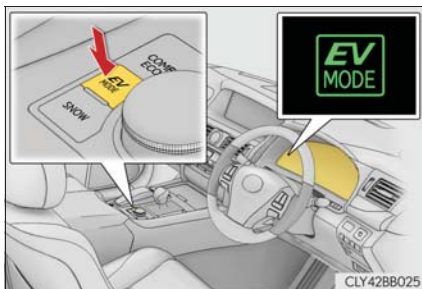
EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。(→ P. 67)

EV ドライブモードの ON / OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

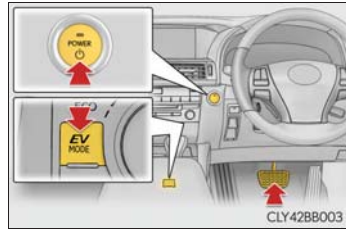
次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態 (→ P. 102)
- 車速が 40km/h 以上のとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントデフロスターを使用しているとき

■ EV ドライブモードでハイブリッドシステムを始動するには

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動すると、暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動します。次の方法でハイブリッドシステムを始動すると暖機運転を控え、騒音を抑える事ができます。

ブレーキペダルをしっかりと踏み、EV ドライブモードスイッチを押しながらパワースイッチを押す



■ EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

● 駆動用電池の充電量が低下したとき

エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 102）

● 車速が 40km/h をこえたとき

ガソリンエンジンの冷却水温が低いときは、15km/h で自動解除されることがあります。

● アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除が事前にお知らせできるときは、マルチインフォメーションディスプレイに予告画面が表示されます。

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。車速約 40km/h 以下での走行が可能です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

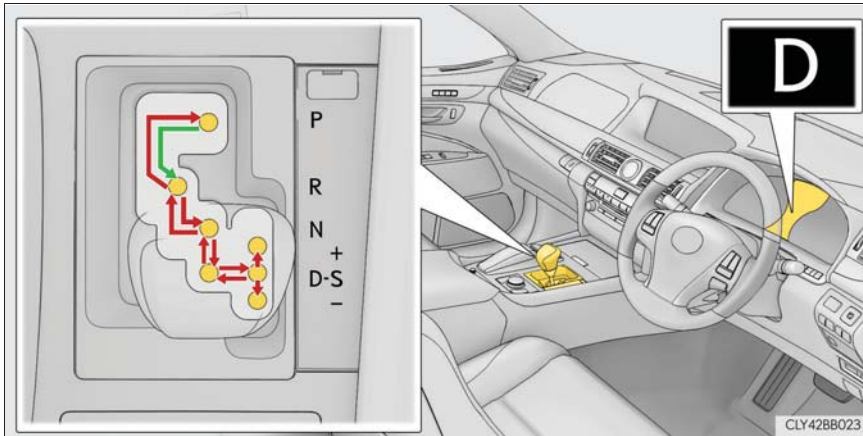
LS600h/LS600hL は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなる場合があります。

**■ 走行中の警告**

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。特に車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



← パワースイッチがON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	S モード走行※ ² (→ P. 203)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常はD ポジションを使用してください。

※² S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

D ポジションでのシフトレンジ選択（パドルシフト装着車）

シフトレバーがDポジションのときにパドルシフトスイッチの“-”側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。

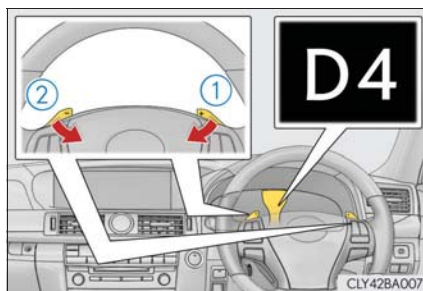
シフトレンジを選択することで、使用するシフトレンジの上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。また、通常走行にくらべエンジン回転数が高くなるようにトランスミッションを制御するため、加速応答性が向上します。

パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

- ① シフトレンジアップ
- ② シフトレンジダウン

D1からD7レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2 ~ D7	スピードや走行条件に応じて、D1 レンジから選択したシフトレンジまで自動的にかわります。
D1	シフトレンジがD1 レンジに固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

Sモードでのシフトレンジ選択

シフトレバーをSポジションにすると、Sモードに切りかわります。

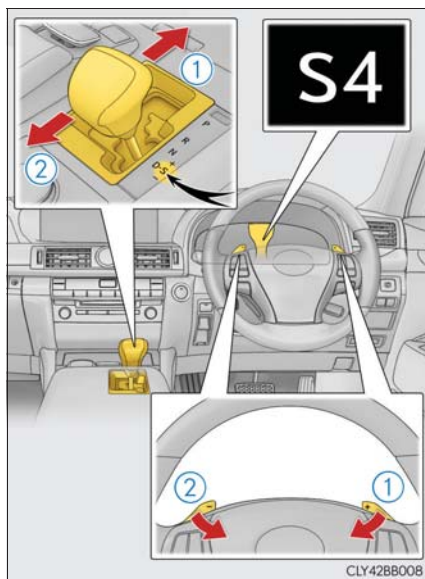
シフトレンジを選択することで、使用するシフトレンジの上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンプレーキカを切りかえることができます。また、通常走行に比べエンジン回転数が高くなるようにトランスミッションを制御するため、加速応答性が向上します。

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

- ① シフトレンジアップ
- ② シフトレンジダウン

S1からS8レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じてS4・S5・S6もしくはS7に設定されます。



■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンプレーキカは、8段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンプレーキカは大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- 1から5のシフトレンジでの加速時は、車速に応じて、シフトレンジが自動的に切りかわります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

走行モードの選択

- スポーツモード・コンフォートモード・エコドライブモード

→ P. 258

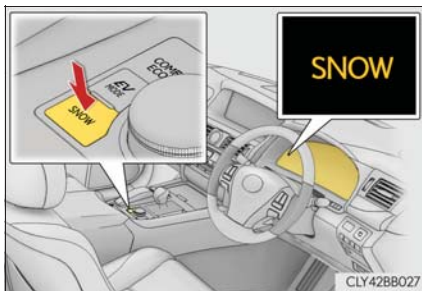
- スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

スノーモードスイッチを押す

スノーモード表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



 知識

- **D ポジションでパドルシフトスイッチの“-”側を操作したとき (パドルシフト装着車)**
走行状態に適したエンジブレーキ力を得られるレンジにダウンします。
- **D ポジションでのレンジ選択の自動解除 (パドルシフト装着車)**
次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。
 - 停車したとき
 - シフトレンジが 7 レンジの状態からパドルシフトの“+”側を操作したとき
 - アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
 - シフトレバーを D 以外にしたとき
- **S モード**
 - 6 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると 8 レンジに設定されます。
 - シフトレバーを“-”側へ操作したとき、走行状態に適したエンジブレーキ力を得られるレンジにダウンします。
- **シフトダウン制限警告ブザー**
安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)
- **クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき**
エンジブレーキを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジブレーキは効きません。
 - D・S モードで走行中に 7・6・5 または 4 レンジにシフトダウンしたとき (→ P. 233, 237)
 - D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき (→ P. 258)
- **リバース警告ブザー**
シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。
- **スノーモードの自動解除**
スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。
- **シフトレバーを P からシフトできないとき**
→ P. 433

 **警告****■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンプレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

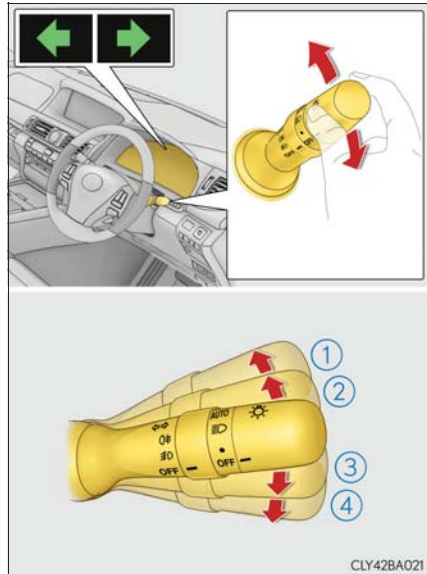
 **注意****■ 駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

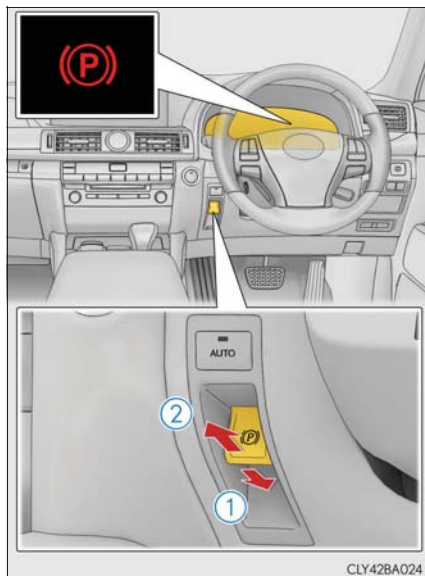
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

マニュアルモード

- ① パーキングブレーキをかける
 パーキングブレーキ表示灯が点灯します。(→ P. 209)
 緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。押し続けているあいだのみパーキングブレーキがかかります。
- ② パーキングブレーキを解除する
 パーキングブレーキ表示灯が消灯します。ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。

オートモードの ON / OFF を切りかえる

オートモードが ON のとき、次のように作動します。

- シフトレバーを P に入れると、パーキングブレーキがかかります。
- シフトレバーを P から動かすと、パーキングブレーキが解除されます。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



 知識**■ パーキングブレーキの作動**

- パワースイッチがONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチがONモード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。
- 短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1分程度でもとの状態にもどります。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ONモード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ONモード以外：約15秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチをOFFにしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約15秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

■ システムに異常があるとき

警告灯や警告メッセージが点灯または点滅します。（→ P. 399, 403）
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 301

 注意**■ 駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

手動解除用ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。

(→ P. 434)

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ブレーキホールド

シフトレバーがD・SまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯



() が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯



() が点灯します。



知識

4

運
転

■ システムの作動条件

次のときはシステムをONできません。

- トランクまたはボンネットが閉まっていない
- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムがONのときにいずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告音と共に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合は、運転者はブレーキをかける必要があるときもあります。このときはマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動的に解除されません。パーキングブレーキスイッチを操作してブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→ P. 208)

■ システムに異常があるとき

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→ P. 399, 403)

警告**■ 急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意**■ 駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。

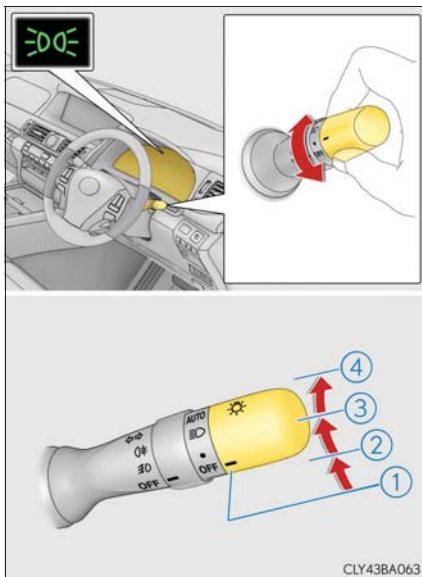


ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

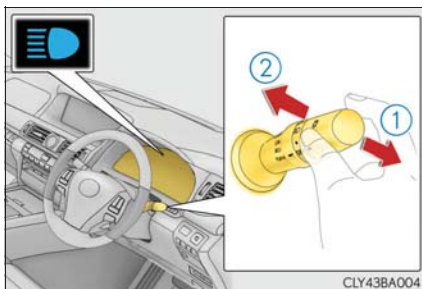
操作のしかた

- ① OFF 消灯
- ② ● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- ③ ≡D 上記ランプとヘッドランプを点灯
- ④ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯
(パワースイッチがONモードのとき)



ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



AFS (アダプティブフロントライティングシステム)

AFS は、交差点やカーブで優れた視認性を確保するため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

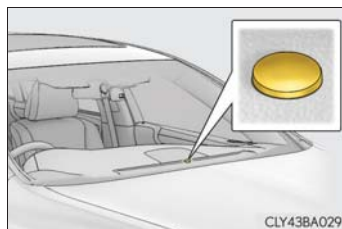
車速が 10km/h 以上のときに作動します。



知識

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチがアクセサリモードまたは OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

- パワースイッチを ON モードにしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアまたはトランクを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 466)



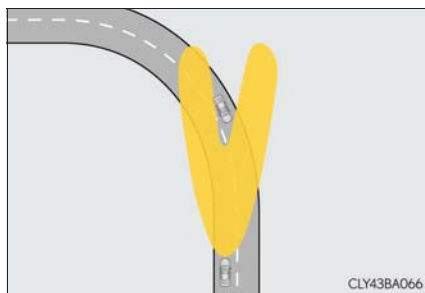
■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

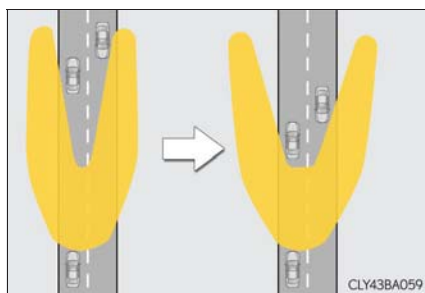
アダプティブハイビームシステム

アダプティブハイビームシステムは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビーム・ロービーム・遮光範囲可変ビームを切りかえます。

遮光範囲可変ビーム切りかえ中は、対向車や先行車の範囲を遮光し、それら以外の範囲をハイビームで照射します。これにより、前方車両を眩惑することなく、前方の視界確保を補助します。

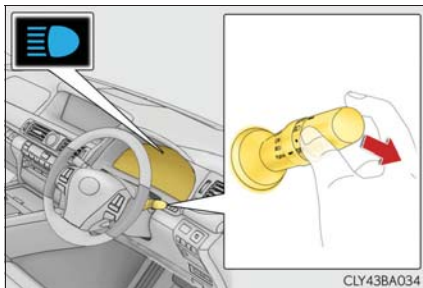


また、対向車や先行車の位置が変わった場合には遮光範囲を変化、追従させることができます。



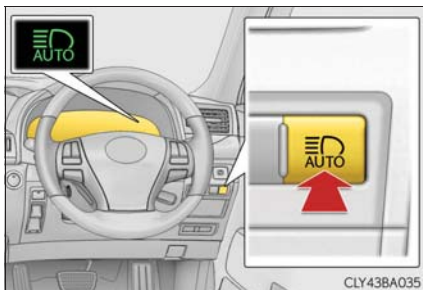
アダプティブハイビームシステムの使い方

- 1 ランプスイッチをAUTOまたは
☰D にし、レバーを前方へ押す



- 2 アダプティブハイビームシステム
スイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



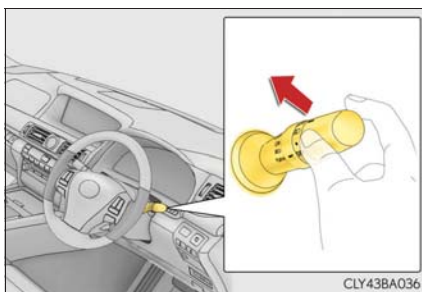
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押しします。

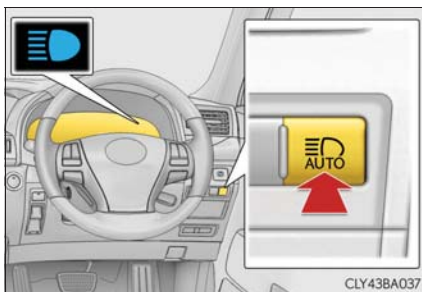


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



ハイビーム・ロービーム・遮光範囲可変ビームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ ランプを点灯した対向車または先行車が存在しない
- 次の条件のいずれかのとき、対向車または先行車の位置に応じて、ロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える
- 次の条件をすべて満たしたとき、対向車または先行車の位置に応じて、遮光範囲可変ビームへ切りかわります。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
- 次の条件をすべて満たし、車速が約 15 ~ 30km/h で住宅地を走行していると判断した場合、左側ヘッドランプはロービーム、右側ヘッドランプはハイビームを点灯します。
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ ランプを点灯した対向車または先行車が存在しない

 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ アダプティブハイビームシステムについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームや遮光範囲可変ビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームからロービームや遮光範囲可変ビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームや遮光範囲可変ビームに切りかわる場合や、遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- アダプティブハイビームシステムは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビーム・ロービーム・遮光範囲可変ビームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ カメラセンサーの温度が非常に高いとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

■ アダプティブハイビームシステム作動中のハイビーム点灯について（LKA「レーンキーピングアシスト」非装着車）

高速走行時のみ、車両外側に加え、内側のハイビームも点灯します。

■ カスタマイズ機能

遮光範囲可変ビームを非作動にするなどの変更ができます。

（カスタマイズ一覧：→ P. 466）

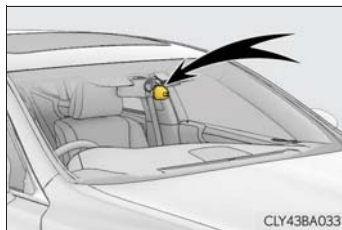
警告

■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

 注意**■ アダプティブハイビームシステムを正しく作動させるために**

アダプティブハイビームシステムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



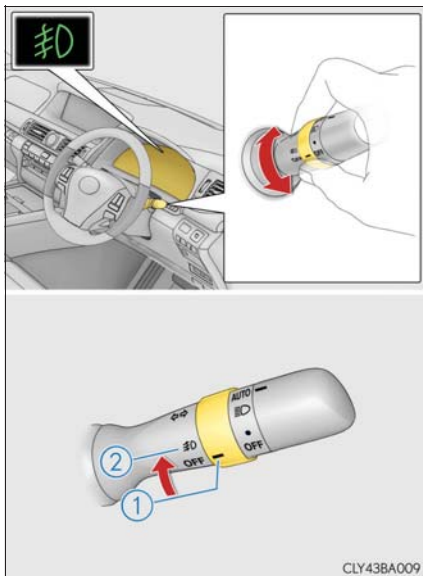
- カメラセンサーのレンズにふれない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- レクサス純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

- ① OFF 消灯する
- ② 霧 点灯する

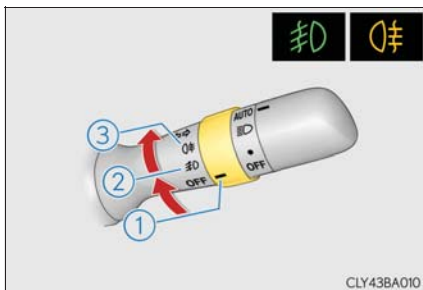


▶ フロント&リヤフォグランプスイッチ

- ① OFF 消灯する
- ② 霧 フロントフォグランプを点灯する
- ③ 霧 フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと霧の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



 知識

■ 点灯条件

フロントフォグランプ：

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：

リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■ リヤフォグランプについて

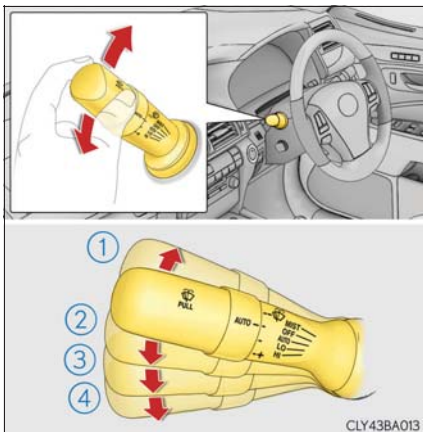
- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

操作のしかた

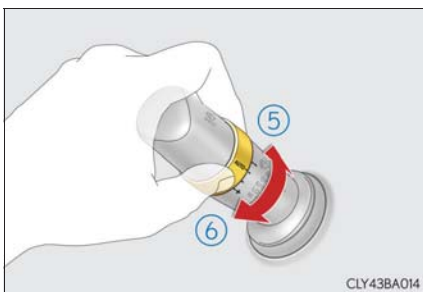
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

- ① MIST 一時作動
- ② AUTO 雨滴感知オート作動
雨滴量や車速に応じてワイパーが作動します。
- ③ LO 低速作動
- ④ HI 高速作動



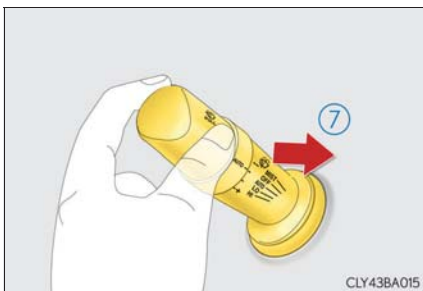
雨滴感知オート作動のときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

- ⑤ 雨滴センサーの感度調整（低）
- ⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）



- ⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。
(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します)



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）への影響があります。

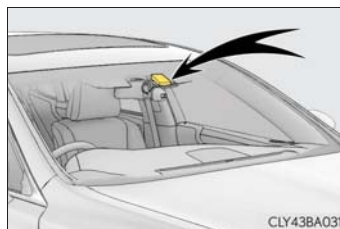
低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。

（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON モードのときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 90℃ 以上または -15℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ ワイパー連動機能

ワイパーを作動させると、ミラーヒーターが作動します。（詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください）

ミラーヒーターは、ワイパー停止後約 15 分で自動的に OFF になります。

 **警告****■ AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

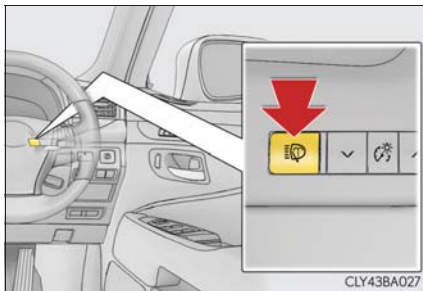
■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗
浄する



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

⚠ 注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

警告

■ 給油するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。

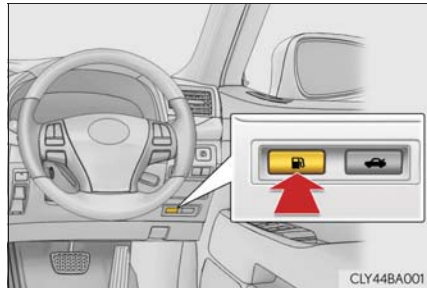
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

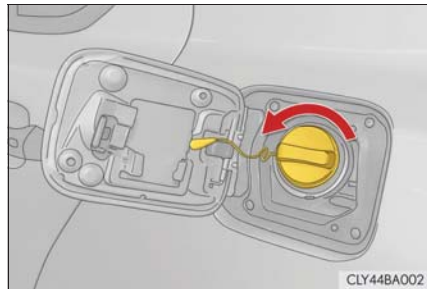
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

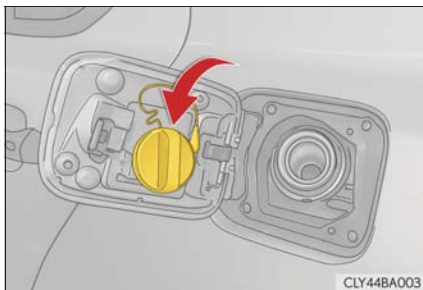
1 スイッチを押す



2 キャップをゆっくりまわして開ける



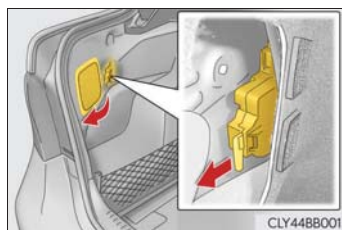
3 キャップをハンガーにかける



知識

■車内のスイッチで給油口が開かないとき

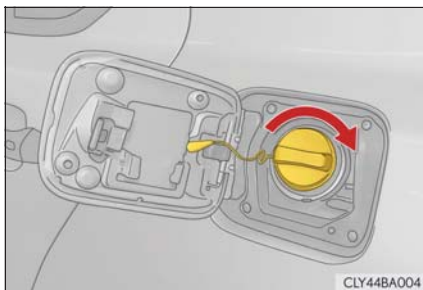
トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。



給油口の閉め方

キャップを“カチツ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。

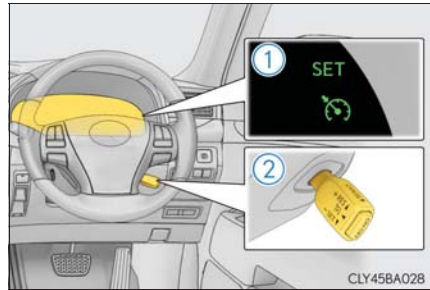
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

- ① 表示灯
- ② クルーズコントロールスイッチ

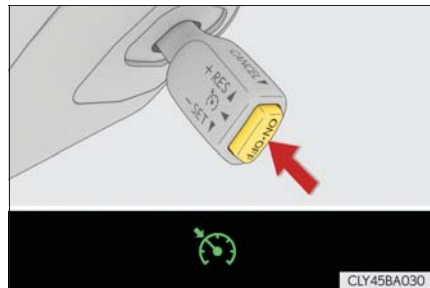


速度を設定する

- 1 ON・OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

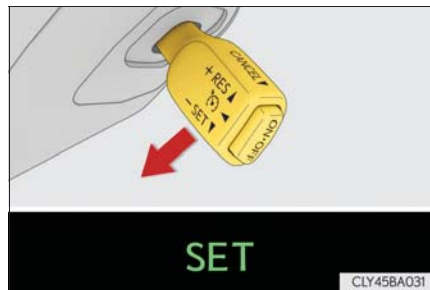
OFF には、再度スイッチを押します。



- 2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：

レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：

希望の車速になるまでレバーを保持する

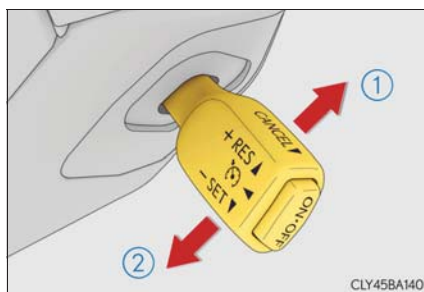
設定速度は、次のとおりに増減されません。

微調整：

レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：

レバーを保持するあいだ

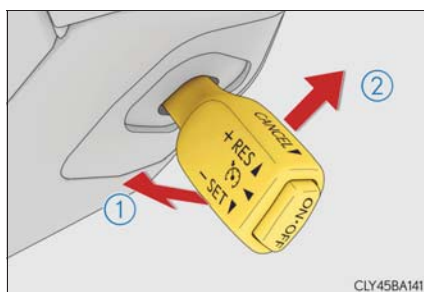


定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上るとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- 車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40km/h 以下になった
- VSC が作動した
- TRC が一定時間作動した
- TRC または VSC を OFF にした

■ 定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

ON・OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

 **警告****■ 誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON・OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

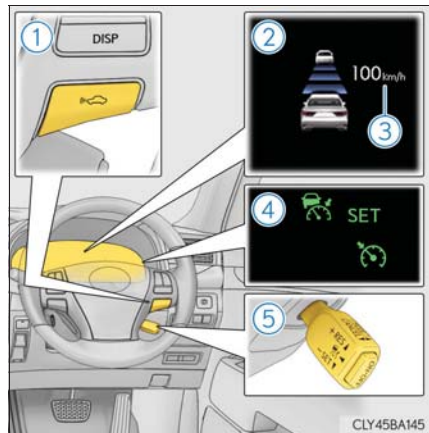
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付) ★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

- ① 車間距離切りかえスイッチ
- ② マルチインフォメーションディスプレイ
- ③ 設定速度
- ④ 表示灯
- ⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



車速を設定する

- 1** ON・OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

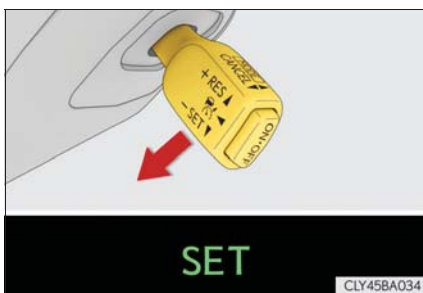


- 2** 希望の速度 (約 50km/h～100km/h) まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

車速が約 50km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を 50km/h として先行車に追従走行をします。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

(車間制御モードで制御停車中を除く)

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：

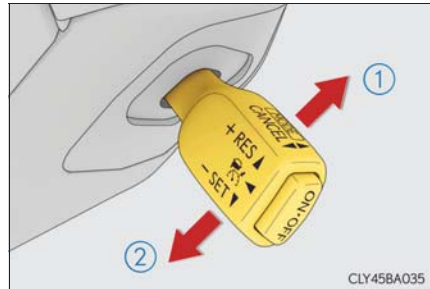
微調整：レバー操作するごとに約 1km/h

調整：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード (→ P. 243) では、設定速度は、次のとおりに増減されます。：

微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：レバーを保持するあいだ



車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

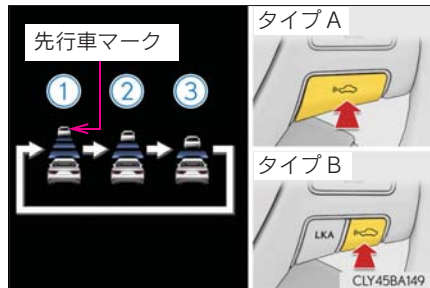
① 長い

② 中間

③ 短い

パワースイッチが ON モードになるたびに①に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

(速度 80km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定にかかわらず約 3～5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルを操作しても追従走行に復帰します。

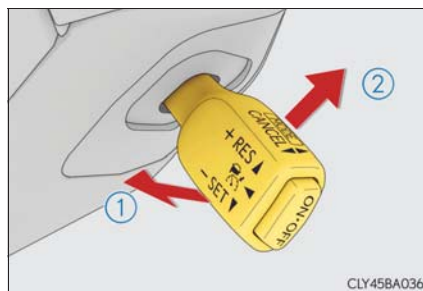


制御を解除する・復帰させる

- 解除するには、レバーを手前に引く
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。(車間制御モードで制御停車中は、ブレーキを踏んでも解除されません)
- もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

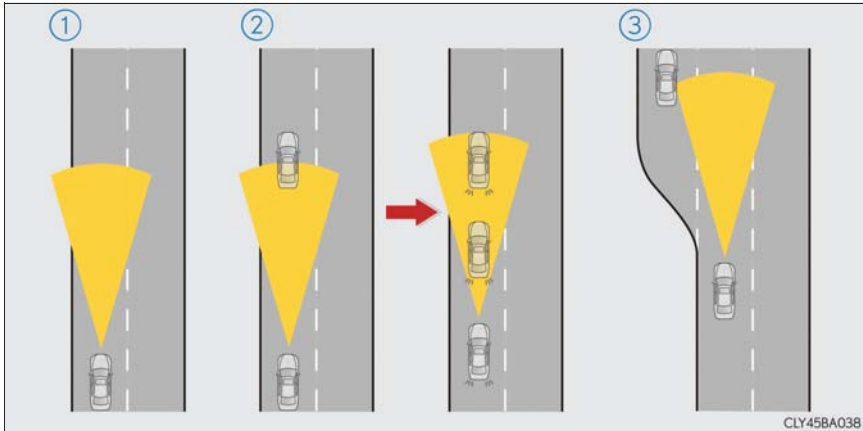
ただし、車間制御モード時で先行車を検知していない場合、実際の速度が約 40km/h 以下のときは復帰しません。また、定速制御モード時で実際の速度が約 40km/h 以下のときは、設定速度が消去されるため、復帰しません。



車間制御モードでの走行

レーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



- ① 定速走行：
先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

- ② 減速走行—追従走行：
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルを踏むと追従走行にもどります。

- ③ 加速走行：
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードは先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の速度で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- ① ON・OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF するには再度 ON・OFF スイッチを押します。

- ② 定速制御モードに切りかえ
(約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

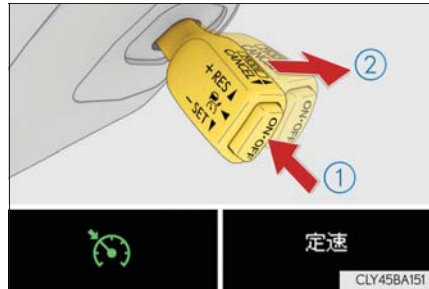
パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには

→ P. 239

制御を解除する・復帰させるには

→ P. 240



 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上るとき設定できます。
- パドルシフトで 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
(パドルシフト装着車)
- 車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 先行車がないとき速度が約 40km/h 以下になった
- 速度が約 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった
- VSC が作動した
- TRC が一定時間作動した
- TRC または VSC を OFF にした
- センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- ワイパーが高速で作動した(ワイパースイッチをAUTOモードまたは高速作動の位置にしたとき)
- 走行モードをスノーモードにセットした
- パーキングブレーキが作動した
- 急坂路で制御停車した
- プリクラッシュブレーキが作動した
- 制御停車時に次を検出した
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ トランクまたはボンネットが開いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した
- 車速が約 40km/h 以下になった
- VSC が作動した
- TRC が一定時間作動した
- TRC または VSC を OFF にした

■ LKA（レーンキーピングアシスト）使用時について

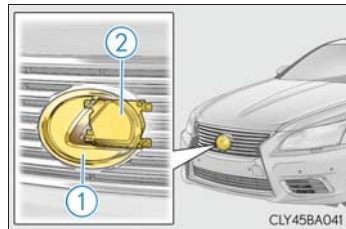
車間制御モードでレーダークルーズコントロールを使用すると、車線維持支援制御が作動します。

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

- ① グリルカバー
- ② レーダーセンサー



■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 403）

 **警告****■ 安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ 誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON・OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 **警告****■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 242）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 **警告****■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのでがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

LKA（レーンキーピングアシスト）★

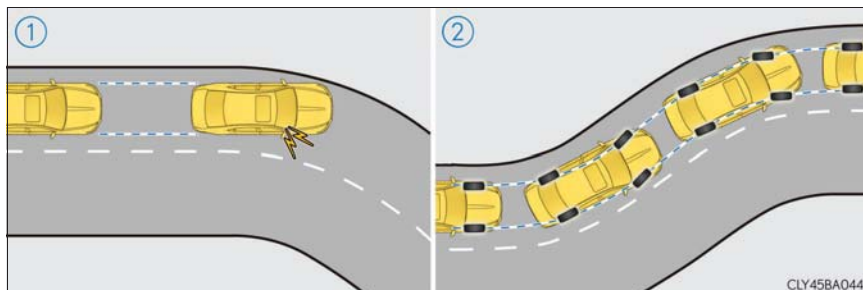
機能概要

白（黄）線の整備された高速道路や急なカーブがない自動車専用道路を走行中に、インナーミラーの上の白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

白線認識用カメラ



LKAに含まれる機能



① 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合に、“ピピピピ・・・”というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、体感警報[※]を用いて注意をうながします。

※ ハンドルに短時間、車線の中央方向への小さな操舵力を与えます。

② 車線維持支援機能

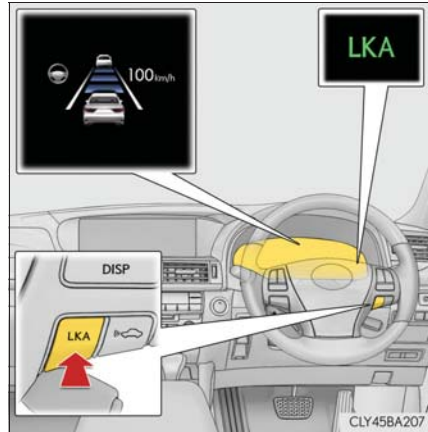
- ・ 車線逸脱警報機能が作動中に、車速が約 65km/h 以上でレーダークルーズコントロール (→ P. 237) の車間制御モードがセットされたときに、車線維持支援機能が作動します。
- ・ 小さい操舵力を連続的に与えることにより、車線中央付近を走行しやすいように運転者のハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能中に、ハンドルを操作しなかったり、ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたりしたときは、機能が一時的に解除されます。

(→ P. 253)

設定のしかた

LKA を使用するにはスイッチを押す
メーター内の LKA 表示灯が点灯しま
す。
解除するには再度スイッチを押しま
す。
LKA はパワースイッチが ON モードに
なるたびに解除されます。



各機能の作動条件

■ 車線逸脱警報機能

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 2.8m 以上のとき
- 直線路または半径 120m よりゆるいカーブを走行しているとき

■ 車線維持支援機能

- 車速が約 65 ~ 100km/h のとき
- レーダークルーズコントロールの車間制御モードが ON で、設定車速が 65km/h 以上のとき（レーダークルーズコントロールが定速制御モードのときは、作動しません）
- 車線の幅が約 3.0 ~ 4.0m のとき
- 直線路または半径 200m よりゆるいカーブを走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKAが制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKAが作動していることを表示します。

① 車線維持支援機能の作動表示

ハンドル表示：

機能が作動中であることを示しています。(このときに車線逸脱警報が作動すると、橙色で点滅します)

ハンドル非表示：

機能が作動していないことを示しています。(このとき“ピピッ”というブザーが鳴ります)

② レーダークルーズコントロール表示

③ 車線逸脱警報機能表示

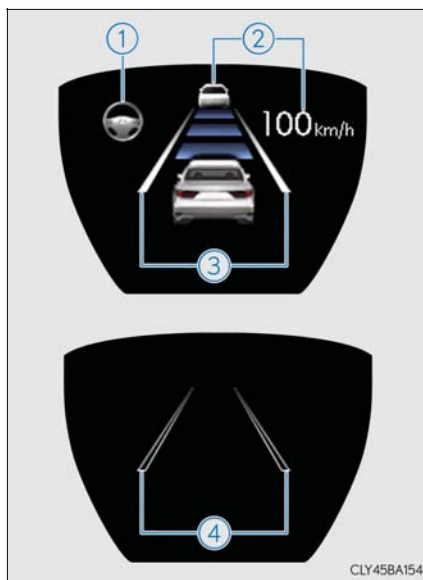
(白線の内側が白いとき)：

機能が白(黄)線を認識していることを示しています。(このとき車線逸脱警報が作動すると、橙色で点滅します)

④ 車線逸脱警報機能表示

(白線の内側が黒いとき)：

機能が白(黄)線を認識できていない、または機能が一時的に解除されていることを示しています。



 知識**■機能の一時解除**

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき
- システムが手放し運転をしていると判断したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- 方向指示レバーを操作したとき
- 作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）
- ワイパースイッチを高速作動の位置にしたとき、またはAUTOモードにしてワイパーが高速作動したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- 車体のおよそ半分以上が白（黄）線をまたいだとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）
- 車線逸脱警報機能が作動したとき
車線逸脱警報機能が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

路面状況などにより、体感警報が感じにくい場合があります。

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、“ピピッ”とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。

ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LKA は作動せず、警告メッセージ（→ P. 403）が表示されることがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→ P. 249）の温度が適温になると作動するので、いったん LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

車線維持支援機能は作動しません。また、白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、LKAが作動しない、または十分な性能が確保できない場合があります。また、白線認識用カメラが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が誤作動したり、車線維持支援機能が正しく作動しないことがあります。故障ではありません。

- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などのとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行するとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき
- 悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けて走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LKAの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 403）

 **警告****■ LKA をお使いになる前に**

LKA を過信しないでください。LKA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 誤操作を防ぐために

LKA を使用しないときは、LKA スイッチでシステムを OFF してください。

■ LKA を使用してはいけない状況

次の状況では、LKA を使用しないでください。

適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スタッドレスタイヤ・応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ほこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線・追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき

**■ LKA の故障や誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造したり、純正品以外の部品に交換したりしないでください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けしないでください。
- サンバイザーを改造したり、純正品以外のものに交換したりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

 注意

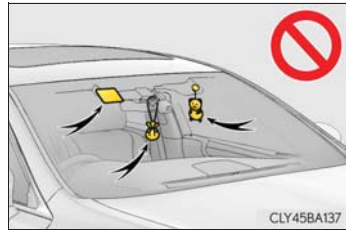
■ 白線認識用カメラ (→ P. 249)

LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりすると、性能が低下することがあります。

- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない

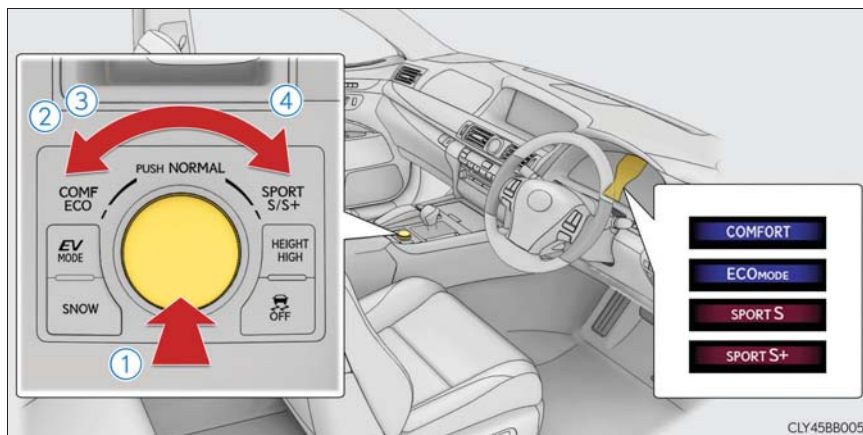
- カメラの近くには、何も取り付けたり、置いたりしない



- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- カメラのレンズ前にアンテナを取り付けない
- フロントウインドウガラスが曇った場合は、フロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えることがあります。
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
カメラのレンズのお手入れは、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

コンフォートモード以外のときにスイッチを左にまわすとコンフォートモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「COMFORT」と表示されます。

また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。



CLA45BA077

③ エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

コンフォートモードのときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO MODE」と表示されます。

また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。



④ スポーツモード

・ スポーツ S モード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、山岳路などできびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S」と表示され、ハイブリッドシステムインジケータからタコメーター表示に切りかわります。

(→ P. 92)

また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。



・ スポーツ S +モード

ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S +モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S+」と表示されます。

また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。



 知識**■ エコドライブモード時のエアコン作動について**

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

電子制御エアサスペンション

路面の状態や運転操作、選択したドライブモードなどに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた操縦安定性を両立し、車両姿勢を良好な状態に保ちます。

また、路面の状態や走行状況にあわせて車高を選択することもできます。

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。

HIGH モードの ON/OFF を切りかえる

ON のときメーター内のエアサスペンション HIGH 表示灯が点灯します。



知識

■エアサスペンション用コンプレッサーの作動音

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときや HIGH モードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

警告

■エアサスペンションについて

次の状況では、エアサスペンションの作動を停止するために、ハイブリッドシステムを停止してください。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

パワースイッチを ON モードのままにしておくと、車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを 방지、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）

車速やハンドルの動きに合わせて、ホイールが切れる角度を調整します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ アクティブスタビライザーサスペンションシステム★

ハンドル操作量やドライブモードセレクトスイッチで選択したモードなどに応じて、コーナリング時のロールを抑え、安定した車両姿勢の確保に寄与します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

◆ VDIM (ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS・トランスミッションを総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) ★

→ P. 270

◆ 後方プリクラッシュセーフティシステム★

→ P. 280

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

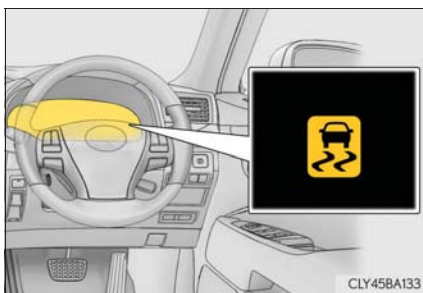
◆ BSM (ブラインドスポットモニター) ★

→ P. 283

TRC・VSC・ABS・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

TRC・VSC・ABS・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

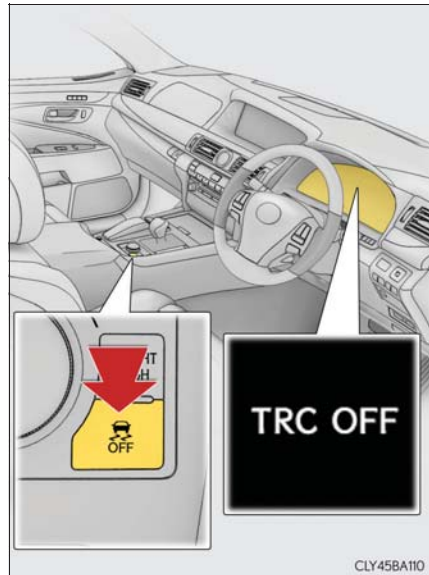
このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

■ TRC を停止するには

TRC を停止するにはスイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

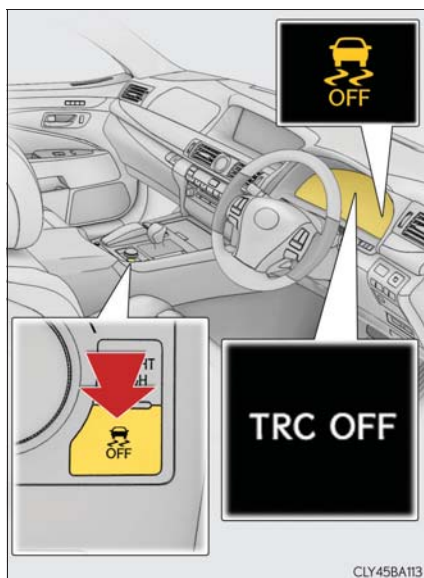


■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



※ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 装着車は、警報ブレーキ・プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」と表示されます。(→ P. 270)

📖 知識

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- システムが車両の後退を検知したとき
- シフトレバーが D または S の位置にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

■ VGRS の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進時のハンドル位置がずれることがあります。システムの復帰と共にもとにもどります。

- 停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ハンドルをいっぱいにつめた状態で長く力をかけ続けたとき
- 補機バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき
- -30°C 以下でハイブリッドシステムを始動したあと

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返して踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に、ハンドルがわずかに動いたり、小さな音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、ハイブリッドシステム停止後に再始動すると、自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。[※] その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

[※] その際、LKA（レーンキーピングアシスト）が作動できない場合もあり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離れた
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

 警告**■ TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 371, 458）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

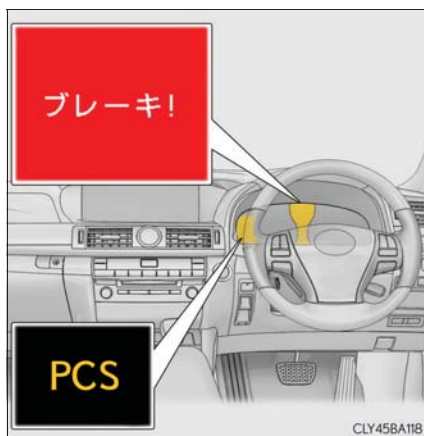
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

センサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、衝突回避を支援します。

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って、衝突警告表示の ON / OFF を切りかえることができます。



◆ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→ P. 35）

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ ブリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援します。

ブリクラッシュブレーキにより停止した場合、最大 2 秒間ブレーキが保持され、その後ブレーキが自動で解除されます。停止後は、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むことでもブリクラッシュブレーキを解除できます。

ブリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って、ブリクラッシュブレーキの ON / OFF を切りかえることができます。

◆ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むのを抑えます。

◆ ステアリングギヤ比コントロール（カメラセンサー装着車）

衝突の可能性が高いとき、VGRSによってステアリングギヤ比を変化させ、ハンドル操作に対する応答性を高めます。

◆ ドライバーモニター★

衝突の可能性があり、かつ運転者が正面を向いていない、または運転者の眼が閉じていると判断した場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに衝突の可能性が高まり、作動条件（→ P. 275）を満たした場合は、警報ブレーキが作動します。

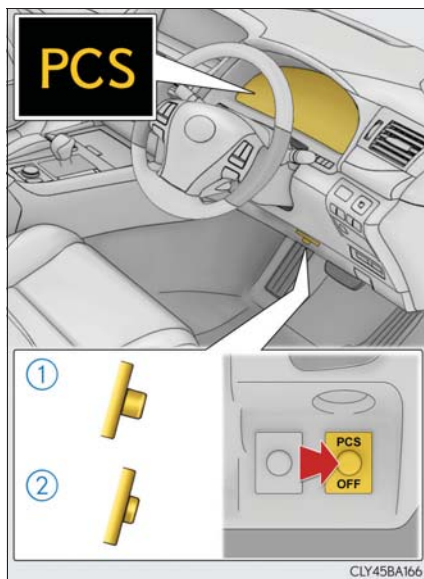
ブリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って、警報ブレーキの ON / OFF を切りかえることができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、衝突警告表示・プリクラッシュブレーキ・警報ブレーキ（ドライバーモニター装着車）の ON / OFF を切りかえることができます。

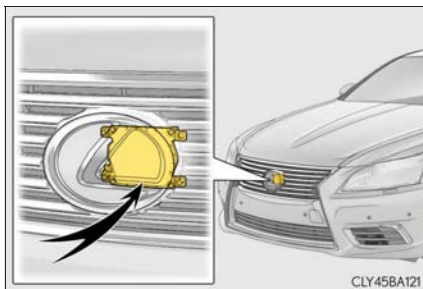
- ① ON
- ② OFF

OFF にすると PCS 警告灯が点灯し
ます。



レーダーセンサー

走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

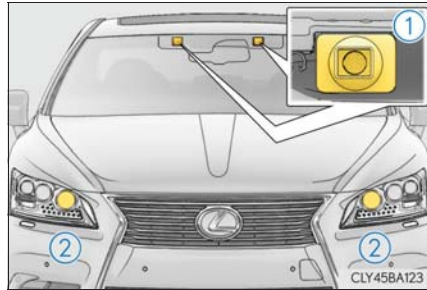


カメラセンサー★

レーダーセンサーに加え、走行中に路上またはその付近の歩行者など立体物を検知します。

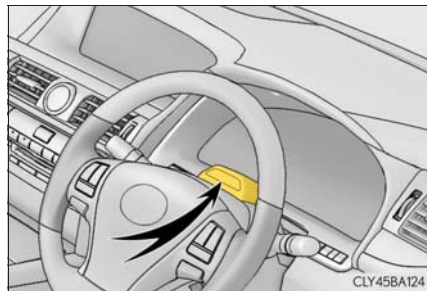
ヘッドランプ点灯時には近赤外線を照射し、夜間の検出性能の確保に寄与します。

- ① カメラセンサー
- ② 近赤外線投光器



ドライバーモニター用カメラ★

運転者の顔の向きと眼の開閉状態を検知し、正面を向いていない、または眼を閉じている状態をシステムが判断します。



 知識

■ システムの作動条件

- 衝突警告表示の作動条件：
 - ▶ カメラセンサー非装着車
 - ・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・車速が約 15km/h 以上
 - ・自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 15km/h 以上
 - ▶ カメラセンサー装着車
 - ・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・車速が約 5km/h 以上
 - ・自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 5km/h 以上
- プリクラッシュシートベルトの作動条件①：
 - ・車速が約 30km/h 以上
 - ・急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
 - ・フロント席の乗員がシートベルトを着用している
- プリクラッシュシートベルトの作動条件②：
 - ・車速が約 5km/h 以上
 - ・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上
 - ・フロント席の乗員がシートベルトを着用している
- プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：
 - ・VSC OFF スイッチが押されていないとき
 - ・車速が約 30km/h 以上
 - ・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上
 - ・ブレーキペダルが踏まれているとき
- プリクラッシュブレーキの作動条件：
 - ▶ カメラセンサー非装着車
 - ・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・VSC OFF スイッチが押されていないとき
 - ・車速が約 15km/h 以上
 - ・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15km/h 以上
 - ▶ カメラセンサー装着車
 - ・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・VSC OFF スイッチが押されていないとき
 - ・車速が約 5km/h 以上
 - ・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 5km/h 以上
- サスペンションコントロールの作動条件：
 - ・車速が約 5km/h 以上
 - ・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上

- ステアリングギヤ比コントロールの作動条件（カメラセンサー装着車）：
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上
- 警報ブレーキの作動条件（ドライバーモニター装着車）：
 - ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・ VSC OFF スイッチが押されていないとき
 - ・ 運転者が正面を向いていない、または目を閉じていると判断したとき
 - ・ 車速が約 40km/h 以上
 - ・ 自車から見た先行車との接近速度が約 40km/h 以上
 - ・ 車両直進状態

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで対向車とすれ違ったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれ違ったとき
- 前を走っている車に急に近付いたとき
- 立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- 下り坂走行中に鉄板などの路面の金属物が車両の前方にみえるとき
- 上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えるとき
- 陸橋を通過したとき
- 車高が極端に変化しているとき
- ETC ゲートを高速で通過したとき
- 水蒸気や煙のかたまりを通過したとき
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くなったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ カメラセンサーが検知しない場合（カメラセンサー装着車）

- 太陽光など強い光がレンズに直接あたっているとき
- 悪天候などで視界が悪いとき
- センサーの温度が非常に高いとき
- トンネル内や夜間など、周囲が暗い状況でヘッドランプをつけていないとき

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
- VSC が OFF で車が横すべりの状態
- 車高が極端に変化しているとき
- 前方の車両や障害物への部分的な衝突や接触をする状況
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき
- 前方の障害物が小さいとき
- 運転者の操作（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から、運転者が衝突回避操作をしたとシステムが判断したとき

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ システムに異常があるとき

PCS 警告灯が点滅し、警告メッセージが表示されます。（→ P. 398, 403）

 **警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 274, 275, 276）により異なります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

 **警告****■ カメラセンサーの取り扱い（カメラセンサー装着車）**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写り込んだ映像で検出性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない

■ ヘッドランプについて（カメラセンサー装着車）

- 近赤外線投光量を確保するため次のことをお守りください。
 - ・ ヘッドランプは、いつもきれいにしておく
 - ・ ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。
- 近赤外線投光器は、目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時には照射していませんが、安全のためにのぞき込まないでください。

■ 顔向き／眼の開閉判定について（ドライバーモニター装着車）

次のときは正常に顔向き／眼の開閉判定ができない場合があります。

- カメラと顔のあいだにさえぎるものがあるとき
(カメラの前にものを置くなど)
- 顔の一部が隠れる状況
- 太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況
- 正しい運転姿勢をしていないとき
- 停車中

 警告**■ ドライバーモニター用カメラの取り扱い（ドライバーモニター装着車）**

ドライバーモニターの効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因になったり、顔向き／眼の開閉判定ができないおそれがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラを改造したり、傷付けたり、持ち上げたり、引っぱったりしない
- 走行中はカメラをさわらない
- カメラをぬらしたり、飲料水をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷・汚れ・シール貼りなどがないようにする
- カメラ前面部の前にものを置いたり、覆ったりしない

■ システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 注意**■ ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意（ドライバーモニター装着車）**

- 傷を付けないよう、やわらかい布で軽くふいてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよくしぼってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。
- ベンジン・シンナー・ガラスクリーナー・ワックスなどを使用しないでください。

後方プリクラッシュセーフティシステム★

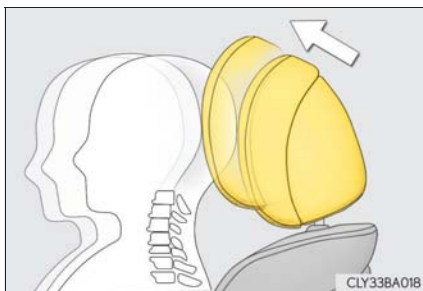
追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害の軽減に寄与するシステムです。

◆ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意をうながします。

◆ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト※）

追突の可能性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害の軽減に寄与します。



※ 可倒式ヘッドレスト装着車：運転席のみ

レーダーセンサー

後方から接近するものを検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

 知識**■ システムの作動条件**

パワースイッチが ON モードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに次の条件で作動します。

- 後方車両への警報（非常点滅灯）：
 - ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15km/h 以上
 - ・ 停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
 - ・ 方向指示灯や非常点滅灯が OFF
- むち打ち傷害軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）：
 - ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15km/h 以上
 - ・ 停止または前進している

■ むち打ち傷害の軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■ センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムは、すべての追突を検知できるシステムではありません。次のときは作動しない場合がありますので、周辺への注意を怠らないでください。

- 車両姿勢が極端に変化しているとき
- 二輪車などは検知しないことがあります
- 雨滴・氷雪がリヤバンパーに付着したとき
- カーブや起伏の大きな道路のとき
- ななめからの追突やオフセットの大きな追突のとき

■ 追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

- 右左折などで停車したときなどに、自車の真うしろを後続車が通過したとき
- 道路脇に停車したときなどに、後続車が真横を通過したとき
- 走行時、後続車が近距離から追い越したとき
- 走行時または停車時、後続車が近距離まで急接近したとき

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 398, 403）

 **警告****■ レーダーセンサーとリヤバンパーの取り扱い**

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車のリヤバンパーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく
雨滴・氷雪などによって性能が低下することがあります。
- レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー・またはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、修理してください。
- センサーを分解しない
- センサーの裏に貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解・改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- リヤバンパー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーを付けたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない
- リヤバンパーの改造や別のものに交換しない
- リヤバンパーの塗装修理についてはレクサス販売店に相談してください。

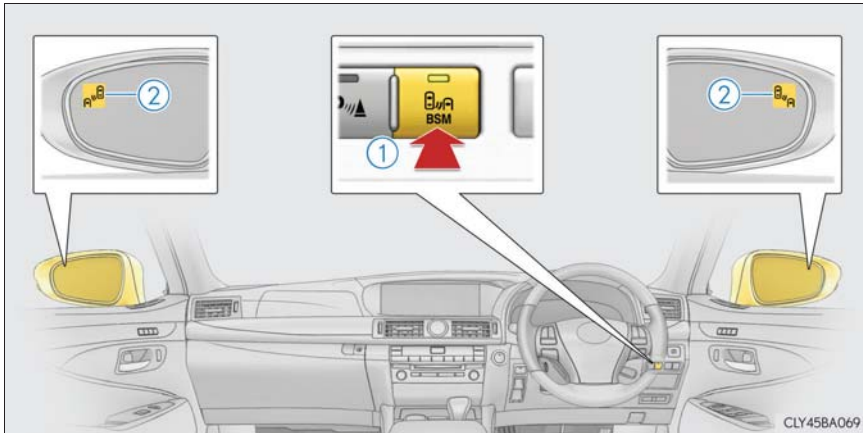
■ プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

レクサス純正品以外のヘッドレストカバーはつけないでください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

レーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を知らせます。



① BSM メインスイッチ

押すごとに ON / OFF が切りかわり、ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

② ドアミラーインジケーター

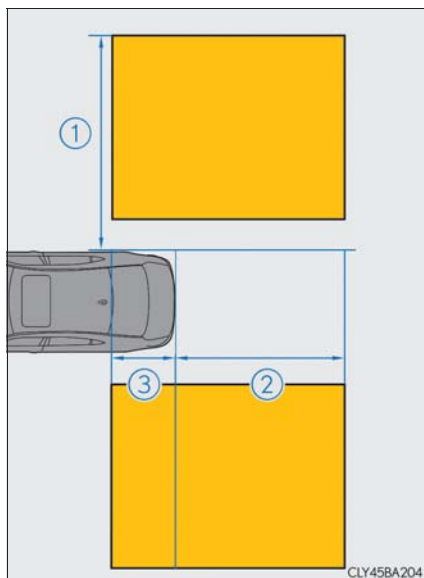
死角領域に車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。

また、方向指示レバーを操作した際に死角領域に車両がいたときは、ドアミラーインジケーターが点滅します。

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。

- ① 車両側面から外側に約 3.5m
車両側面から外側に約 0.5m は検知しません
- ② 車両後端から後方に約 3m
- ③ 車両後端から前方に約 1m



 知識

■ ブラインドスポットモニターの作動条件

BSM メインスイッチが ON の状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など[※]
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物[※]
- 同じ車線を走行する後続車[※]
- 2 つ隣の車線を走行する他車[※]

[※]：状況によっては検知をすることがあります。

■ ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ 大雨・霧・雪などの悪天候時
 - ・ 氷雪・泥等がリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 水たまりなど濡れた路面を走行するとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎる時
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道を走行しているとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 車線の幅が広く、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 自車線と隣車線の高さに差があるとき
 - ・ BSM メインスイッチを ON にした直後
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ ガードレールや壁等との距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 後続車との車間距離が短いとき
 - ・ 車線の幅が狭く、2 つ隣の車線を走行する他車が検知範囲に入ったとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき

■ ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケータが見えづらいことがあります。

■ システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。
(→ P. 403)

- センサーが故障しているとき
- センサーが汚れているとき
- 極めて高温または低温の環境での使用
- 電圧異常

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

■レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく



- センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを塗装しない
- 本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



204Y51100100

ナイトビュー（歩行者検知機能付）★

ナイトビューは、夜間の走行を補助するシステムです。

夜間に肉眼では見えにくい前方の歩行者・障害物・道路状況を、投光器から照射した近赤外線反射光をカメラで撮影・映像化して、ナビゲーション画面に表示します。

また、歩行者検知機能により歩行者の位置を強調表示※します。（→ P. 289）

※ 周囲の状況によっては強調表示しないことがあります。

ナイトビュー画面の表示のしかた

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 ヘッドランプを点灯する
- 3 ナイトビュースイッチを押す

ナビゲーション画面にナイトビュー画面が表示されます。

もとにもどすには再度スイッチを押します。

ライトセンサー（→ P. 215）が周囲の明るさの状態から夜と判断していないときは、ナイトビュースイッチを押してもナイトビュー画面は表示できません。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

歩行者検知機能について

映像から歩行者を検知すると、次のように表示することにより運転者に注意をうながします。

- 画面が3回白く点滅する
- 歩行者の位置を黄色の枠で表示する（歩行者検知枠）
- 画面の輪郭を黄色の枠で表示する（注意喚起枠）

歩行者検知機能は、ナイトビュー作動中で車速が約 15 ～ 80km/h のとき、作動します。

ナイトビュー画面表示について

■ メイン画面表示※



※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

- ① ナイトビュー画面
歩行者を検知すると3回白く点滅します。
- ② 歩行者検知枠
 - ・ 歩行者を検知すると注意喚起枠と共に表示されます。
 - ・ 検知された人数分の歩行者検知枠が表示されます。
 - ・ 歩行者が検知されなくなると注意喚起枠と共に表示が消えます。
- ③ 注意喚起枠
 - ・ 歩行者を検知すると歩行者検知枠と共に表示されます。
 - ・ 歩行者が検知されなくなると歩行者検知枠と共に表示が消えます。
- ④ 歩行者検知作動インジケータ
歩行者を検知可能かどうかアイコンで知らせます。

 : 作動中

 : 非作動中

⑤ サイド画面[※]表示切りかえスイッチ

ナイトビューをメイン画面で表示しているとき、リモートタッチ[※]を使って選択するとサイド画面を地図表示に変更できます。

再度スイッチを選択すると、もとの表示画面にもどります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

⑥ 画質調整表示切りかえスイッチ

リモートタッチを使って選択すると表示画面の明るさを調整できます。

お好みの明るさに調整したあと、「完了」を選択してください。

「明」：明るくする

「暗」：暗くする



■ サイド画面表示

ナイトビューをメイン画面に表示中、他の画面をメイン画面に表示すると、ナイトビュー画面はサイド画面に表示されます。

① ナイトビュー画面

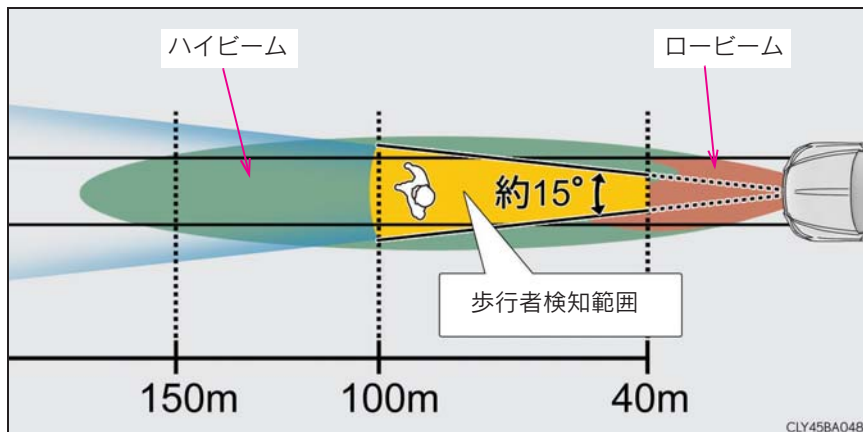
メイン画面と同様に、歩行者検知枠・注意喚起枠・歩行者検知作動インジケーターが表示されます。(→ P. 290)

② メイン画面表示スイッチ

ナイトビューを、サイド画面表示からメイン画面表示へ切りかえます。



ナイトビューが映し出せる範囲



■ 映像化できる範囲

ヘッドランプのロービーム照射範囲の先から、ハイビーム照射範囲の先までです。

■ 歩行者検知の範囲

車両前方約 15° 以内、距離は約 40 ~ 100m のあいだまでです。

車両の速度に応じて検知範囲はかわります。

 知識**■ 歩行者検知機能が作動しない環境**

●ワイパーが連続で作動したとき

●周囲の明るさが一定以上のとき

ナイトビュー画面を表示可能な周囲の明るさと、歩行者検知機能が作動する周囲の明るさは異なるため、ナイトビュー画面が表示されても歩行者検知機能が作動しないことがあります。

■ ナイトビュー作動中で車速が約 15km/h 以下のとき

近赤外線が照射されなくなるため、ナイトビュー画面に映像は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

■ ナイトビューが作動可能なとき以外にナイトビュースイッチを押したとき

ナビゲーション画面にアドバイス情報が表示されます。表示されたアドバイスに従ってください。

■ ナビゲーションシステムの起動完了前

ナビゲーションシステムの起動完了前にナイトビュースイッチを押しても、ナイトビュー画面は表示できません。

■ ナイトビュー作動中にシフトレバーを R にしたとき

ナイトビュー画面は次のように切りかわります。

メイン画面：バックガイドモニター画面に切りかわります。

サイド画面：黒色になり映像は表示されません。

 **警告****■ ナイトビューをお使いになる前に**

ナイトビューを過信しないでください。

ナイトビューは、夜間走行中に見えにくい前方の道路状況、歩行者認知を補助するものです。機能には限界がありますので、使用する場合は次の警告内容をお守りいただいた上で、安全運転に心がけてください。

■ ナイトビュー画面について

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 通常の目視のかわりに、ナイトビュー画面のみを見て運転しないでください。
- 運転中にナイトビュー画面を見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。ナイトビューはあくまで運転の補助として使用してください。
- ナイトビューは夜間のカーブの少ない道路を走行するときに運転者の視覚を補助するためのものです。坂道やカーブの多い場所、市街地では使用しないでください。道路形状（カーブの大きさ・勾配など）により表示できない場所があります。
- ナイトビューはすべてのものを明るく映像化できるわけではありません。全体が暗く映ったり、一部が見えにくくなることがあります。ナイトビューを過信せずに、ナイトビューを装着していない車と同様、必ず周囲の安全を確認しながら慎重に運転してください。

映像に映りにくいもの：

- ・ 特定の素材の衣類（本革ジャケットなど）
- ・ 看板の文字
- ・ 道路案内板の情報など

映像が映りにくい状況：

- ・ 雨・霧・降雪・吹雪などの悪天候時
- ・ 雨上がりの水たまりなど路面反射が大きいとき
- ・ カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき・汚れているとき・氷結しているとき
- ・ ヘッドランプ付近に氷・雪・泥などが付着しているとき
- ・ 著しく補機バッテリーの電圧が低下しているとき
- ・ 対向する強い光源が前方にあるとき

 **警告****■ 注意喚起枠について**

注意喚起枠は、ナイトビューの歩行者検知機能が歩行者を検知したときに表示され、運転者に注意を促すものです。

- 注意喚起枠が表示された場合は、前方に歩行者がいるおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- 注意喚起枠が出て、ナイトビュー画面を見続けしないでください。前方の危険を見落とすおそれがあります。
- 天候や道路状況、歩行者の状況により注意喚起するタイミングが遅くなり、歩行者との距離が近くなる場合があります。注意喚起枠が出た場合は、まず直接周囲の安全を十分に確認して運転してください。
- わき見運転の状態では機能を発揮できません。

■ 歩行者検知機能について

歩行者検知機能には限界があります。機能作動状態でも、次のような歩行者を検知できないおそれのある状況では作動しないことがあります。

- 映像が映りにくい状況
 - ・ 雨・霧・降雪・吹雪などの悪天候時
 - ・ ワイパー作動中および間欠作動時（ワイパー低速作動、高速作動中は歩行者検知機能を停止）
 - ・ カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
 - ・ ヘッドランプ付近に氷・雪・泥などが付着しているとき
 - ・ 著しく補機バッテリーの電圧が低下しているとき

など

- カーブや坂道・勾配のある道では、前方に歩行者がいても検知できない場合があります。
- 街路灯・照明・対向車の強いランプなど、強い光のある状態では検知しない場合があります。
- 自車の前方に歩行者が飛び出したときは、正しく検知できない場合があります。
- 歩行者検知範囲内でも、ガードレール・街路樹・柱・停車車両などで歩行者の体の一部が隠れている場合は検知できません。

 警告

- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差・形状・大きさを歩行者を判断しているため、機能には限界があります。また次の場合は、正しく検知できない場合があります。

体型・姿勢の影響：

- ・寝ている人、しゃがんでいる人
- ・身長 1m 以下、または 2m 以上の人
- ・連れだつて歩く複数の人（ナイトビュー画面で重なって見える場合）
- ・横向きに立っている人
- ・手を上げている人

衣服の影響：

- ・上下で反射率が大きく異なる服を着た人
- ・近赤外線カメラで暗く映るような近赤外線の反射率の低い服（本革ジャケットなど）を着た人
- ・コートや着物などで手足のシルエットのような特徴が出にくい服装の人
- ・反射材のタスキなどを身に付けた人

持ち物の影響：

- ・傘をさしている人
- ・大きな荷物・かばんなどを持っている人

その他：

- ・自転車に乗った人、自転車を押している人
- ・ベビーカーを押している人
- ・車いすの人・車いすを押している人
など

- 動物は検知しません。
- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差・形状・大きさを歩行者を判断しているため、人の形に似ているものがあつた場合、誤認識することがあります（看板・植木・テールランプなど）。

警告

■ 近赤外線投光器について

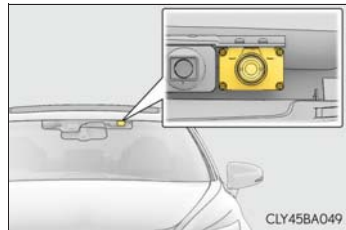
ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

- ヘッドランプ付近の汚れはナイトビューの性能に影響を与えます。汚れている場合は洗車などを行ってください。
- 近赤外線投光器は目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時では近赤外線は照射されませんが、安全のため、近くで長時間のぞきこまないようにしてください。



■ 近赤外線カメラについて

ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。



- フロントウィンドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。内側の汚れが気になる場合は、ガーニッシュの脱着が必要なためレクサス販売店にご相談ください。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- フロントウィンドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウィンドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウィンドウガラスにシールなどを貼らない

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 258）

◆ ハイブリッドシステムインジケータースの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータースの針をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 91）

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行きましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行きましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON / OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：

外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：

ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることとなりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ(4輪)やタイヤチェーン(後部タイヤ用)を使用してください。タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。(タイヤについて：→ P. 368)

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 **警告****■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する
- LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用しない

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用しない

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
(タイヤについての詳しい説明は P. 368 を参照してください)

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. レクサスクライメイト

コンシェルジュ

レクサスクライメイト コンシェルジュ	306
-----------------------------	-----

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	307
・ インテリアランプ	308
・ パーソナルランプ	309

5-3. 収納装備

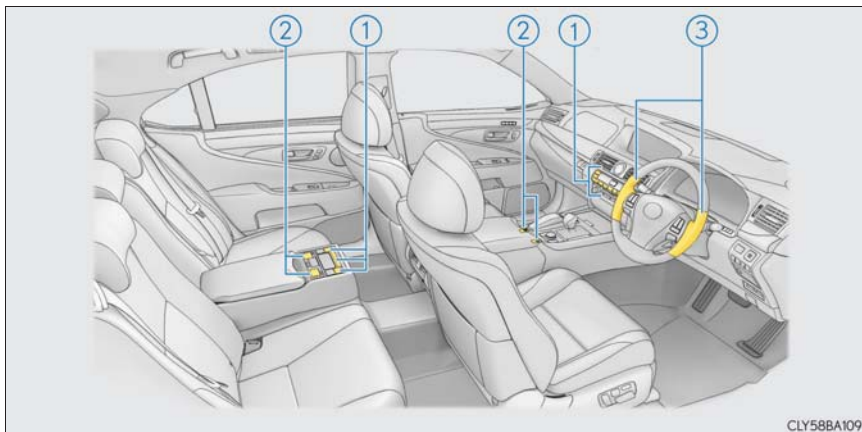
収納装備一覧	311
・ グローブボックス	313
・ コインホルダー	314
・ ドアポケット	314
・ カップホルダー	315
・ コンソールボックス	317
・ 小物入れ	318
トランク内装備	321

5-4. その他の室内装備の使い方

サンバイザー／ バニティミラー	324
時計	326
灰皿	327
シガレットライター	328
アクセサリソケット／ アクセサリコンセント	330
ステアリングヒーター	334
コンフォータブル・ エアシート	336
アームレスト	341
テーブル	342
リヤサンシェード	344
リヤドアサンシェード	348
コートフック	351
アシストグリップ	352

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、各席のコンフォータブルエアシート★、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。



- ① エアコン(別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください)オート設定にします。

運転席・助手席及び後席左右★の設定温度を別々に調整することができます。

- ② コンフォータブルエアシート★ (→P. 336, 337)
各席でオート設定にします。

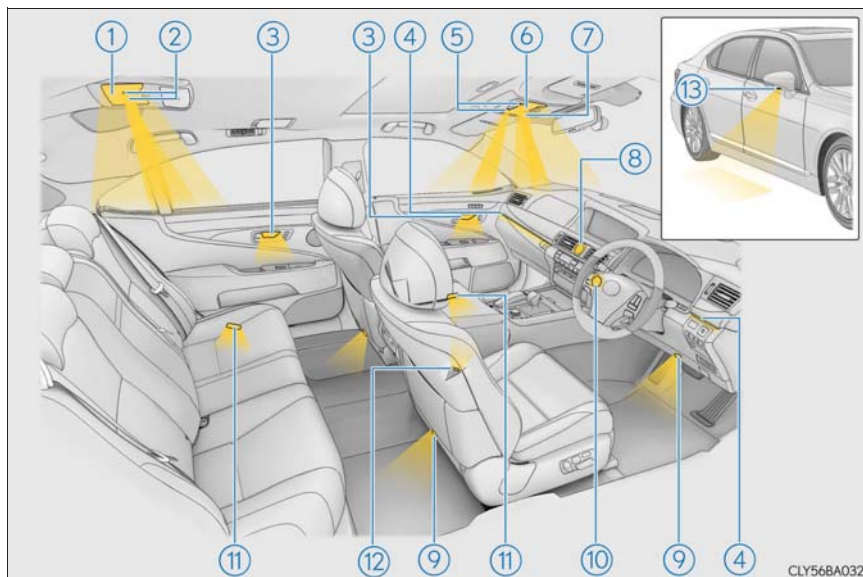
エアコンの設定温度、外気温などに応じて、暖房、OFF、送風、冷房が自動的に切りかわります。

- ③ ステアリングヒーター (→P. 334)
外気温、車室内温度に応じて自動で作動します。

最大約 30 分後に OFF します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

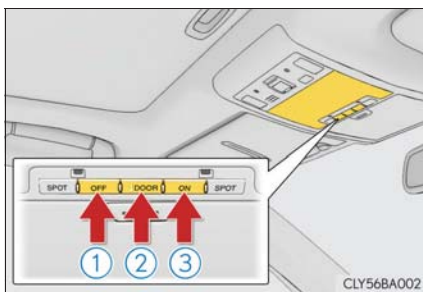


- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| ① リヤインテリアランプ
(→P. 308) | ⑦ フロントインテリアランプ
(→P. 308) |
| ② リヤパーソナルランプ
(→P. 309) | ⑧ 時計照明 |
| ③ インサイドハンドル照明 | ⑨ 足元照明 |
| ④ インstrumentパネルオーナメント照明 | ⑩ パワースイッチ照明 |
| ⑤ フロントパーソナルランプ
(→P. 309) | ⑪ ドアカーテシランプ |
| ⑥ シフト照明 | ⑫ シートベルトバックル照明 |
| | ⑬ ドアミラー照明 |

インテリアランプ

▶ フロント

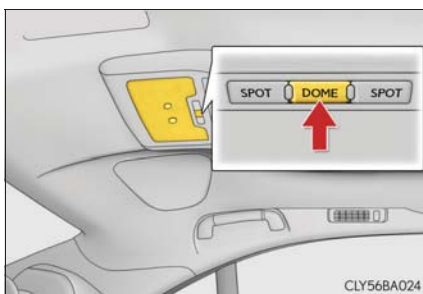
- ① OFF (消灯)
- ② ドアポジション (ドア連動)
ON/OFF
- ③ ON (点灯)



▶ リヤ

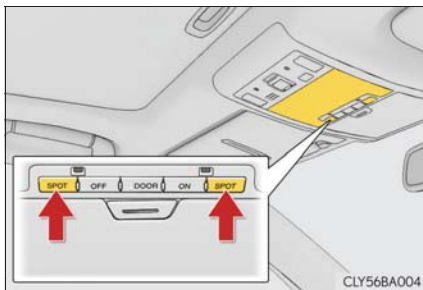
点灯／消灯

フロントインテリアランプのドアポジションが ON のときは、ドアの開閉によっても点灯、消灯します。

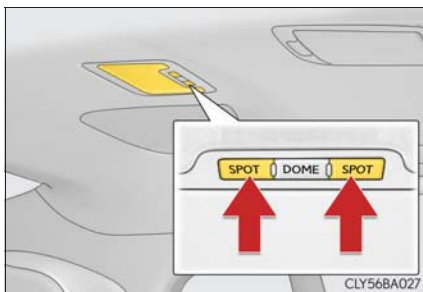


パーソナルランプ

- ▶ フロント
点灯／消灯

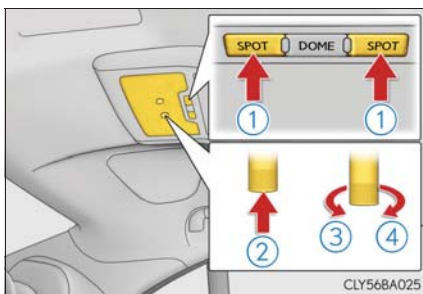


- ▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ非装着車）
点灯／消灯



- ▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ装着車）

- ① 点灯／消灯
- ② ツマミを押して出します。左右にまわして明るさを調整できます。
- ③ 暗くなる
- ④ 明るくなる



 知識■ **イルミネテッドエントリーシステム**

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**

パワースイッチを OFF にしたときに、以下の室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

- インテリアランプ
- ドアカーテシランプ
- インサイドハンドル照明
- パーソナルランプ
- 足元照明
- パワースイッチ照明
- シートベルトバックル照明

■ **カスタマイズ機能**

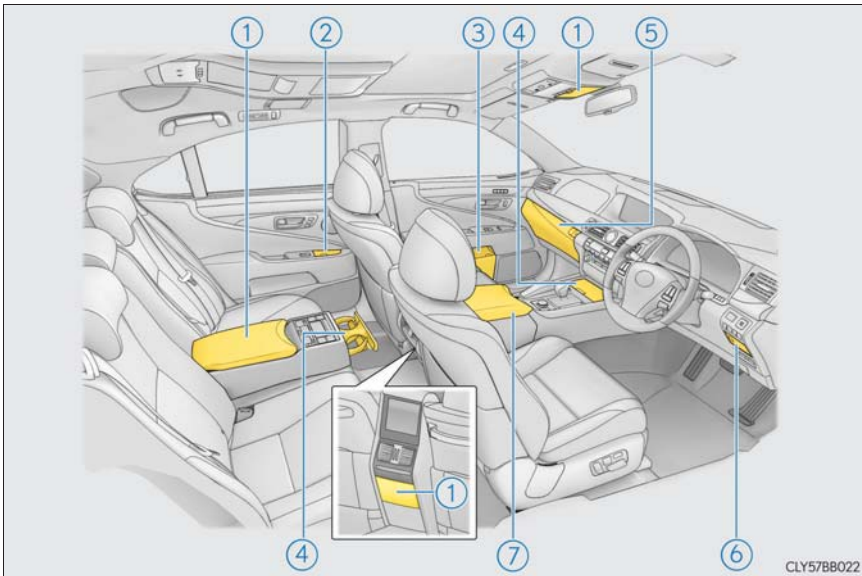
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P. 459)

 注意■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

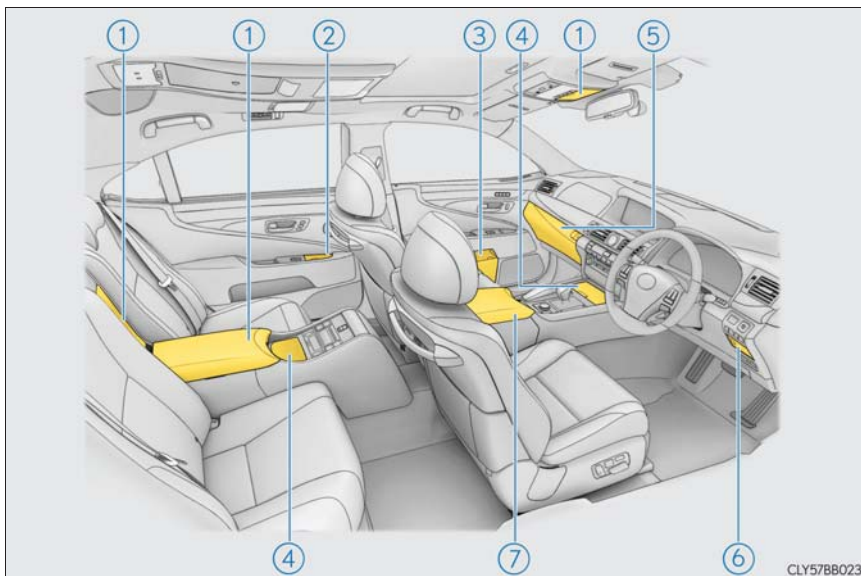
▶ 5人乗り



- | | | | |
|----------------|------------------------|-------------|-----------|
| ① 小物入れ★ | (→P. 318) | ④ カップホルダー | (→P. 315) |
| ② 小物入れ★
灰皿★ | (→P. 318)
(→P. 327) | ⑤ グローブボックス | (→P. 313) |
| ③ ドアポケット | (→P. 314) | ⑥ コインホルダー | (→P. 314) |
| | | ⑦ コンソールボックス | (→P. 317) |

★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ 4人乗り



- | | | | |
|----------------|------------------------|-------------|-----------|
| ① 小物入れ | (→P. 318) | ④ カップホルダー | (→P. 315) |
| ② 小物入れ★
灰皿★ | (→P. 318)
(→P. 327) | ⑤ グローブボックス | (→P. 313) |
| ③ ドアポケット | (→P. 314) | ⑥ コインホルダー | (→P. 314) |
| | | ⑦ コンソールボックス | (→P. 317) |


警告
■ 収納装備に放置してはいけないもの

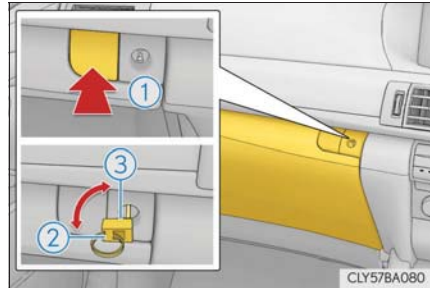
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

★：仕様により異なる装備やオプション装備

グローブボックス

- ① 開ける（ボタンを押す）
- ② メカニカルキーで解錠
- ③ メカニカルキーで施錠



知識

■ グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■ トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P. 134）

警告

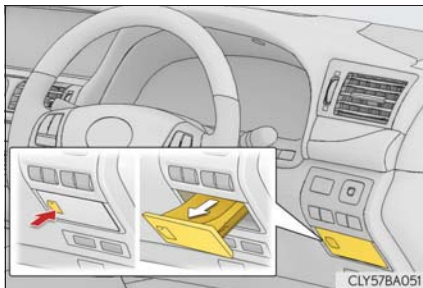
■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時や急旋回などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインホルダー

ボタンを押す



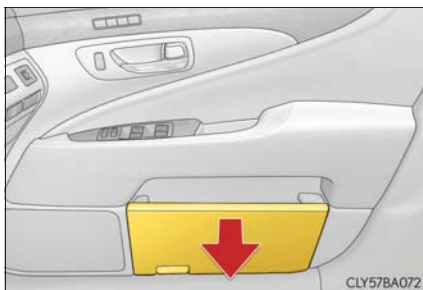
警告

■ 走行中の警告

コインホルダーを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコインホルダーが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアポケット（フロント席）

フロントドアのドアポケットは開閉することができます。



警告

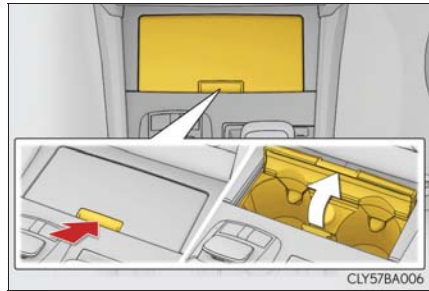
■ 走行中の警告

ドアポケットを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

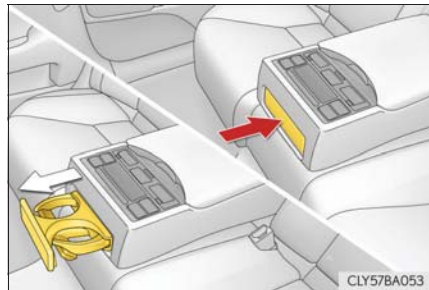
▶ フロント

カップホルダーのふたのうしろ側を押す



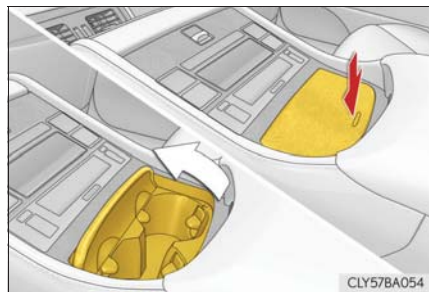
▶ リヤ (5人乗り)

カップホルダーを押す



▶ リヤ (4人乗り)

カップホルダーのふたのうしろ側を押す



知識

■ リヤカップホルダーを収納するとき (5人乗り)

アームレストを倒した状態で収納してください。アームレストを倒した状態にしないと、収納できません。

 警告**■ 収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために
温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ やけどを防ぐために（シガレットライター装着車）

- フロントカップホルダー内のシガレットライターの金属部分に触れないでください。
- フロントカップホルダー内のシガレットライターを押し込んだままにしないでください。

■ 使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ カップホルダーの破損を防ぐために（5人乗り）**

リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

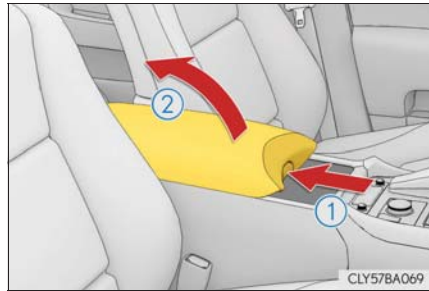
■ ショートや故障を防ぐために（アクセサリースOCKET装着車）

フロントカップホルダー内のアクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などが
かかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

コンソールボックス

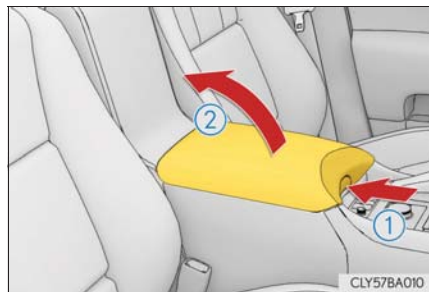
▶ 4人乗りまたは後席9型ワイドディスプレイ非装着の5人乗り

- ① ボタンを押しながらアームレストをスライドさせる
- ② アームレストを持ち上げる



▶ 後席9型ワイドディスプレイ装着の5人乗り

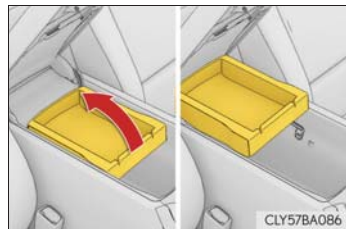
- ① ボタンを押す
- ② アームレストを持ち上げる



知識

■ コンソールボックス内のトレイについて(4人乗りまたは後席9型ワイドディスプレイ非装着の5人乗り)

トレイは引き上げた状態でも使うことができます。



■ 開閉操作の補助機能(4人乗りまたは後席9型ワイドディスプレイ非装着の5人乗り)

コンソールボックスの開閉を途中まで行くと、開閉操作を補助するように、操作方向に適切に力が働きます。

警告**■ 走行中の警告**

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

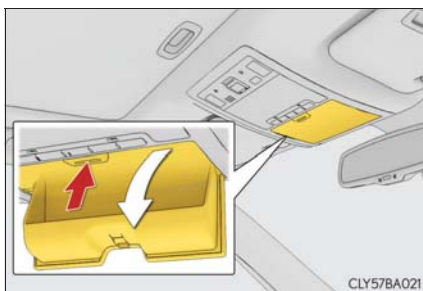
注意**■ トレイについて（4人乗りまたは後席9型ワイドディスプレイ非装着の5人乗り）**

トレイの高さ以上にものを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

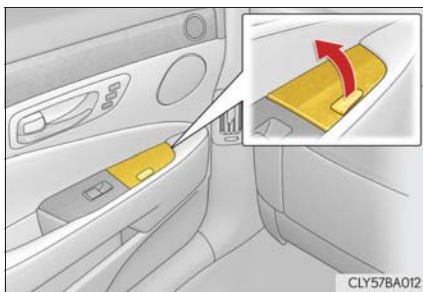
小物入れ**▶ 天井★**

ボタンを押す

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

**▶ リヤドア★**

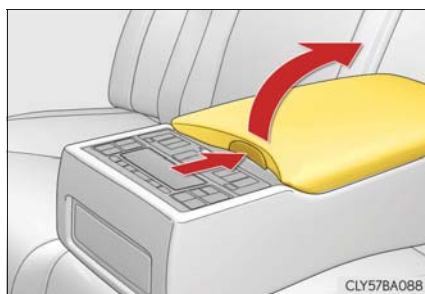
ふたを開ける



★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ リヤシート (5人乗り)

- 1 アームレストを手前に倒す (→P. 341)
- 2 ボタンを押して、ふたを持ち上げる



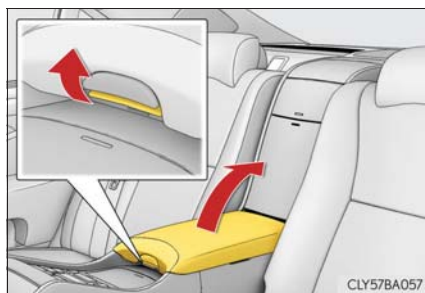
▶ リヤシート (4人乗り)

ふたの上側を押す

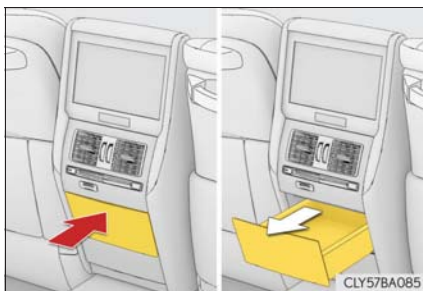
DVD やヘッドフォンを収納するのに便利です。



レバーを引き上げてロックを解除し、アームレストを持ちあげる



- ▶ コンソール背面(センターコンソール付後席ディスプレイ装着の5人乗り)ふたを押す



知識

■ コンソール内のトレイについて

トレイは取りはずすことができます。



警告

■ 安全にお使いいただくために (リヤドア)

小物入れを灰皿として使用しないでください。

■ 走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。

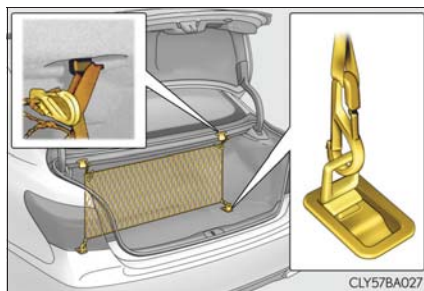
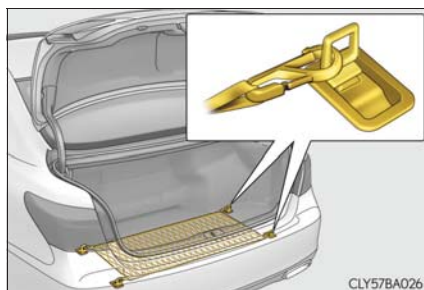
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

トランク内装備

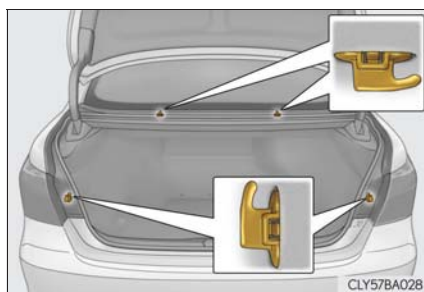
荷物固定用ネット

ネットを使って荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

床上のフックを引き上げます。ネットをフックにかけます。



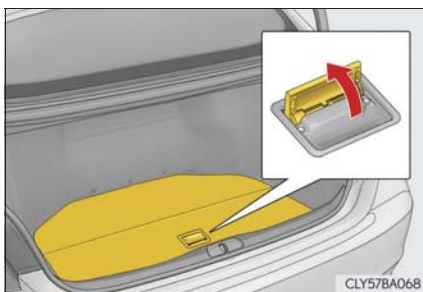
買い物フック



ラゲージマット

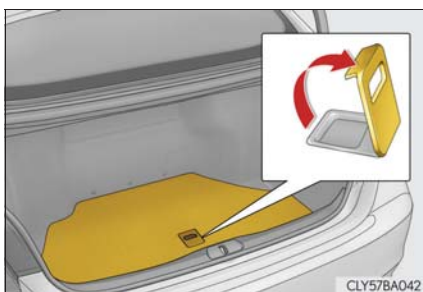
- ▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたむ

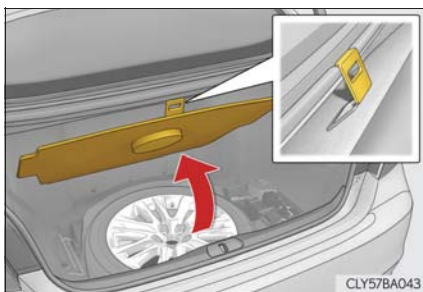


- ▶ スペアタイヤ装着車

- ① フックを持ってラゲージマットを持ち上げる

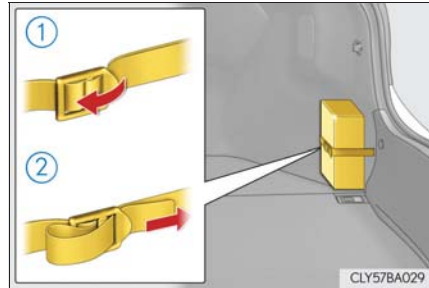


- ② フックを使ってラゲージマットを固定する



救急箱等固定用バンド

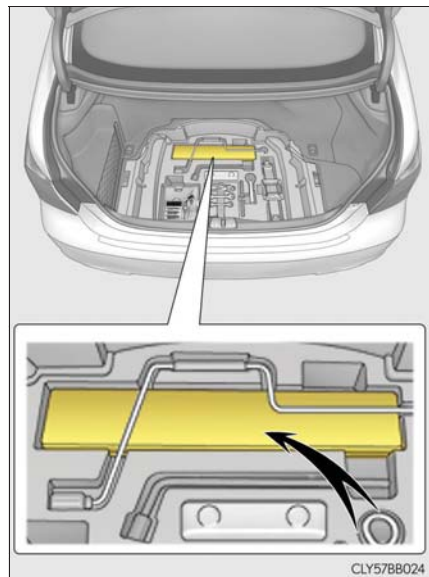
- ① ゆるむ
- ② 締まる



三角表示板収納スペース

三角表示板を収納することができるスペースです。

(大きさ、形によっては収納できないことがあります。)



警告

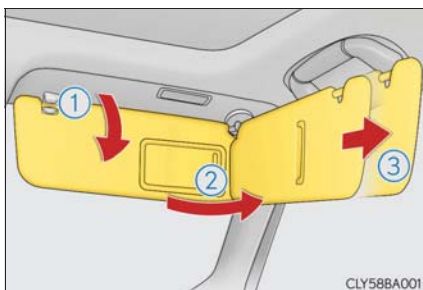
■ 荷物固定用ネットを使用しないときは

必ず固定用フックをもとの位置に戻しておいてください。

サンバイザー／バニティミラー

サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- ③ エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

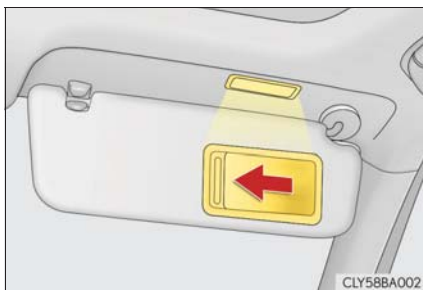


バニティミラー

▶ フロント

カバーをスライドして開ける

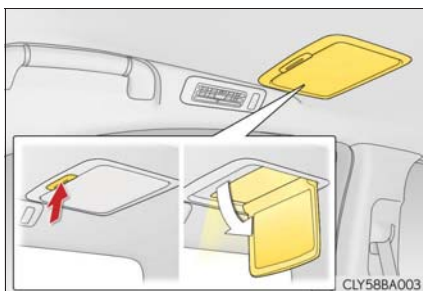
カバーを開けるとランプが点灯します。



▶ リヤ

ボタンを押して開ける

ランプが点灯します。



 知識**■ バッテリーあがりを防ぐために**

パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

 注意**■ 使用しないときは**

バニティミラーを必ず閉じてください。

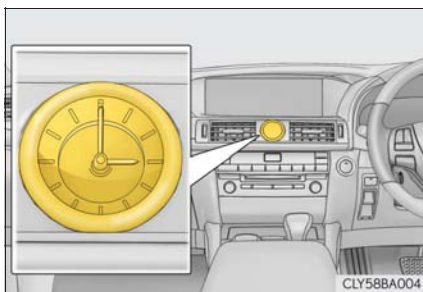
■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

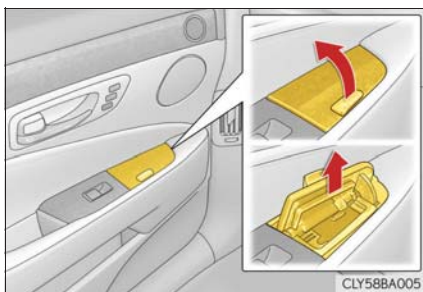
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



灰皿★

ふたを開ける

取りはずすときは、ふたを持って引き上げます。



警告

■ 使用しないときは

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

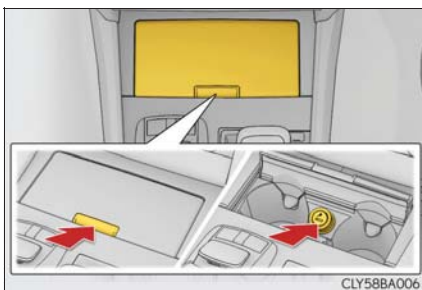
- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

シガレットライター★

▶ フロント

カップホルダーのふたを開けて、シガレットライターを押し込む

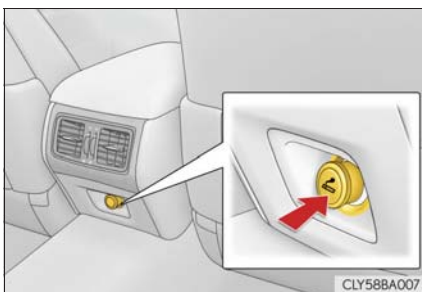
もとの位置に戻ったら使用できます。



▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ非装着の 5 人乗り）

シガレットライターを押し込む

もとの位置に戻ったら使用できます。



▶ リヤ（天井格納式後席 9 型ワイドディスプレイ装着の 5 人乗り）

シガレットライターを押し込む

もとの位置に戻ったら使用できます。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

▶ リヤ（4人乗り）

シガレットライターを押し込む

もとの位置に戻ったら使用できません。

 知識

■ 使用条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

 警告

■ やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■ 使用後について（フロント）

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

アクセサリースOCKET/アクセサリコンセント

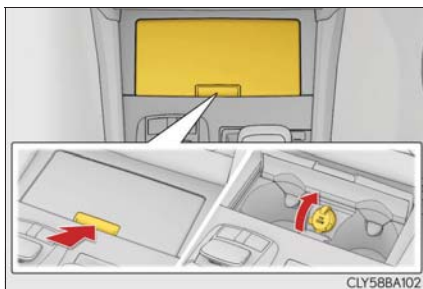
次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12V : DC12V で最大電流 10A (最大消費電力 120W) 以下の電気製品
AC100V : AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ アクセサリースOCKET

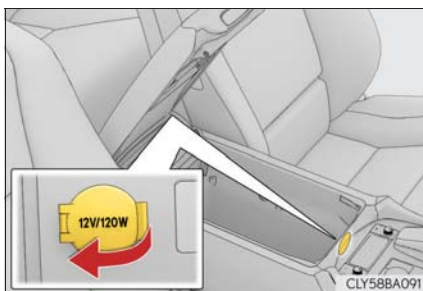
▶ フロント★

カップホルダーのふたを開けて使用する



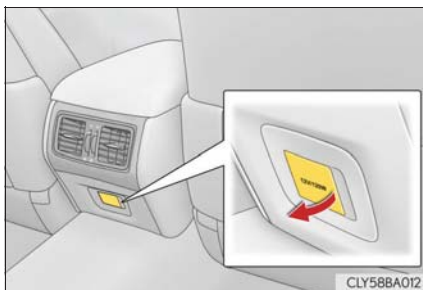
▶ コンソールボックス

ふたを開けて使用する



▶ リヤ (後席 9 型ワイドディスプレイ非装着の 5 人乗り) ★

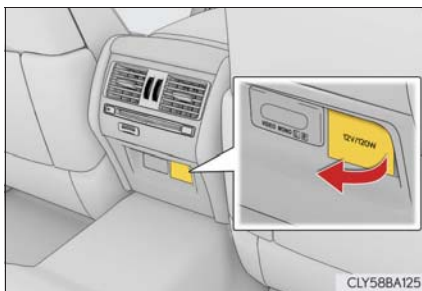
ふたを開けて使用する



★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

- ▶ リヤ（天井格納式後席 9 型ワイドディスプレイ装着の 5 人乗り）★

ふたを開けて使用する



- ▶ リヤ（センターコンソール付後席ディスプレイ装着の 5 人乗り）

ふたを開けて使用する



- ▶ リヤ（4 人乗り）★

ふたを開けて使用する

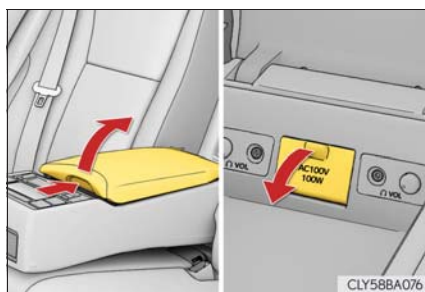


★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ アクセサリーコンセント

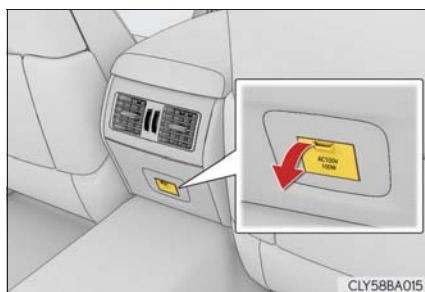
▶ 5人乗り

ふたを開けて使用する



▶ 4人乗り

ふたを開けて使用する



■ 知識

■ 使用条件

▶ アクセサリーソケット

パワースイッチがアクセサリーまたは ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

パワースイッチが ON モードのとき

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

▶ アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

▶ アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

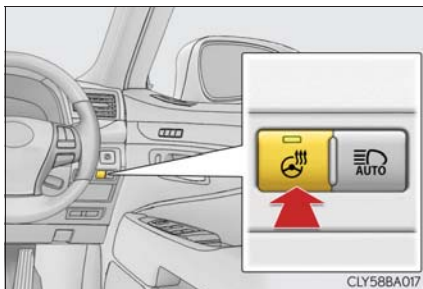
ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部分を暖めることができます。

▶ オート作動

パワースイッチを ON モードにしたときの外気温・車室内温度に応じて自動で作動します。スイッチで OFF にすることができます。

作動中はスイッチ上のインジケータが点灯します。



▶ マニュアル作動

ON/OFF を切りかえる

作動中はスイッチ上のインジケータが点灯します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ タイマー機能

マニュアル作動：約 30 分後に自動で OFF になります。

オート作動：最大約 30 分後に OFF になります。(外気温・車室内温度に応じて自動で OFF になります。)

■ インジケータが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

ステアリングヒーターのオート作動 ON/OFF など変更することができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 459)

 **警告****■ やけどについて**

低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたが触れないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

 **注意****■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

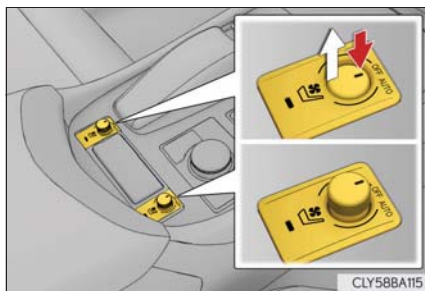
コンフォータブル・エアシート★

シートをあたためたり、冷やしたりすることができます。オート設定時はエアコンの設定状態に連動して自動で調整されます。

フロントコンフォータブル・エアシート

1 ツマミを押して出す

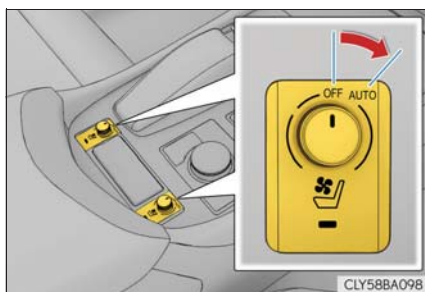
操作しないときは、ツマミを押し込みもとの位置に戻してください。



▶ オート設定

2 ツマミを AUTO に設定する

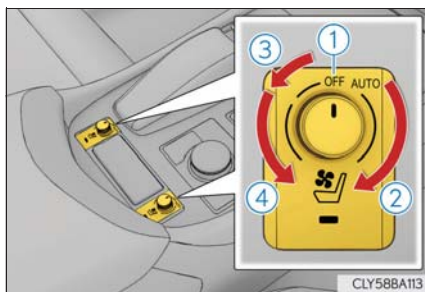
オート設定中はエアコンの設定状態に応じて、暖房、OFF、送風、冷房が自動的に切りかわります。



▶ マニュアル設定

2 左右にまわして温度を設定する

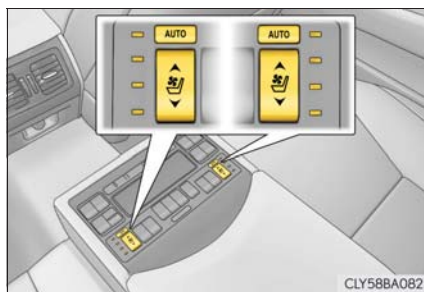
- ① OFF
- ② 暖房
- ③ 送風
- ④ 冷房



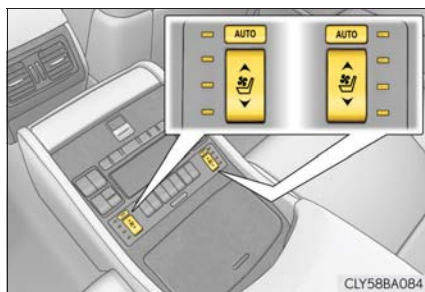
★：仕様により異なる装備やオプション装備

リヤコンフォータブル・エアシート★

▶ 5人乗り



▶ 4人乗り



■ オート設定

ON/OFF を切りかえる

オート設定中はインジケーターが点灯します。

オート設定中はエアコンの設定状態に応じて、暖房、OFF、送風、冷房が自動的に切りかわります。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ マニュアル設定

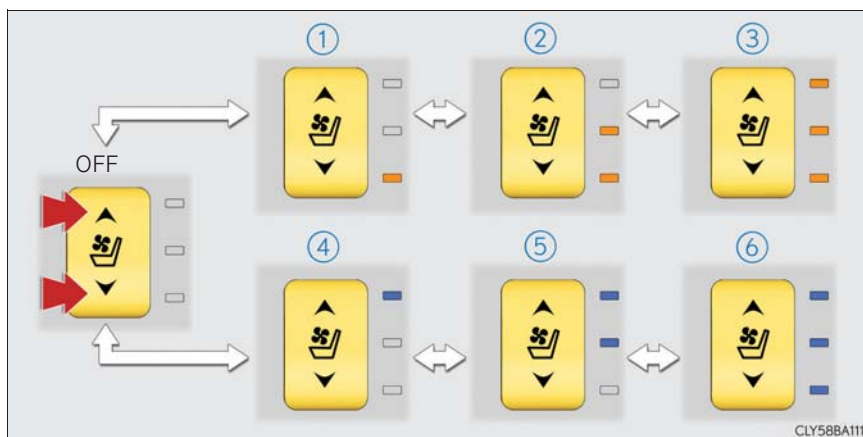
暖房・冷房の強さをそれぞれ3段階に切りかえることができます。

暖房：OFFの状態から“▲”を押すと暖房になります。

“▲”を押すごとに強くなり、“▼”を押すごとに弱くなります。

冷房：OFFの状態から“▼”を押すと冷房になります。

“▼”を押すごとに強くなり、“▲”を押すごとに弱くなります。



暖房※1

- ① 弱
- ② 中
- ③ 強

冷房※2

- ④ 弱
- ⑤ 中
- ⑥ 強

※1 インジケーターが橙色に点灯します。

※2 インジケーターが青色に点灯します。

 知識**■ コンフォータブル・エアシートの作動条件**

パワースイッチがONモードのとき

■ コンフォータブル・エアシートの作動について

外気温、シート表面の温度によって暖房が強めに作動する場合があります。

■ リヤコンフォータブルエアシートのフロント席からの操作

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ 後席操作禁止制御

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ フィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

■ カスタマイズ機能

オート設定の作動などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 459)

 **警告****■ やけどや冷やしすぎを防ぐために**

- 低温やけどや冷やしすぎのおそれがあるため、以下のかたは特にご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
コンフォータブル・エアシートの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 **注意****■ コンフォータブル・エアシートの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

アームレスト（5人乗り）

手前に倒して使用します。

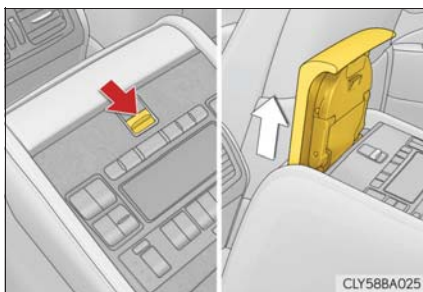


注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

テーブル（4人乗り）

- 1** レバーをスライドさせてテーブルを上げる

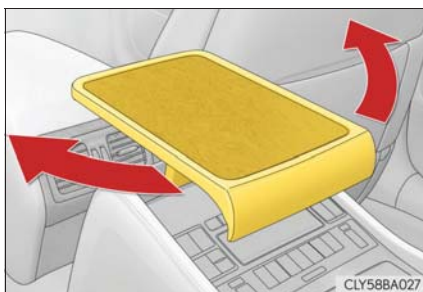


- 2** テーブルを引き上げ、手前へ倒す

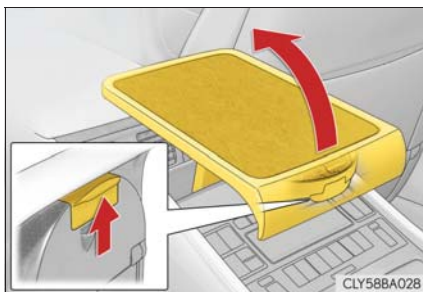


テーブルの向きを変えることができます。テーブルを使用する前に、必ずロックされている事を確認してください。

前席のパワーシートはテーブルに接触しそうなると作動が止まります。
(→P. 145、162)



テーブルを戻すには、ロック解除レバーを引きながらテーブルを上げてください。



 **警告****■ 使用しないときは**

けがを防ぐために、テーブルを戻してください。

■ 走行中の警告

テーブルを確実に戻してください。事故や急ブレーキ時などに、テーブルに接触し、重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

■ テーブル使用中について

以下の注意をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

- テーブルが確実にロックされていることを確認してください。
- テーブルにもたれかけないでください。
- テーブルの上に 10kg を超える物体を置かないでください。

 **注意****■ テーブルの破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

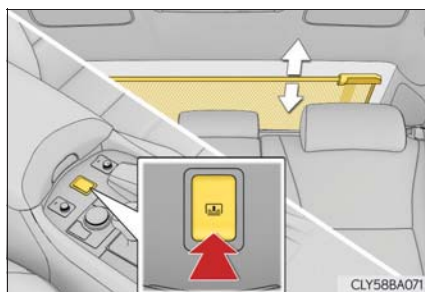
リヤサンシェード

スイッチ操作でリヤサンシェードを展開／格納できます。

■ フロント席からの操作

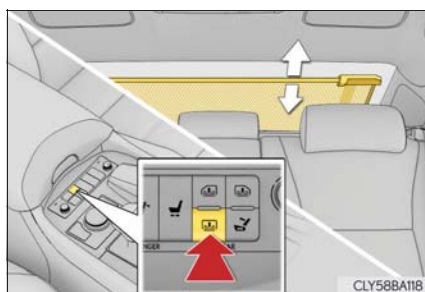
▶ パワーリヤシート非装着車

展開／格納



▶ パワーリヤシート装着車

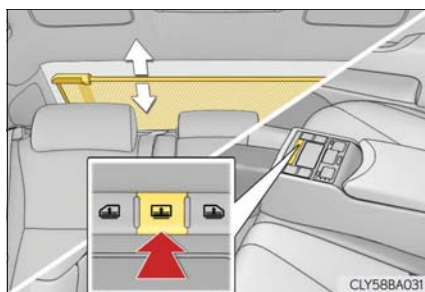
展開／格納



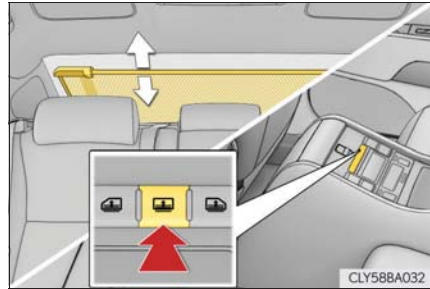
■ リヤ席からの操作

▶ パワーリヤシート装着の5人乗り

展開／格納



- ▶ 4人乗り
展開／格納



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 60 秒間リヤサンシェードを操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、以下のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを P と R 以外にし、15km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でエンジンを切った場合は、再びエンジンをかけて 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■ ボタンロック機能

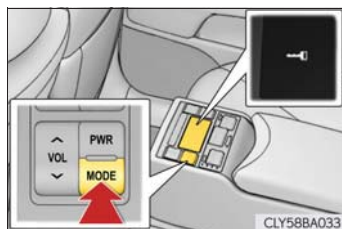
誤った作動を防止するために、リヤアームレストのリヤサンシェード、リヤドアサンシェード、オーディオ、エアコンの操作を禁止することができます。

▶ 5人乗り

ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。

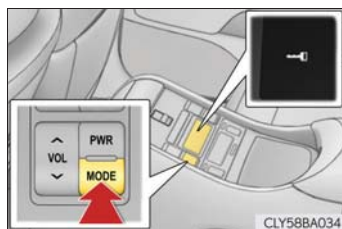


▶ 4人乗り

ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。



 **警告****■ リヤサンシェード作動中は**

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 **注意****■ 補機バッテリーあがりを防ぐため**

ハイブリッドシステムが停止しているときはリヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

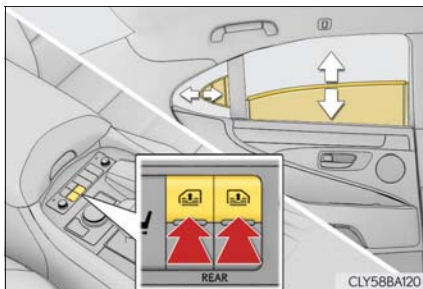
- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

リヤドアサンシェード★

スイッチ操作でリヤドアサンシェードを伸縮できます。

■ フロント席からの操作

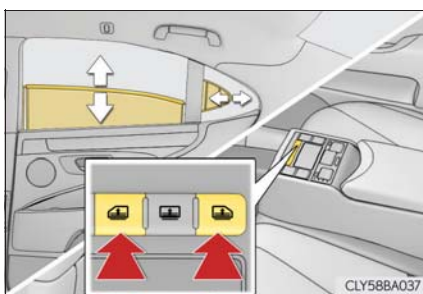
展開／格納



■ リヤ席からの操作

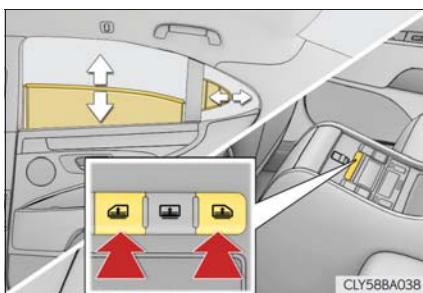
▶ 5人乗り

展開／格納



▶ 4人乗り

展開／格納



★：仕様により異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON モードのとき
- リヤドアガラスが完全に閉じているとき
リヤドアガラスを開けると自動的にリヤドアサンシェードが格納します。

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

“パワー” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 60 秒間リヤサンシェードを操作できます。

■ 挟み込み防止機能

リヤドアサンシェードと窓枠との間に異物が挟まると挟み込み防止機能が作動し、アームからサンシェードがはずれてサンシェードが格納します。

▶ 展開作動中で挟み込み防止機能が作動したら

スイッチを押すとアームとサンシェードが連結されます。

スイッチをもう一度押すことで再び使用できます。

もしスイッチを押してもサンシェードが作動しない場合は、もう一度操作してください。

▶ 格納作動中に挟み込み防止機能が作動したら

サンシェードを再び展開させるためにボタンを押し、そのままサンシェードが完全に展開し停止してから 5 秒以上経過するまでボタンを押しつづけてください。

■ ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤアームレストの一部のボタン操作を禁止することができます。(→P. 346)

■ 補機バッテリーを再接続したときは

補機バッテリーを再接続したあと、最初にスイッチを操作をすると、必ずリヤドアサンシェードは格納方向に動きます。

 **警告****■ リヤドアサンシェード作動中は**

リヤドアサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

 **注意****■ 補機バッテリーあがりを防ぐため**

ハイブリッドシステムが停止しているときはリヤドアサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

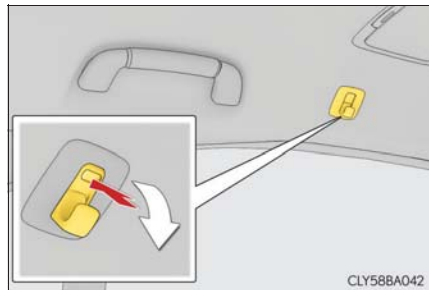
以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤドアサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

コートフック

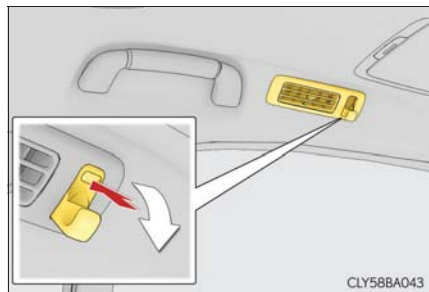
▶ リヤエアコン非装着車

使用するときには、コートフックを押します。



▶ リヤエアコン装着車

使用するときには、コートフックを押します。



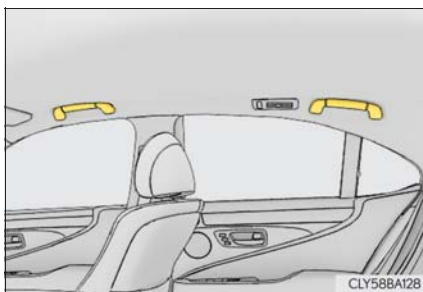
⚠ 警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、シートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	354
内装の手入れ	357

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	360
ガレージジャッキ	363
エンジンルームカバー	365
ウォッシャー液の補充	367
タイヤについて	368
電子キーの電池交換	376
ヒューズの点検・交換	378
電球（バルブ）の交換	382

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
 - ・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・ 金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

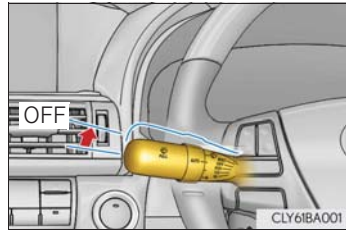
⚠ 警告

■ 洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
 - 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
 - フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
 - 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき
- 排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付き）について

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 **警告****■ 後方プリクラッシュセーフティシステム★について**

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

 **注意****■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

 知識**■ 本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
(本革張りインストルメントパネルには必要ありません)

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 **警告****■ 車両への水の浸入**

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 71)

駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 39)

電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 本革張りインストルメントパネルを手入れするときは

保護剤（コーティングなど）を使用しないでください。

インストルメントパネルの反射がフロントガラスに映り込み、前方視界がさまたげられて思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 白空部分を清掃するときは

木目の溝に汚れが残りやすいため、中性洗剤またはレクサス純正の内装クリーナーを使用して清掃してください。他のクリーナーを使用すると色落ち・変色するおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

**■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは
(LKA [レーンキーピングアシスト] 装着車)**

白線認識用カメラ (→ P. 249) にさわらないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、LKA の誤作動や故障につながるおそれがあります。

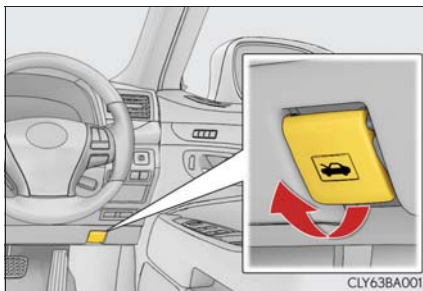
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

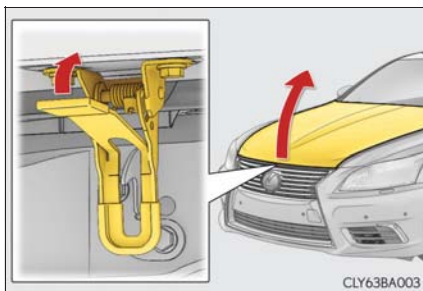
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

- 1 ボンネットオープナーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



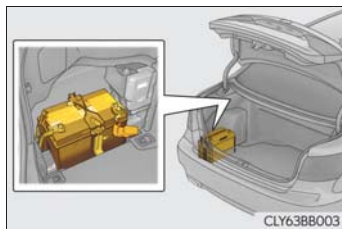
- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



知識

■ 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはトランク（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）



警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■ 補機バッテリーの交換について**

交換する際は LS600h/LS600hL 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

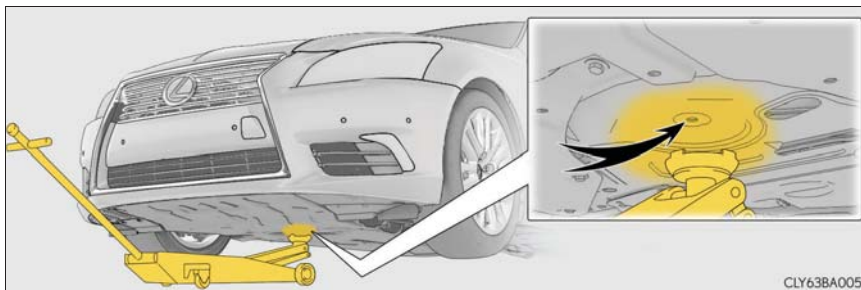
- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

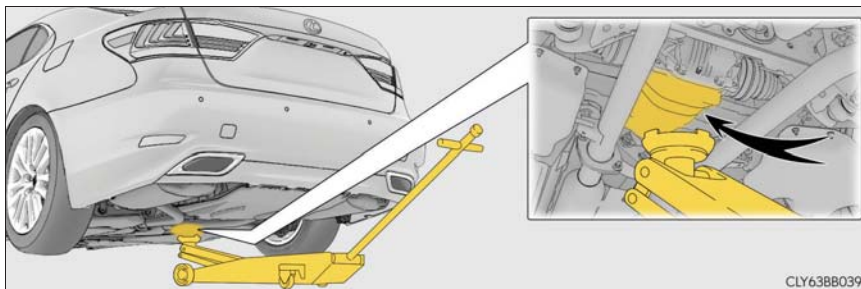
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



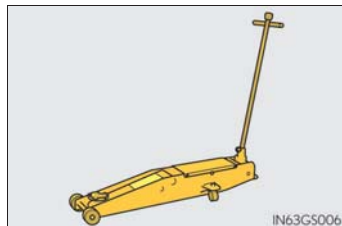
◆ リヤ側



警告**■ 車両を持ち上げるとき**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる



- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- 車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しない
- 平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにする
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないよう、必ずハイブリッドシステムを停止する (→ P. 262)

エンジンルームカバー

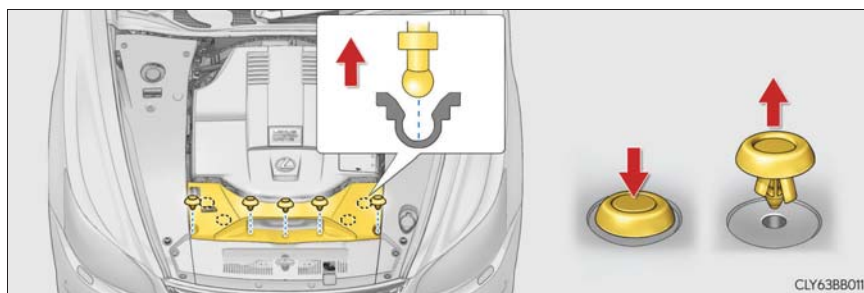
ヒューズの交換・点検などを行うときに取りはずします。

エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ 外側



▶ 前側



クリップの取り付け方

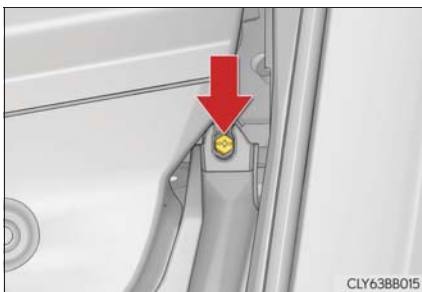
▶ タイプ A

- ① クリップの中央部分を押し上げる
- ② 挿し込む
- ③ クリップ中央部分を押し



▶ タイプ B

クリップを押す



⚠ 警告

■ けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

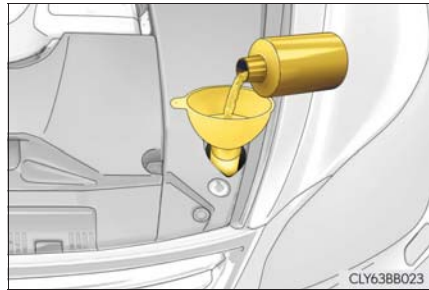
■ エンジンルームカバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあります。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

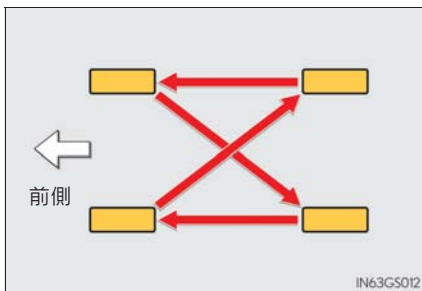
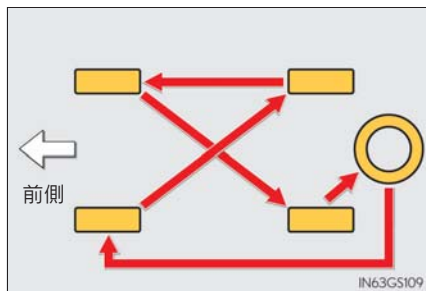
タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

- ▶ スペアタイヤ装着車

- ▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 400, 403)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。(→ P. 96)



空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。(→ P. 371)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

タイヤサイズを変更した場合、およびタイヤローテーションを実施したときは、初期化操作を行ってください。

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、ハイブリッドシステムを停止する

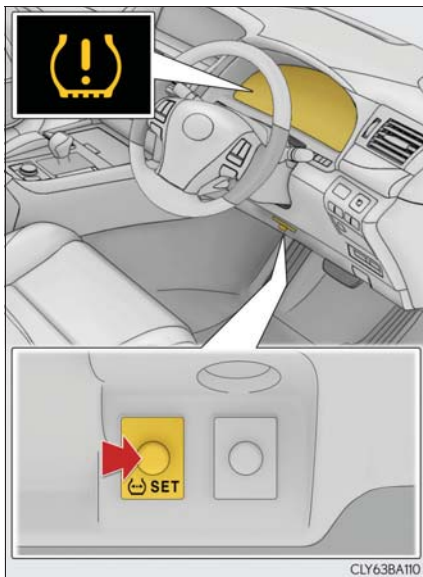
車両が動いているときは、初期化できません。

- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する (→ P. 371, 458)

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 パワースイッチを ON モードにする

- 4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける



- 5 パワースイッチを ON モードにしたまま数分[※]待ち、その後パワースイッチを OFF にする

[※] 設定が完了するには 2～3 分かかります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ/送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ/送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

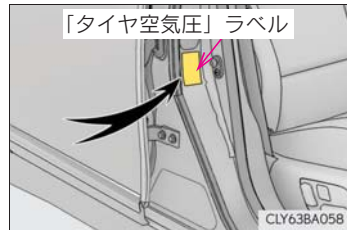


■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧* kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
18 インチ	230 (2.3)	240 (2.4)
19 インチ	230 (2.3)	250 (2.5)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

* タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ/送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤローテーションを行うとき

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

● 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・ ロックナットを装着しているとき
- ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・ 電波状況の悪い場所にスペアタイヤが置いてあるとき（スペアタイヤ装着車）
- ・ 信号の受信に干渉する可能性のある大きな金属物がトランク内にあるとき（スペアタイヤ装着車）
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

● 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

● 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

● タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■ 初期化操作について

- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- 初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■ タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

- スイッチ操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）
- 初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

警告**■異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

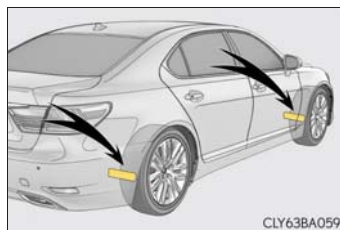
- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約 45cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ バンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

電子キーの電池交換

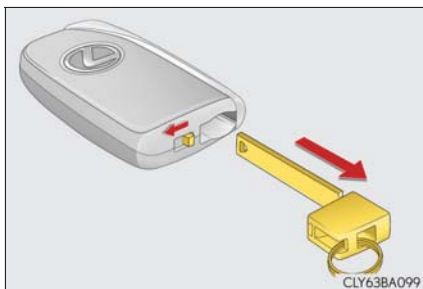
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

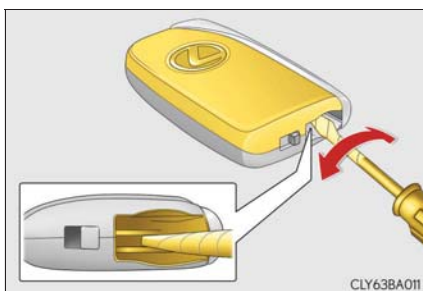
電池交換のしかた

- 1** メカニカルキーを抜く



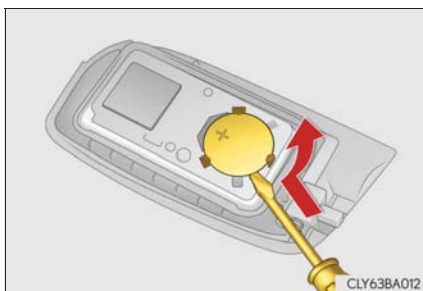
- 2** カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3** 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



 知識**■ リチウム電池 CR1632 の入手**

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 **警告****■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
電池がさびる原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

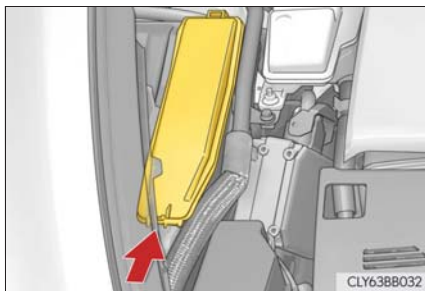
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

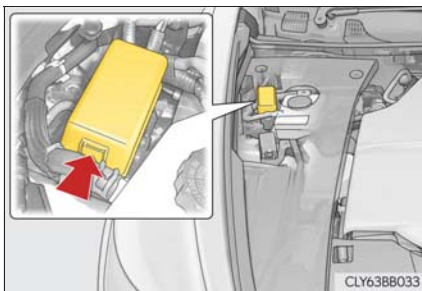
▶ エンジンルーム (1)

エンジンルームカバーを取りはずし (→ P. 365)、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



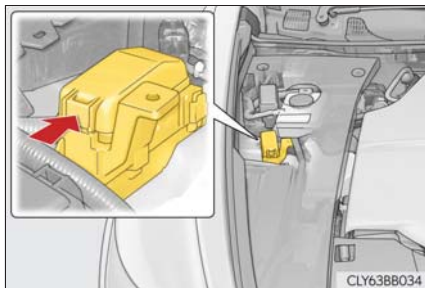
▶ エンジンルーム (2)

エンジンルームカバーを取りはずし (→ P. 365)、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



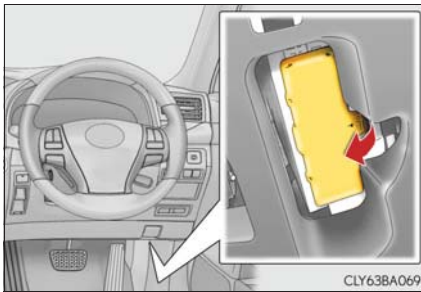
▶ エンジンルーム (3)

エンジンルームカバーを取りはずし (→ P. 365)、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



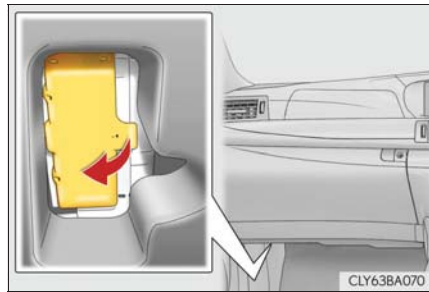
▶ 運転席足元

カバーを取りはずす



▶ 助手席足元

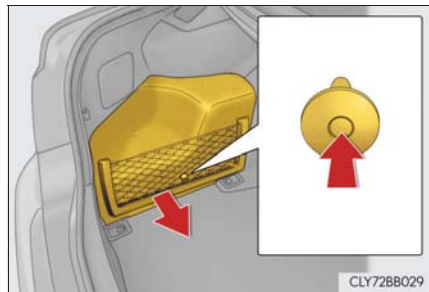
カバーを取りはずす



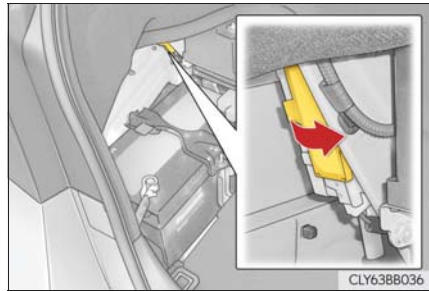
▶ トランク内

補機バッテリーカバーを取りはずす

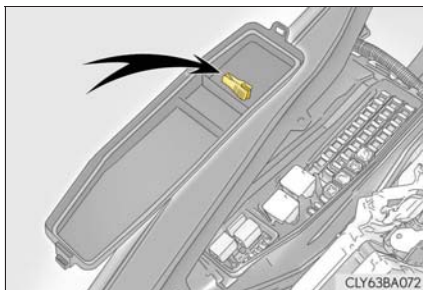
カバーの取り付け：→ P. 442



カバーを取りはずす



- 3** ヒューズを引き抜く
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

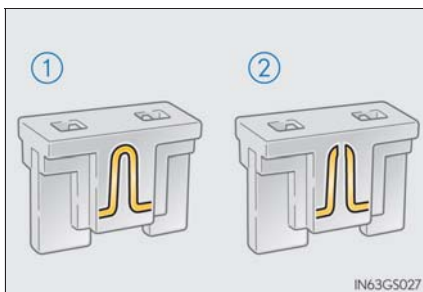


- 4** ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



 知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 382)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換をおこなわないでください。

取り扱いを誤ると感電し、生命に関わるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→ P. 458）

バルブ位置

リヤフォグランプ★

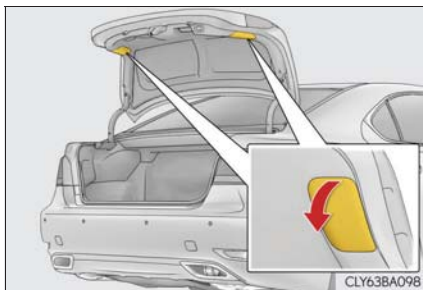


★：仕様により異なる装備やオプション装備

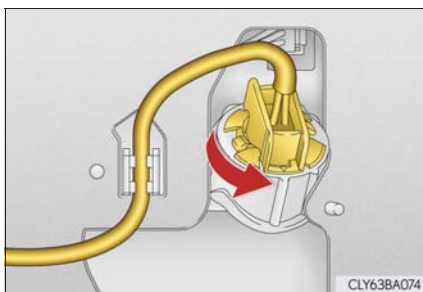
電球交換のしかた

■ リヤフォグランプ★

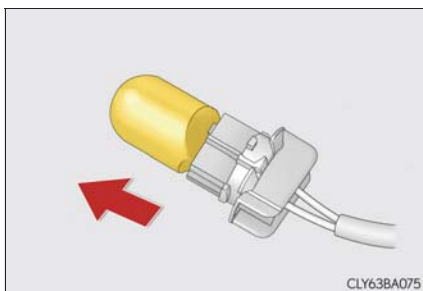
- 1 トランクを開け、カバーを取りはずす



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ロービーム）
- ヘッドランプ（ロー／ハイビーム）
- ヘッドランプ（ハイビーム）（LKA [レーンキーピングアシスト] 非装着車）
- 車幅灯
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- ドアミラー照明
- 尾灯
- 制動灯
- 後退灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■ LED ランプについて

リヤフォグランプ★以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

★：仕様により異なる装備やオプション装備

 **警告****■電球を交換するとき**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	388
非常点滅灯 (ハザードランプ)	389
発炎筒	390
車両を緊急停止するには	392

7-2. 緊急時の対処法

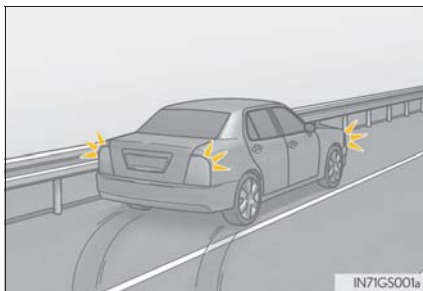
けん引について	393
警告灯がついたときは	397
警告メッセージが 表示されたときは	403
パンクしたときは (スペアタイヤ装着車)	407
パンクしたときは (タイヤパンク 応急修理キット装着車)	417
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	431
シフトレバーが シフトできないときは	433
パーキングブレーキが 解除できないときは	434
電子キーが正常に 働かないときは	439
補機バッテリーが あがったときは	441
オーバーヒートしたときは	445
スタックしたときは	450

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 389）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

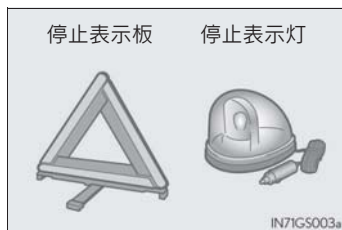
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 390）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

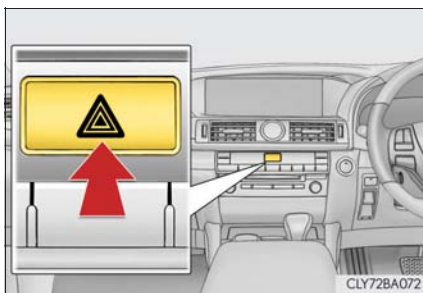


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

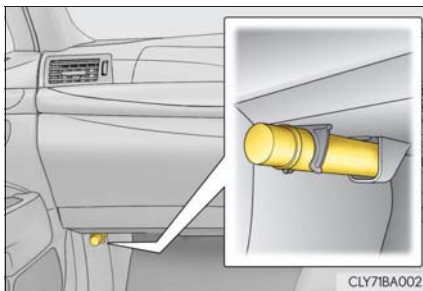
■ 非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケータが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

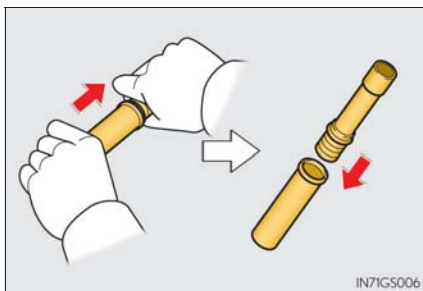
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

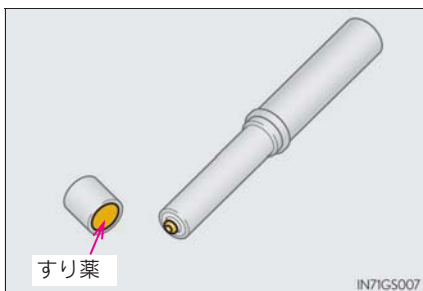


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。





■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

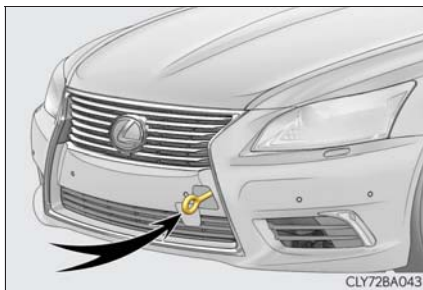
けん引される前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

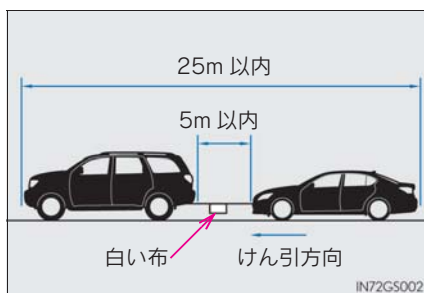
- ハイブリッドシステムは始動するが、車が動かない
- 異常な音がする

けん引されるとき

- 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける
前進方向でけん引してください。



- 2 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm × 30cm) 以上



- 3 ハイブリッドシステムを始動する
ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチをアクセサリモード、または ON モードにしてください。

- 4** けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

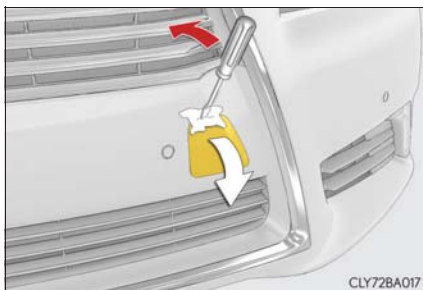
けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

けん引フックの取り付け方

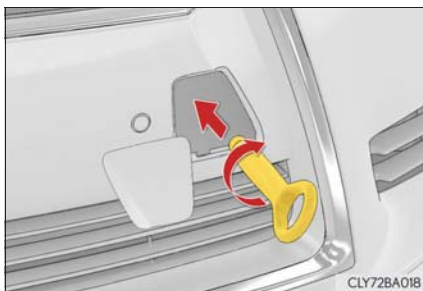
- 1** けん引フックを取り出す (→ P. 408, 418)

- 2** マイナスドライバーを使ってフタをはずす

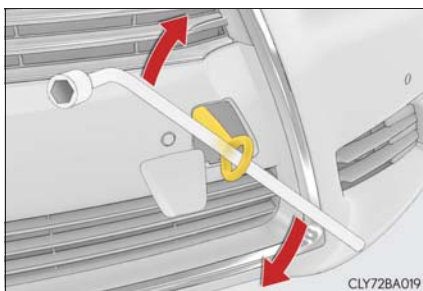
傷が付くのを防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。



- 3** けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4** ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける



 知識**■けん引フックの使用目的**

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引されるときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなります。

 **警告**

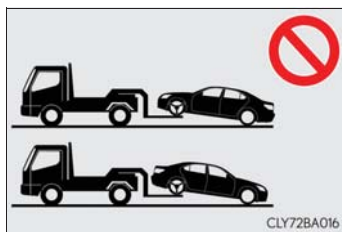
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■車両を運搬するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

車輪が接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

**■けん引中の運転について**

- けん引を行うときは、細心の注意を払ってください。

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進は避けてください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたるおそれがあります。

- パワースイッチをOFFにしないでください。

ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意

■ 車両の損傷を防ぐために


- けん引するときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。


ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液の不足 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常






ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 ・ アクティブヘッドレストシステム★の異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 (点滅)	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★ プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 (→ P. 270) ・ プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。 (→ P. 266, 272) ・ システムが一時的に使用できないときに点灯します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
	<p>スリップ表示灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ABS の異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 <p>上記のシステムの作動時には、点滅します。(→P. 264)</p>
 <p>(点滅)</p>	<p>ブレーキホールド作動表示灯</p> <p>ブレーキホールドシステムの異常</p>
 <p>(点滅)</p>	<p>パーキングブレーキ表示灯</p> <p>電動パーキングブレーキシステムの異常</p>
	<p>ブレーキ警告灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電動パーキングブレーキシステムの異常

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー※ 1) いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
 燃料計内	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 13L 以下になった	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー※ 2) 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→ P. 403
	タイヤ空気圧警告灯	指定された空気圧に調整してください。
	警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・ 自然要因 (→ P. 401) ・ タイヤのパンク (→ P. 407, 417)	調整して数分後に警告灯が消灯します。 空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
	警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

※¹ 半ドア走行時警告ブザー：

各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときにブザーが鳴ります。

※² 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが1回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯について

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯することがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから次の操作を行ってください。

- 空気圧を確認し、適切な値に調整してください。
- 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。

タイヤが十分に冷えていない状態で上記の操作を行うと、警告灯が再度点灯する場合があります。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ スペアタイヤ★に交換した場合

スペアタイヤにも空気圧バルブ／送信機が装備されています。スペアタイヤの空気圧が低下している場合、空気圧警告灯が点灯します。タイヤがパンクした場合、スペアタイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 372

★：仕様により異なる装備やオプション装備

 **警告****■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。
タイヤがパンクしている場合はスペアタイヤに交換するか、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。
- 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。
もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報がでない場合があります。

 **注意****■ タイヤ空気圧警報システムについての注意**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤの種類によっては、純正ホイールを使用している場合でもバルブ／送信機が正常に作動しないことがあります。(例：スチールフィラー入りタイヤ)
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作 (→ P. 370) では解除できません。

■ メーカー指定以外のタイヤを使用した場合

構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用した場合、タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

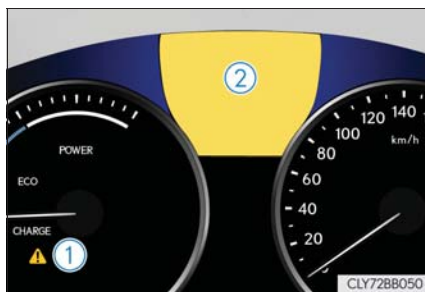
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	警告専用灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識**■ レーダークルーズコントロール★の警告メッセージについて**

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されな
いおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

■ LKA（レーンキーピングアシスト）★の車線逸脱警報について

次のような場合は、白（黄）線をまたいでも警告メッセージが表示されません。

- LKAの作動条件以外の車速のとき
- 白（黄）線を認識できていないとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しま
せん。その場合は個別の専用警告表示を行います。

- ブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（赤色）が点灯します。（→P. 397）
- 回生ブレーキシステム・電子制御ブレーキシステム・電動パーキングブレーキシ
ステムの異常
ブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。（→P. 399）
- ABSの異常
ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→P. 398）
- 充電システムの異常
充電警告灯が点灯します。（→P. 397）
- いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない
半ドア警告灯が点灯します。（→P. 400）
- エンジン冷却水高温異常
水温計の針がレッドゾーンに入ります。（→P. 445）

■ 「ハイブリッドシステム過熱」が表示されたとき

対処方法：→P. 445

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される
場合があります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■「補機バッテリー（始動用）充電不足」が表示されたとき**●数秒後^{*}に表示が消えたとき**

約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないとき

「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 441）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

^{*} 約 6 秒間表示されます。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

**注意****■「補機バッテリー（始動用）充電不足」がひんばんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておく、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（スペアタイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 368 を参照してください）

警告

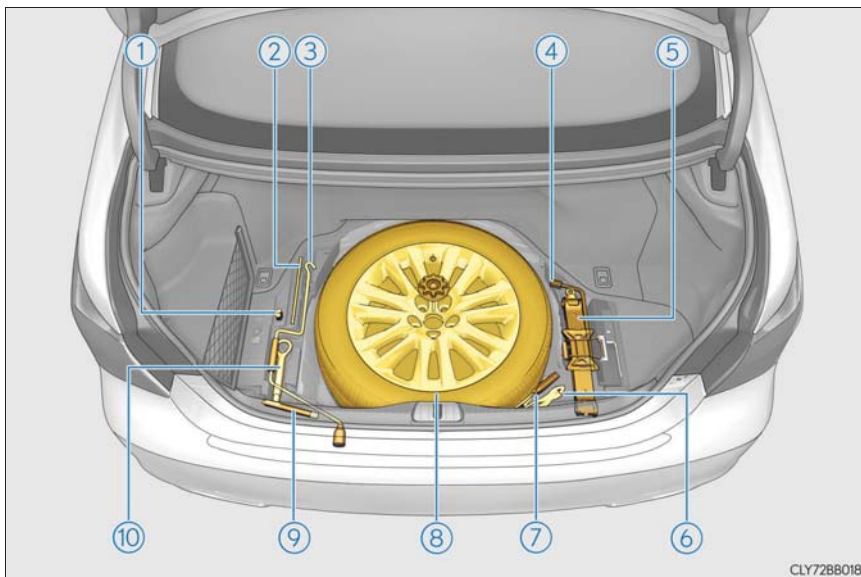
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 389）

工具とジャッキの位置



CLY72BB018

- | | |
|------------------|----------|
| ① ペンライト用電池 | ⑥ ツール |
| ② パーキングブレーキ解除ツール | ⑦ ドライバー |
| ③ ジャッキハンドル | ⑧ スペアタイヤ |
| ④ ホイールナットレンチ | ⑨ ペンライト |
| ⑤ ジャッキ | ⑩ けん引フック |

 警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

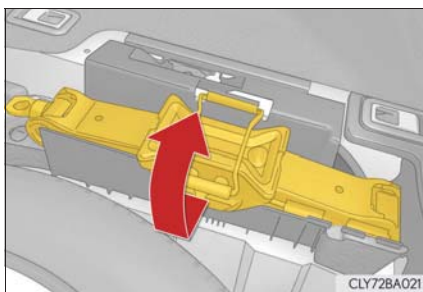
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずハイブリッドシステムを停止する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

- 1 ラゲージマットを持ち上げ、フックを使ってラゲージマットを固定する
(→ P. 322)
- 2 ツールトレイを取り出す



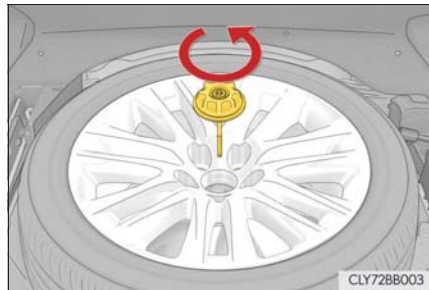
- 3 ジャッキの留め具を取りはずす



スペアタイヤの取り出し方

- 1 ラゲージマットを持ち上げ、フックを使ってラゲージマットを固定する
(→ P. 322)
- 2 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

スペアタイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のホイールナットレンチを使用してください。(タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。ホイールナットレンチなどの工具は使用しないでください)



警告

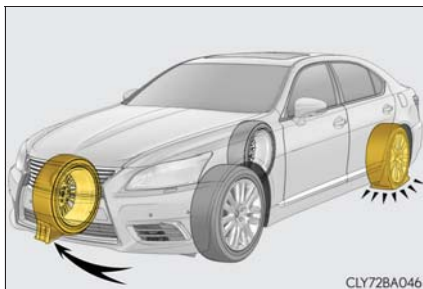
■ スペアタイヤを収納するとき

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

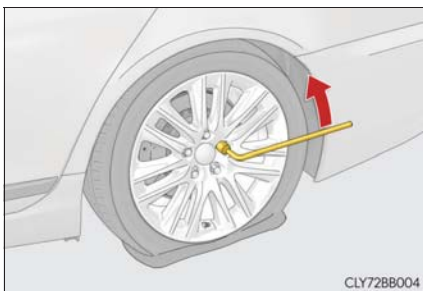
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

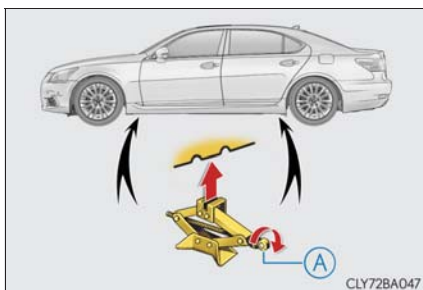


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

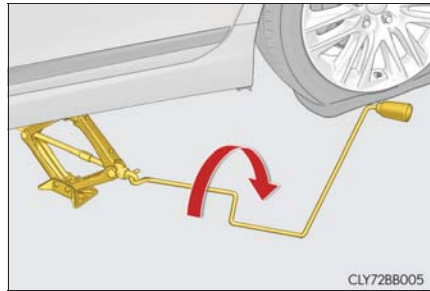
2 ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

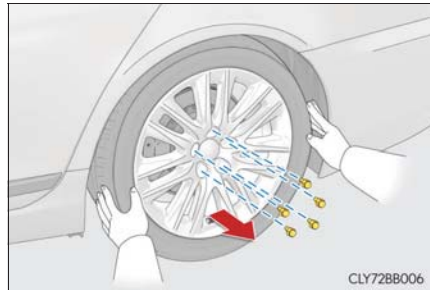


- 4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

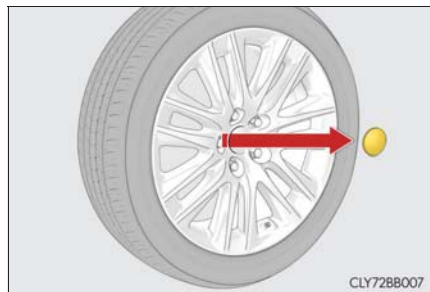


- 5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



- 6 センターオーナメントを反対側から押して取りはずす



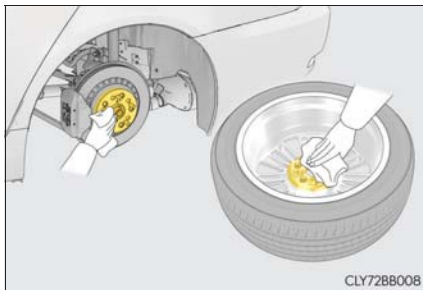
**警告****■ タイヤ交換について**

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $140\text{N}\cdot\text{m}$ ($1428\text{kgf}\cdot\text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

スペアタイヤの取り付け

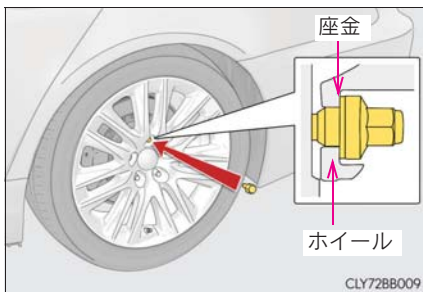
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

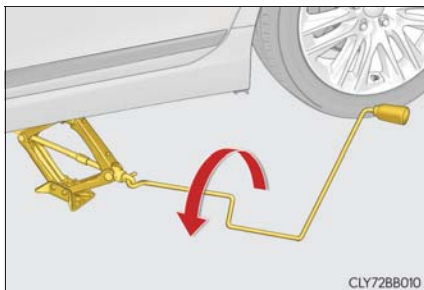
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



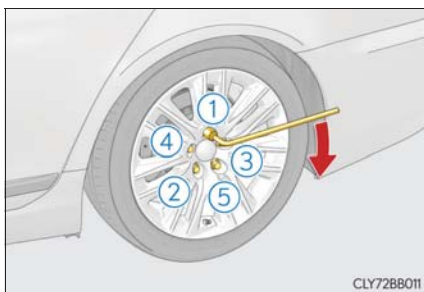
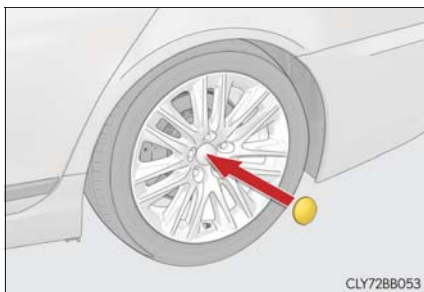
2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす



3 車体を下げる**4** 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
140N・m (1428kgf・cm)

**5** センターオーナメントを取り付ける**6** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する 注意

■ タイヤ・ホイール・バルブ/送信機・バルブキャップの修理・交換

→ P. 375

パンクしたときは (タイヤパンク応急修理キット装着車)

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です)

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

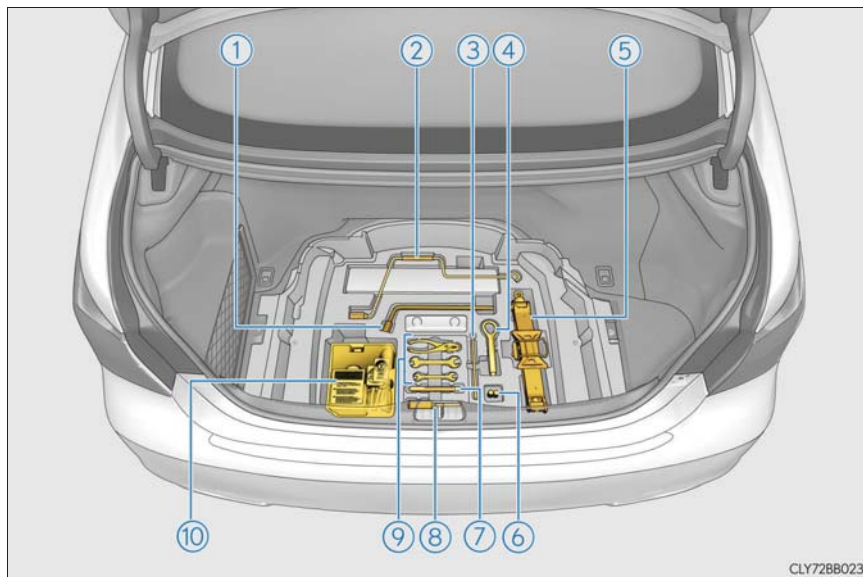
■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 389)

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

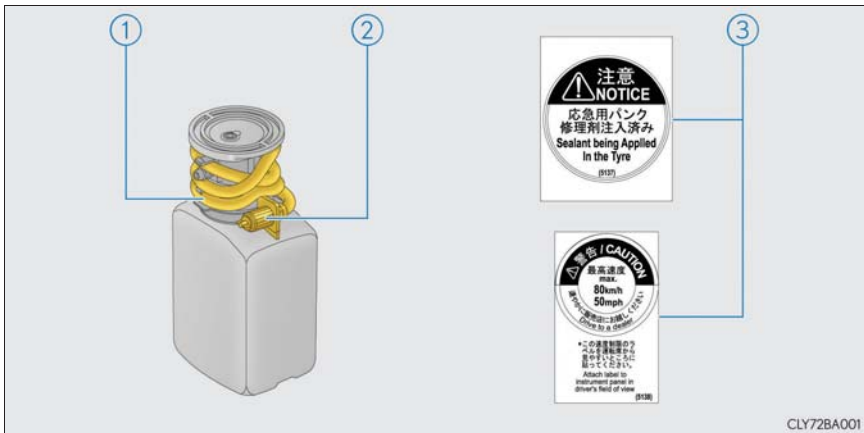


- | | |
|------------------|-----------------|
| ① ホイールナットレンチ | ⑥ ペンライト用電池 |
| ② ジャッキハンドル | ⑦ ペンライト |
| ③ パーキングブレーキ解除ツール | ⑧ ドライバー |
| ④ けん引フック | ⑨ ツール |
| ⑤ ジャッキ* | ⑩ タイヤパンク応急修理キット |

* ジャッキの使い方 (→ P. 412)

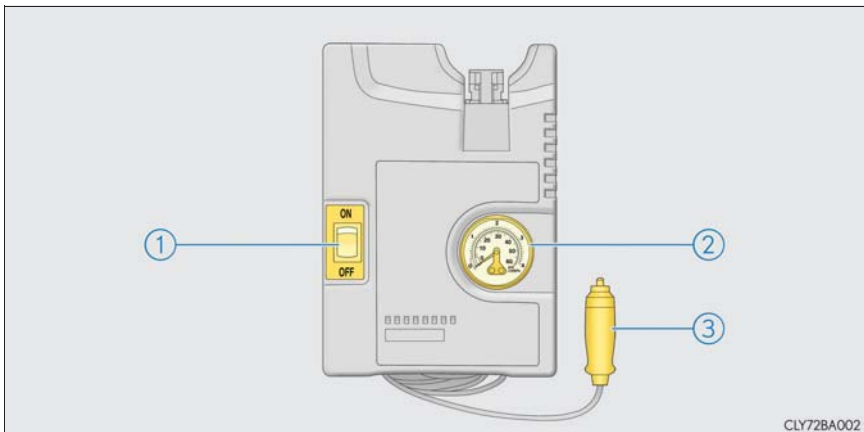
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



- ① ホース
- ② 空気逃がしキャップ
- ③ ラベル

■ コンプレッサー



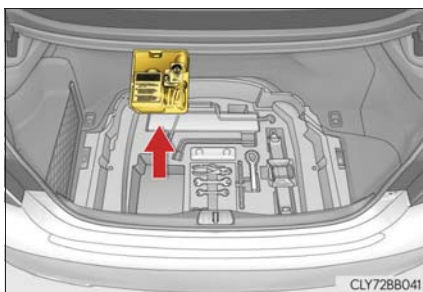
- ① 電源スイッチ
- ② 空気圧計
- ③ 電源プラグ

応急修理キットの取り出し方

- 1 ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたむ (→ P. 322)
- 2 テッキボードを取りはずす



- 3 応急修理キットを取り出す

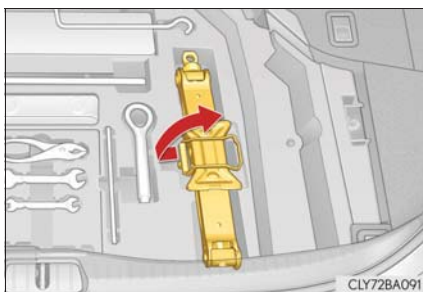


ジャッキの取り出し方

- 1 ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたむ (→ P. 322)
- 2 テッキボードを取りはずす



- 3 ジャッキの留め具を取りはずす



応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

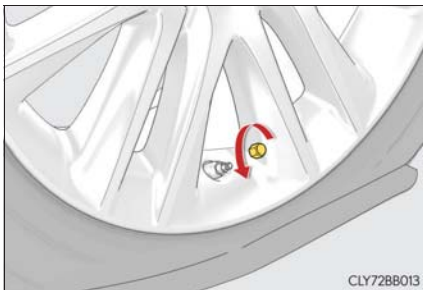
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



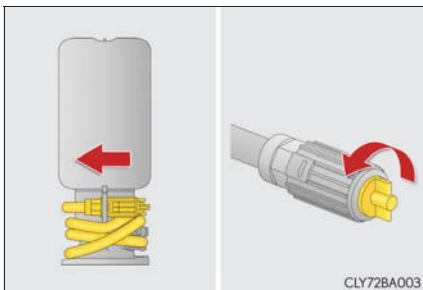
応急修理するとき

- 1** パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



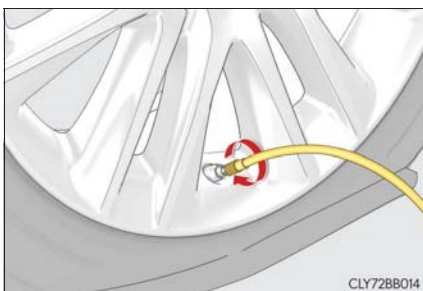
- 2** ホースをのばし、空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

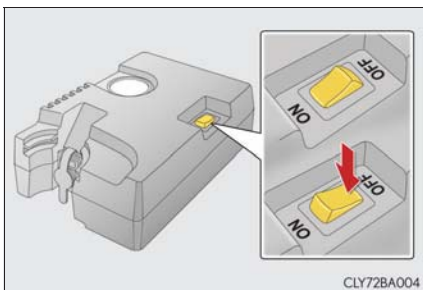


- 3** ホースをバルブに接続する

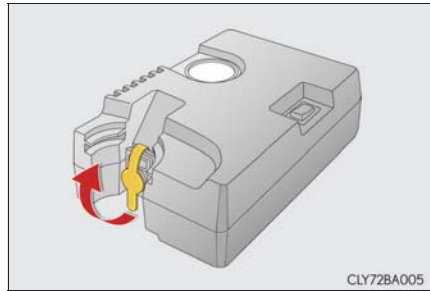
ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。



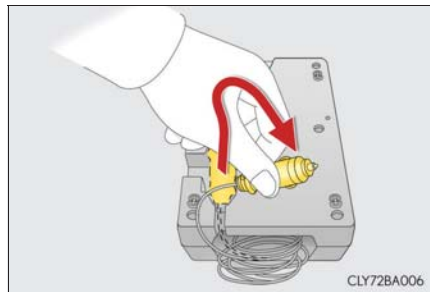
- 4** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



- 5 コンプレッサーのゴム栓をはずす



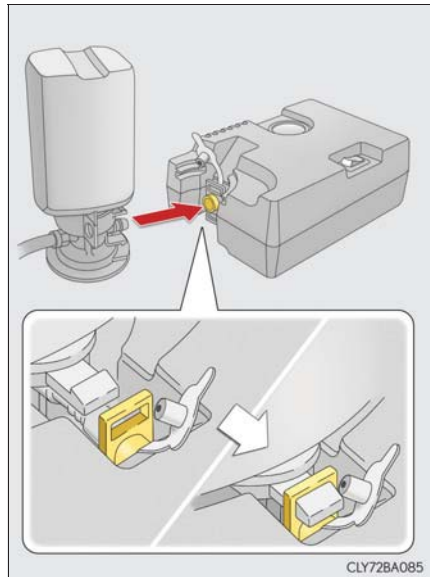
- 6 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす



- 7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む
(→ P. 330)

- 8 ボトルをコンプレッサーに接続する

しっかりと接続されているか確認してください。

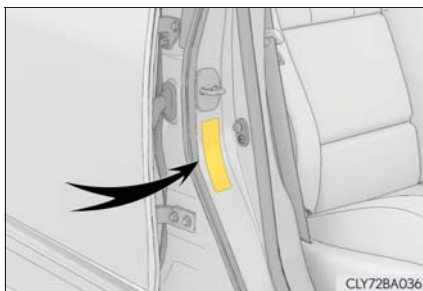


- 9** 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。

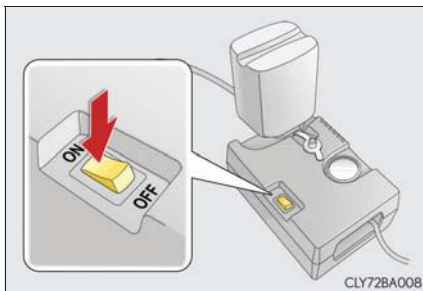


- 10** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 458)



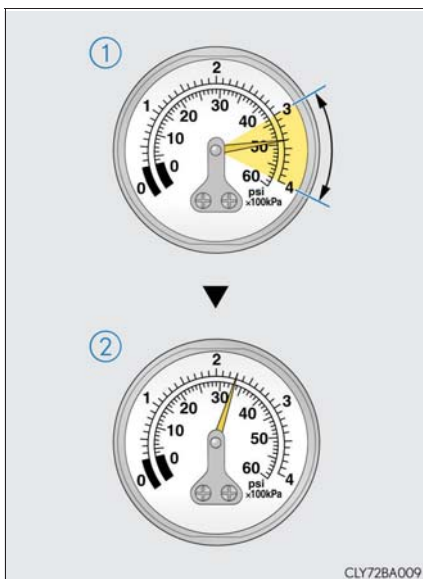
- 11** ハイブリッドシステムを始動する (→ P. 193)

- 12** コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



13 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

- ① 一時的に空気圧計が300~400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- ② スイッチを ON にしてから 1 分程度 (低温の場合は 15 分程度) で実際の空気圧表示になります。
 - ・ コンプレッサーのスイッチを OFF にして空気圧を確認してください。空気を入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。
 - ・ 10 分以上 (低温の場合は 35 分以上) 充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてレクサス販売店にご連絡ください。
 - ・ 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 428, 458)



CLY72BA009

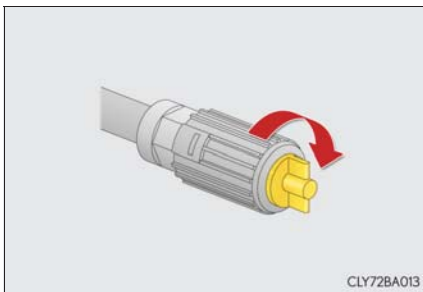
14 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認したうえで、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

16 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。

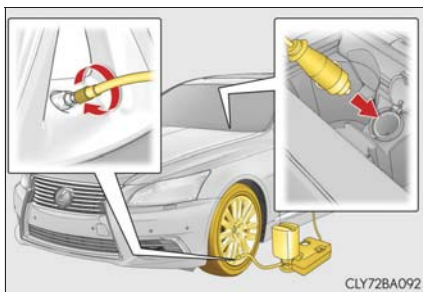


CLY72BA013

17 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

18 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに 5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行する

19 走行後、平坦で安全な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する

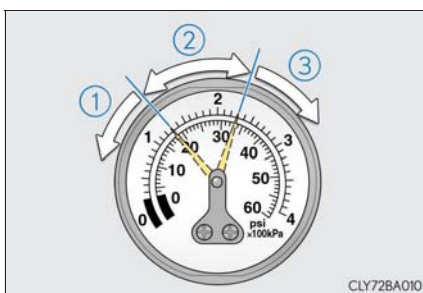


20 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **21** へ

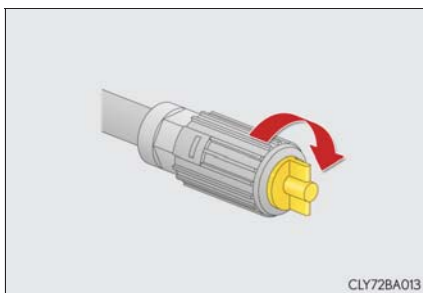
③ 空気圧が指定空気圧の場合：手順 **22** へ



21 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 **19** から実施する

22 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



23 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に走行する

 知識**■ 応急修理キットで修理できないパンク**

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

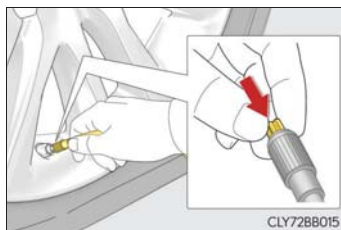
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が - 40℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

- 応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。
- 応急修理キットを使用したときは、タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限がきたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

 **警告****■ 応急修理キットについて**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われないおそれがあります。

■ バンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■ バンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、バンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにバンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとバンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

 警告

■ 補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ほこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ほこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはトランクに収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損するおそれがあります。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 193）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 440）
- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 76）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 432）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 441）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 441）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1** パワースイッチを ON モードにし (→ P. 194)、パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2** シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3** パワースイッチをアクセサリモードにする
- 4** ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

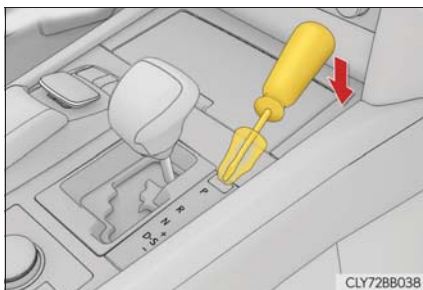
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

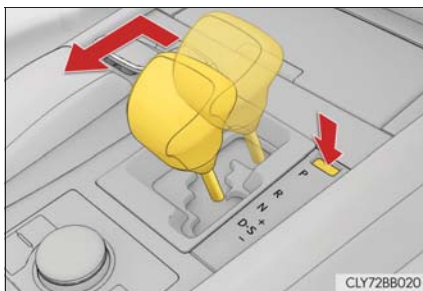
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

- 1 パワースイッチを ON モードにし（→ P. 194）、パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 パワースイッチをアクセサリモードにする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



パーキングブレーキが解除できないときは

補機バッテリーがあがったときや、パーキングブレーキスイッチを操作してもパーキングブレーキが解除されないときは、次の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみ行ってください。補機バッテリーが正常のときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

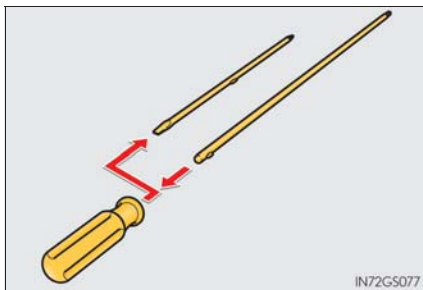
手動解除する前に

- シフトレバーを P にする
- パワースイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

手動解除の方法

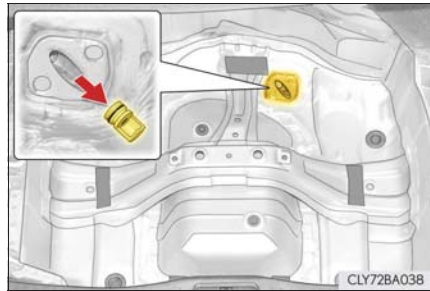
▶ スペアタイヤ装着車

- 1 パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す (→ P. 408)
- 2 車載ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを差しかえる

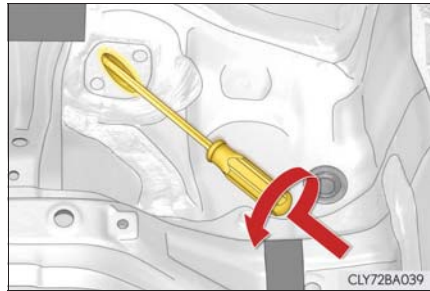


- 3 スペアタイヤを取り出す (→ P. 411)

4 キャップを取りはずす



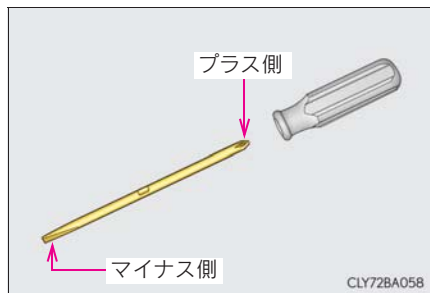
5 工具を挿し込み、強く押しあてながら左へ止まるまでまわす



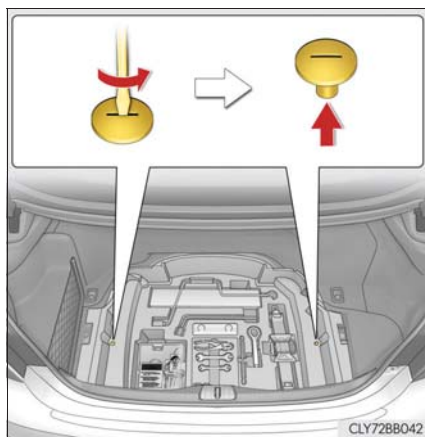
▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

1 パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す (→ P. 418)

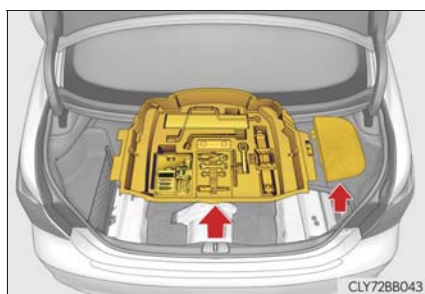
2 車載ドライバーがマイナス側になっていることを確認する
プラス側になっている場合は、マイナス側に入れかえてください。



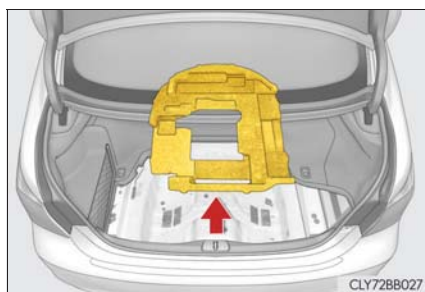
- 3** マイナスドライバーを使って、クリップを取りはずす
クリップを取り付けるときはP. 437を参照してください。



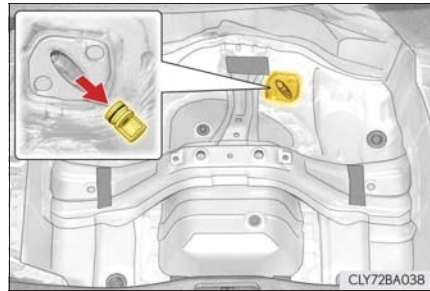
- 4** サイドデッキボードを取りはずし、
ツールトレイを取り出す



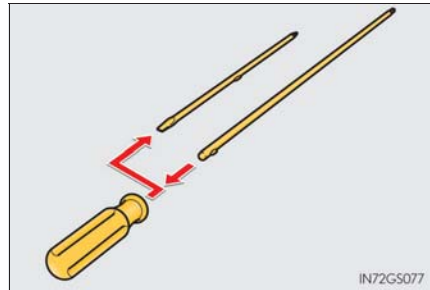
- 5** ツールトレイガードを取り出す



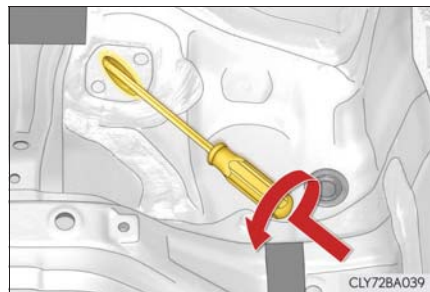
6 キャップを取りはずす



7 車載ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを差しかえる



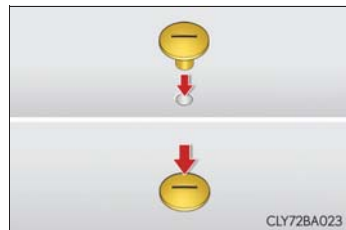
8 工具を挿し込み、強く押しあてながら左へ止まるまでまわす



 知識

■ ツールトレイのクリップを取り付けるとき（タイヤパンク応急修理キット装着車）

図のようにクリップを取り付けてください。



■ 手動操作について

パーキングブレーキを手動でかけることはできません。

 **警告****■ 手動解除するときの警告**

- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーをPにして輪止めで固定してください。
車両が動き出すおそれがあるため、特に注意してください。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずパワースイッチをOFFにして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
パワースイッチがONモードのときに手動解除を行うと、システムが作動して挿し込んだ工具が回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり(→P. 122)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使います。(→P. 111)

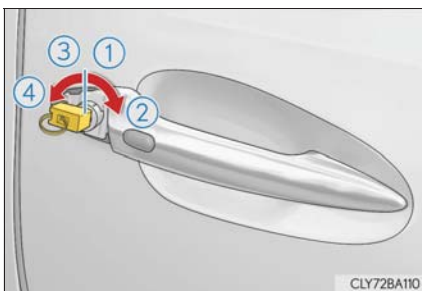
■ ドア

- 1** 運転席側のドアハンドルのカバーを取りはずす



- 2** ドアを施錠・解錠する

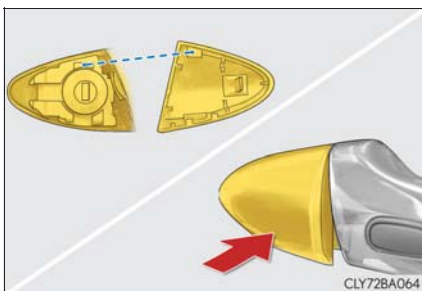
- ① 全ドア施錠
- ② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる(まわし続ける)
- ③ 全ドア解錠
- ④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く(まわし続ける)



- 3** 操作が終わったらカバーを取り付ける

カバーの上側にあるツメを車両上側のツメにかけ、カバー下側を押して取り付ける

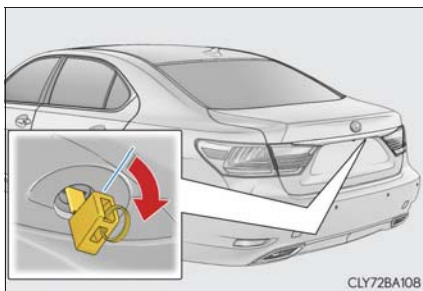
ツメが正しくかかっていないと、カバーが脱落する原因になるため、取り付け後はしっかり固定されていることを確認してください。



★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ トランク

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

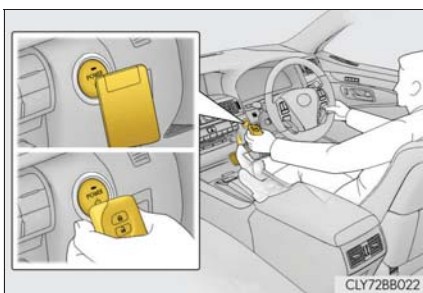


ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーがPの状態ではブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムがパワースイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでパワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

□ 知識

■ ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてパワースイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 376)

■ パワースイッチのモードの切りかえ

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 194)

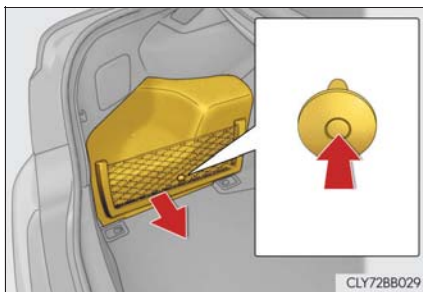
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

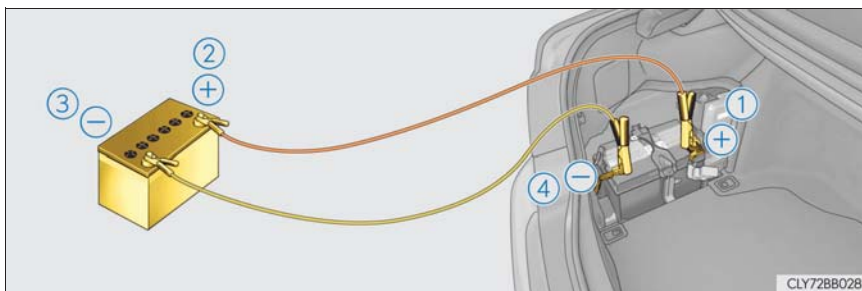
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

- 1** トランクを開け、バッテリーカバーをはずす

トランクオープナースイッチで開かない場合は、メカニカルキーで開けます。
(→ P. 439)



- 2** 補機バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



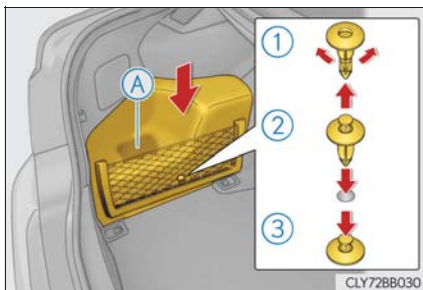
- ① 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、自車の補機バッテリーの-端子につなぐ

- 3** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

- 4** パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する
- 6 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。
- 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 8 クリップを付け、バッテリーカバーを取り付ける

- ① クリップの中央部分を押し上げる
- ② 挿し込む
- ③ クリップ中央部分を押し
バッテリーカバーの A 部をしっかりと
押ししてください。



ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、 unnecessary 電装品の電源を切ってください。

■ ハイブリッドシステムの始動について

補機バッテリーあがり発生後や、脱着後は次の操作を行ってください。それでも始動しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

- 補機バッテリーあがり発生後は、補機バッテリーが復帰してもハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は、シフトレバーを P、パワースイッチを OFF にしていずれかのドアを開閉し、再度始動操作を行ってください。
- 補機バッテリー脱着後は、運転席ドアを開閉して 10 秒以上待つてから始動操作を行ってください。その際、1 度目の操作では始動しませんが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

■ 補機バッテリーについて

→ P. 360

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。(→P. 78)
- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

■補機バッテリーがあがってしまった場合

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーがはずされたり、補機バッテリーがあがってしまった場合

パワースイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ (ナビゲーションなど) に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

 **警告****■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です
ので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーの交換について

→ P. 361

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 88）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

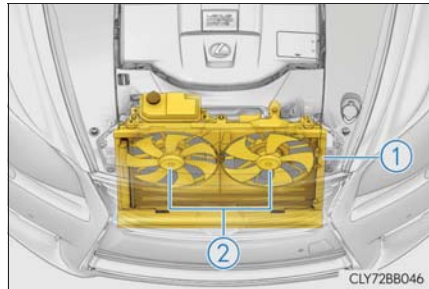
対処方法

■ 水温計の針がレッドゾーンに入ったとき

- 1** 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2** 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3** ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

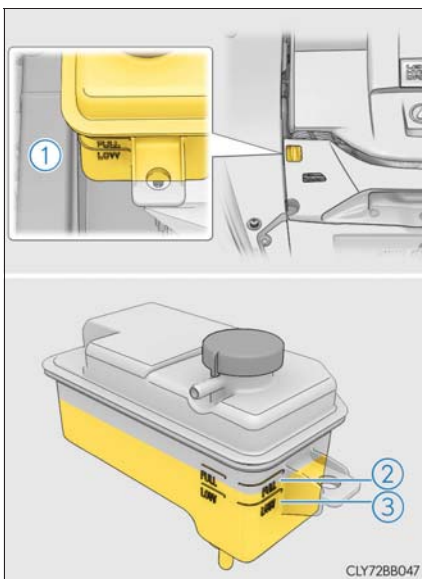
- ①** ラジエーター
- ②** ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

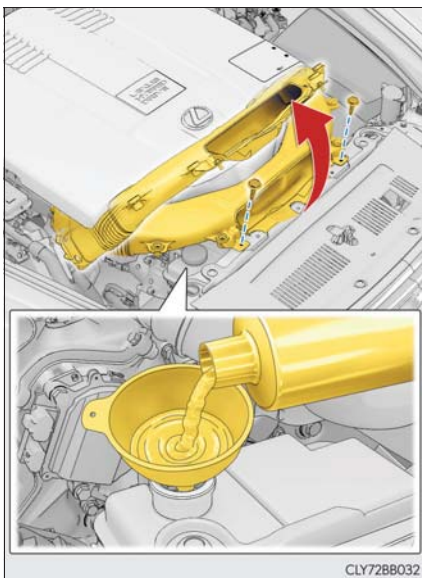


- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “FULL”（上限）
- ③ “LOW”（下限）



- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 365）
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7** ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

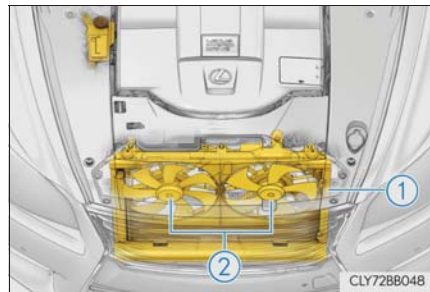
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム過熱」が表示されたとき

- 1** 安全な場所に停車する
- 2** ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3** ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

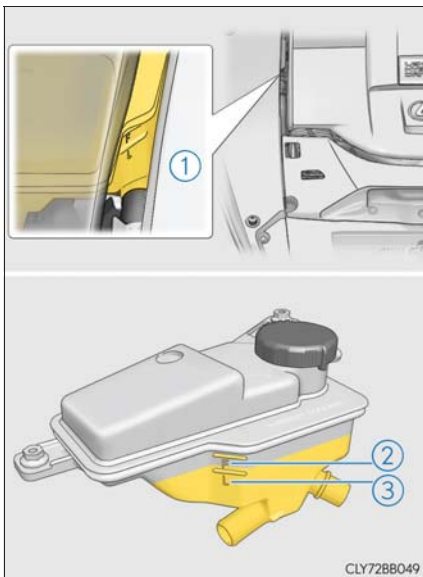
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

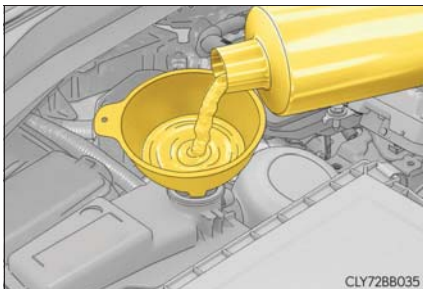


- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ① リザーバタンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 365）
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：

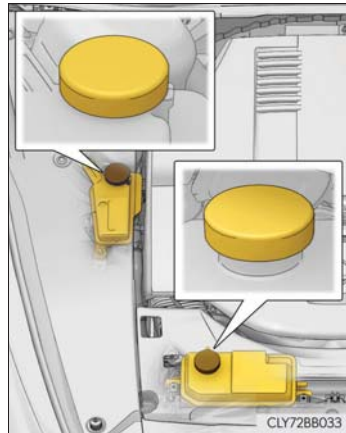
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告**■ エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- パワースイッチ上のインジケーターと READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
- ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

**注意****■ 冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用する場合は、弊社純正品または同等品を使用する


スタックしたときは

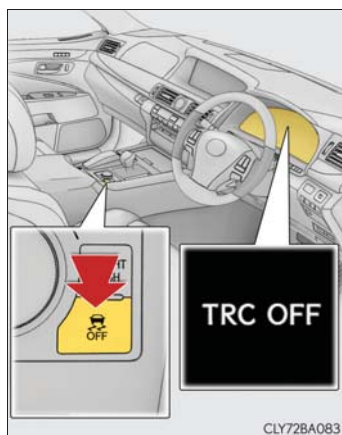
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 後輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■ 脱出しにくいとき

 を押して TRC を OFF にしてください。



 **警告****■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 **注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

● 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

● 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報

8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・オイル量など)454

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧459

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	84

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値※1)	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20 ※2 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30	8.4	9.0

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は新車時に充填されており、上記表の中では最も省燃費性に優れたオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサクサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について (例として 0W-20 で説明します) :

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い (数値が大きい) オイルは高速または高負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12°C 濃度 50% - 35°C	ガソリンエンジン	11.1
	パワーコントロール ユニット	2.5

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※)
弊社純正オートフルード WS	5.5

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください

トランスファー

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正トランスファーギヤオイル LL80 (推奨)、弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	0.7

フロントディファレンシャル

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.75

リヤディファレンシャル

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル※¹

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※ ²	147

※¹ ブレーキペダルの点検に併せて、ハイブリッドシステムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P. 397 を参照してください）

※² ハイブリッドシステムが作動している状態で、500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 (ハイブリッドシステム始動時)	パーキングブレーキ 表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P. 399 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/50R18 97W 235/50R18 97V	18 × 7 1/2J	230 (2.3)	240 (2.4)
245/45R19 98Y	19 × 8J	230 (2.3)	250 (2.5)

電球 (バルブ) ※

電球		W (ワット) 数
車外	リヤフォグランプ★	21
車内	フロントインテリアランプ	8
	フロントバニティミラーランプ	8
	リヤインテリアランプ	8
	リヤパーソナルランプ (後席 9 型ワイドディスプレイ装着車)	10
	リヤバニティミラーランプ	3
	トランクリッドランプ	3.8
	トランクランプ	3.8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
LS600h	UVF45	2UR-FSE (5.0L ガソリン)	1KM	AWD (4 輪駆動)
LS600hL	UVF46	2UR-FSE (5.0L ガソリン)	1KM	AWD (4 輪駆動)

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサス用 G-BOOK ユーザーサイトのご利用、またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

設定変更のしかた

■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 ナビゲーション画面に「設定・編集」画面を表示し、「車両」を選択する
ナビゲーションシステムの操作方法については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

- 2 設定を変更したいカテゴリーを選択する

ここでは「ドアロック設定」を選択した場合を例に説明します。

「ドアロック設定」に関する設定項目が一覧で表示されます。



- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

ここでは「車速感应オートドアロック」を選択した場合を例に説明します。

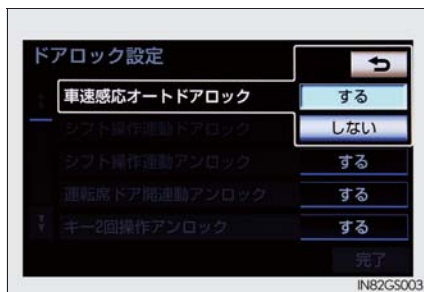
機能の作動内容を選択するメニューが表示されます。



4 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」(作動)・「しない」(非作動)を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

**5** 画面右下の「完了」を選択する

設定変更中画面が表示されます。

この画面が表示されているあいだは、他の操作を行わないでください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 97

**■ G- カスタマイズ機能で設定するには
(G-Link サービスご契約のお客様のみ)**

→別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

- ① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
- ② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
- ③ レクサス販売店で設定変更可能
- ④ G- カスタマイズ機能で設定変更可能
(レクサス用 G-BOOK ユーザーサイトによる設定変更)
- ⑤ G- カスタマイズ機能で設定変更可能
(レクサス販売店への依頼による設定変更)

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 93)	言語	日本語	英語	—	○	○	—	—
	ECO ランプ	有 (自動点灯)	無	—	○	○	—	—
			常時点灯	—	○	○	—	—
	ドライブモニター	航続可能距離	給油後平均燃費	—	○	○	—	—
	タコメーター切替	タコメーター (自動切替)	常時 HVメーター	—	○	○	—	—
			常時タコメーター	—	○	○	—	—
	ランプの明るさ	標準	明るい	—	○	○	—	—
	SPORT ランプ	ON	OFF	—	○	○	—	—
	EV 走行表示	ON	OFF	—	○	○	—	—
背景	表示	非表示	—	○	○	—	—	
初期設定	しない	する	—	○	○	—	—	

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
ドアロック (→ P. 128, 439)	メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	○	—	○	○	○
	車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○	○	○
	シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	—	○	○	○
	シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	—	○	○	○
	運転席ドアを開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	—	○	○	○
スマートエントリー & スタートシステム (→ P. 116)、ワイヤレスドアロック (→ P. 126) 共通	作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 7	OFF レベル 1～6	○	—	○	—	○
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	—	○	—	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒 120 秒	—	—	○	—	○
	半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○	—	○
スマートエントリー & スタートシステム (→ P. 116)	スマートエントリー & スタートシステム	あり	なし	○	—	○	—	—
	解錠されるドアの選択	全席	運転席	○	—	○	—	—
			各席 側席	○	—	○	○	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
ワイヤレス ドアロック (→ P. 126)	ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○	—	—
	解錠時の操作	1回で全 ドア解錠	1回で運 転席ドア 解錠、連 続2回 で全ドア 解錠	○	—	○	○	○
	トランク解錠時の操 作	1回押し (長)	1回押し (短)	—	—	○	○	○
2回押し 禁止			—	—	○	○	○	
フロント シート (→ P. 140)	降車時の運転席シー ト移動量調節	標準	OFF	○	—	○	—	—
			少なめ	—	—	○	—	—
	降車時の運転席シー ト腰部硬さ調整	あり	なし	○	—	○	—	—
	降車時の助手席シー ト腰部硬さ調整★	あり	なし	—	—	○	—	—
	降車時の助手席シー トオットマン★	あり	なし	—	—	○	—	—
	フロントコンソール 内 助 手 席 操 作 用 AUTOスイッチもし くはリヤアームレス ト内助手席操作用 AUTOスイッチでの 助手席シート格納作 働のうち、助手席 シート全体の上方移 動★	あり	なし	—	—	○	—	—

★：仕様により異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
フロントシート (→ P. 140)	<p>リヤアームレスト内助手席操作スイッチを押し続けることによる助手席シート格納作動においての以下の作動順序★</p> <p>1 シートの前方移動</p> <p>2 背もたれの前倒し</p> <p>3 ヘッドレストの上方移動とシート全体の下方向移動</p> <p>4 ヘッドレストの前倒し</p>	<p>1 →</p> <p>2 →</p> <p>3 →</p> <p>4 の 順番</p>	<p>3 →</p> <p>4 →</p> <p>2 →</p> <p>1 の 順番</p>					
	<p>助手席側面スイッチを押し続けることによる助手席シート格納作動においての以下の作動順序★</p> <p>1 背もたれの前倒し</p> <p>2 ヘッドレストの上方移動とシート全体の下方向移動</p> <p>3 ヘッドレストの前倒し</p>	<p>1 →</p> <p>2 →</p> <p>3 の 順番</p>	<p>2 →</p> <p>3 →</p> <p>1 の 順番</p>					

★：仕様により異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
フロントシート (→ P. 140)	リヤアームレスト内助手席操作スイッチを押し続けることによる助手席シートリターン作動においての以下の作動順序★ ① ヘッドレストの起き上がりと 下方移動 ② 背もたれの起き上がり ③ シートの後方移動	① → ② → ③ の 順番	② → ① → ③ の 順番	—	—	○	—	—
	助手席側面スイッチを押し続けることによる助手席シートリターン作動においての以下の作動順序★ ① ヘッドレストの起き上がりと 下方移動 ② 背もたれの起き上がり	① → ② の 順番	② → ① の 順番	—	—	○	—	—
パワーウィンドウ (→ P. 175)、 ムーンルーフ★ (→ P. 178) 共通	助手席・リヤ席スイッチによる自動全開	あり	なし	—	—	○	—	—
	運転席スイッチによる助手席・リヤ席の自動全開	あり	なし	—	—	○	—	—
	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	○	○	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○	○	○
	スマートエントリー & スタートシステム連動開閉機能	あり	なし	—	—	○	—	—

★：仕様により異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 214)	ライトセンサーの感度調整	標準	-2 ~ 2	○	—	○	○	○
	ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○	○	○
AFS (アダプティブフロントライティングシステム) (→ P. 215)	AFS の作動	あり	なし	—	—	○	—	—
アダプティブハイビームシステム (→ P. 217)	遮光範囲可変ビームの切りかえ	あり	なし	—	—	○	—	—
	アダプティブハイビームシステムが作動する車速や遮光範囲可変ビームの追従速度	通常走行時	山道での走行時に煩わしさを感じない	—	—	○	—	—
			市街地での走行時に煩わしさを感じない					
市街地かつ車速が高い状態での走行時に煩わしさを感じない								

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
クリアランスソナー (別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)	フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○	—	—
	フロントサイドセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○	—	—
	リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○	—	—
	ブザー音量	レベル3	レベル1~5	○	—	○	—	—
	音声音量	レベル3	レベル1~5	○	○	—	—	—
	ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	—	○	—	—
エアコン (別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)	AUTO スイッチがON のとき、連動して外気導入と内気導入を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○	○	○
	AUTO スイッチをON にしたとき、A/C (エアコン)スイッチが連動してON になる	する	しない	○	—	○	○	○
	排ガスセンサー感度調節	標準	-3~3	○	—	○	○	○
	エコドライブモード時のエアコン制御	ON	OFF	—	—	○	—	—

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
コンフォータブル・エアシート★ (→ P. 336)	コンフォータブル・エアシート AUTO 作動時の温度調整 (各席個別調整可能)	レベル 3 (標準)	レベル 1 (すずしめ) ~ レベル 5 (あたたかめ)	○	—	○	○	○
	パワースイッチ ON 時のリヤコンフォータブル・エアシート始動状態 (各席個別調整可能)	しない (OFF)	する (AUTO)	○	—	○	○	○
	暖房の最大使用時にシートを速くあたためる機能 (各席個別調整可能)	あり	なし	—	—	○	—	—
	暖房の最大使用時にシートを速くあたためる機能が停止するまでの時間 (各席個別調整可能)	標準	短め	—	—	○	—	—
長め			—	—	○	—	—	
ステアリングヒーター (→ P. 334)	自動ステアリングヒーター	あり	なし	○	—	○	○	○
	自動ステアリングヒーターが OFF になるまでの時間	レベル 3 (標準)	レベル 1 (短め) ~ レベル 5 (長め)	○	—	○	○	○

★：仕様により異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③	④	⑤
イルミネーション (→ P. 306)	室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF					
			7.5 秒	○	—	○	○	○
			30 秒					
	パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○	○	○
	解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○	○	○
	接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—	○
	足元照明とインサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	○	○
	シフト照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—	—
	運転席ドアを開けた時のシートベルトバックル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—	—
	パワースイッチ OFF 後のシートベルトバックル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—	—
	インストルメントパネル照明の点灯の仕方	点灯 (演出あり)	点灯 (演出なし)	—	—	○	○	○
			消灯					
ドアミラー照明の点灯制御	あり	なし	—	—	○	—	—	
ドアミラー照明の消灯までの時間	15 秒	OFF						
		7.5 秒	○	—	○	○	○	
		30 秒						
イルミネーション (→ P. 306)	接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—	○
	解錠時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○	○	○

 知識

■ 車両カスタマイズについて

- 車速感応オートドアロックとシフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠(シフト操作連動ドアロック)を両方ともありにした場合、次のように作動します。
 - ・ シフトレバーをP以外に入れると全ドアが施錠されます。
 - ・ 全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
 - ・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。
- スマートエントリー&スタートシステムの設定がなしの場合、解錠されるドアの選択の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、作動の合図(非常点滅灯)・作動の合図音量(ブザー音量調整)の設定に依存します。

■ ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

 警告

■ ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....	472
車から音が鳴ったときは （音さくいん）	476
アルファベット順さくいん	478
五十音順さくいん.....	480

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・GPS ボイスナビゲーション
- ・オーディオ&ビジュアル
- ・後席9型ワイドディスプレイ
- ・エアコン・デフォッガー
- ・ミラーヒーター
- ・音声操作システム
- ・クリアランスソナー
- ・ETC システム／ ITS スポットサービス（DSRC）
- ・バックガイドモニター
- ・ハンズフリー
- ・G-Link

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 113）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 115）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 376）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。
（→ P. 194）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 122）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。(→ P. 129)



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。(→ P. 135)

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？ (→ P. 193)
- シフトレバーはPになっていますか？ (→ P. 193)
- キーが車内の検知される場所にありますか？ (→ P. 118)
- ステアリングロックされていませんか？ (→ P. 195)
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。(→ P. 440)
- 補機バッテリーがあがっていませんか？ (→ P. 441)



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON モードになっていますか？
パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき (→ P. 433)
-



ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。(→ P. 195)
-



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。(→ P. 175)
-



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードにしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 195)



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 476）をご確認ください。
-



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 397、403 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- スペアタイヤ装着車
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 407）
 - タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 417）
-



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 450）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 77
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 403
	シフトポジションがP以外になっている	P. 403
	ムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 180
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 77
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 135
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 376
施錠しようとしたとき （施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 119
	電子キーを車内に置き忘れている	
	シフトポジションがP以外になっている	

※ ドアまたはトランクを解錠するか、パワースイッチをアクセサリモード、またはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 403
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 208
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 401
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 205
ブレーキペダルを踏んだとき	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 188
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 242
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 270
車線からはずれそうになったとき	LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用している	P. 250

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) ※

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 263, 398

AFS

(アダプティブフロントライティングシステム) 215

AWD

(オールホイールドライブ) 458

BSM

(ブラインドスポットモニター) 283

DISP

(ディスプレイ) 94

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(電動リックパワーステアリング) 263

ETC

(エレクトロニックトールコレクション) ※

EV

(電動リックビークル) 198

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 455

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 50, 58

LKA

(レーンキーピングアシスト) 249

PCS	
(プリクラッシュセーフティシステム)	270, 398
SRS	
(サブリメンタルレストRAINTシステム)	39, 398
TRC	
(トラクションコントロール)	263
VDIM	
(ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント)	264
VGRS	
(バリアブルギヤレシオステアリング)	263
VSC	
(ビークルスタビリティコントロール)	263

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

五十音順さくいん

あ

アームレスト.....	341
アウトターミラー（ドアミラー）.....	172
操作.....	172
ブラインドスポット	
モニター（BSM）.....	283
リバース連動機能.....	173
アクセサリーコンセント.....	332
アクセサリーソケット.....	330
アクセサリーモード.....	194
アシストグリップ.....	352
足元照明.....	307
アダプティブハイビーム	
システム.....	217
アダプティブフロントライティング	
システム（AFS）.....	215
アラーム	
オートアラーム.....	77
音さくいん.....	476
警告ブザー.....	397, 403
アンチロックブレーキシステム	
（ABS）.....	263
アンテナ（スマートエントリー&	
スタートシステム）.....	118

い

イージークローザー	
トランク.....	135
ドア.....	130
EVドライブモード.....	198
イグニッションスイッチ	
（パワースイッチ）.....	193
位置交換	
（タイヤローテーション）.....	368
イベントデータレコーダー（EDR）....	8
イモビライザーシステム.....	76
イルミネーテッドエントリー	
システム.....	310
インサイドハンドル照明.....	307
インストルメントパネル	
オーナメント照明.....	307
インストルメントパネル	
照度調整スイッチ.....	90
インジケーター	
ハイブリッドシステム	
インジケーター.....	91
表示灯.....	86
READY.....	193
インテリアランプ.....	308
ワット数.....	458
インナーミラー.....	170

う

ウインカー（方向指示灯）.....	207
電球（バルブ）の交換.....	384
方向指示レバー.....	207
ウインドウ.....	175
ウォッシュャー.....	226
パワーウインドウ.....	175
リヤウインドウデフォッガー※	
ウインドウロックスイッチ.....	175
ウォーニングランプ（警告灯）.....	397
ウォッシュャー.....	226
液の補給.....	367
スイッチ.....	226
タンク容量.....	457
冬の前の準備・点検.....	300
動けなくなったときは	
（スタック）.....	450
雨滴感知式ワイパー.....	226
運転.....	184
運転を補助する装置.....	263
寒冷時の運転.....	300
正しい運転姿勢.....	32
手順.....	184
ハイブリッド車運転の	
アドバイス.....	298
運転席シートポジション	
メモリー.....	158

え

エアコン・デフォッガー※	
エアバッグ.....	39
SRS エアバッグ警告灯.....	398
作動条件.....	44
配置.....	39
ECO ランプ.....	88
エネルギーモニター.....	102
エレクトリック	
パワーステアリング（EPS）.....	263
機能.....	263
パワーステアリング警告灯.....	398
エンジン	
イモビライザーシステム.....	76
エンジン回転計	
（タコメーター）.....	88
エンジン警告灯.....	398
エンジンスイッチ.....	193
エンジンルームカバー.....	365
オーバーヒート.....	445
ハイブリッドシステムが	
始動できない.....	440
ハイブリッドシステムの	
始動方法.....	193
パワースイッチ	
（イグニッションスイッチ/ エンジンスイッチ）.....	193
ボンネット.....	360

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

エンジンオイル	454
冬の前の準備・点検	300
メンテナンスデータ	454
エンジンスイッチ	
(パワースイッチ)	193
エンジンフード (ボンネット)	360
開け方	360
エンジンルーム	365
エンジンルームカバー	365
エンジンルームから	
蒸気が出ている	445

お

オイル (エンジンオイル)	454
応急用タイヤ (スペアタイヤ)	407
空気圧	458
交換方法	407
オーディオ*	
オートアウェイ&リターン機構	143
オートアラーム	77
オートドアロック・	
アンロック機能	130
オートマチックトランスミッション	
Sモード	203
シフトレバーが	
シフトできない	433
トランスミッション	201
オートレベリングシステム	
(ヘッドランプ)	215
オーバーヒート	445
オープナー	
給油口	231
トランク	133
ボンネット	360

お子さまを乗せるとき	49
ウインドウロックスイッチ	175
お子さまの安全のために	49
子供専用シート	50
コンフォータブル・エアシートに	
関する警告	340
シートベルトの着用	35, 36
ステアリングヒーターに	
関する警告	335
チャイルドシートの取り付け	58
チャイルドプロテクター	129
オドメーター	88
機能	88
切りかえスイッチ	90

か

カーテシランプ	307
カーテンシールドエアバッグ	40
カードキー	110
カーペット	357
洗浄	358
フロアマットの取り付け方	30
外気温度表示	88
回生ブレーキ	67
外装の電球 (バルブ)	382
交換要領	382
ワット数	458
買い物フック	321
ガス欠になったとき	72
カスタマイズ機能	459
型式	458
カップホルダー	315

カメラ

アダプティブハイビーム システム	223
カメラセンサー (PCS)	273
近赤外線カメラ (ナイトビュー)	297
ドライバーモニター用カメラ (PCS)	273
白線認識用カメラ (LKA)	257

ガラスの曇り取り

(リヤウインドウデフォグガー) ※

ガレージジャッキ	363
冠水路走行	191
寒冷時の運転	300

き

キー	110
カードキー	110
キーナンバープレート	110
キーの構成	110
キーレスエントリー	116, 126
キーをなくした	113, 115
正常に働かない	439
施錠・解錠ができない	439
電子キー	110
電池が切れた	376, 439
ハイブリッドシステムが 始動できない	440
メカニカルキー	111
ワイヤレスリモコン	126
キーレスエントリー	116
スマートエントリー& スタートシステム	116
ワイヤレスドアロック	126
救急箱等固定用バンド	323

給油	230
給油口が開けられない	232
給油のしかた	230
メンテナンスデータ	454
給油後走行距離	95
給油後平均燃費	95
緊急時シートベルト固定機構	36
緊急始動機能 (ハイブリッドシステム)	432
緊急時の対処	
オーバーヒートした	445
キーの電池が切れた	376, 439
キーをなくした	113, 115
警告灯がついた	397
警告メッセージが 表示された	403
けん引	393
故障したときは	388
シフトレバーが シフトできない	433
車両を緊急停止する	392
スタックした	450
電子キーが正常に働かない	439
パーキングブレーキが 解除できない	434
ハイブリッドシステムが 始動できない	431
発炎筒	390
パンクした	407, 417
補機バッテリーがあがった	441
緊急停止システム	71
緊急ブレーキシグナル	264

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

く

空気圧 (タイヤ)	458
タイヤ空気圧警告灯	400
タイヤ空気圧警報システム	369
メンテナンスデータ	458
区間距離計 (トリップメーター)	88
機能	88
切りかえ・リセットスイッチ	90
駆動用電池	70
充電について	68
搭載位置	70
冷却用吸入口	71
曇り取り※	
ミラーヒーター※	
リヤウインドウデフォグガー※	
クラクション (ホーン)	213
クリアランスソナー※	
操作※	
クリアランスランプ (車幅灯)	214
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	214
クリップ	
エンジンルームカバー	365
フロアマット	30

クルーズコントロール	233
クルーズコントロール	233
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付)	237
グローブボックス	313

け

警告器 (ホーン)	213
計器類 (メーター)	88
照度調整	90
マルチインフォメーション ディスプレイ	93
メーター	88
警告灯	85
ABS & ブレーキアシスト	398
SRS エアバッグ	398
エンジン	398
シートベルト非着用	400
充電	397
スリップ表示灯	399
タイヤ空気圧	400
燃料残量	400
パーキングブレーキ表示灯	399
パワーステアリング	398
半ドア	400
PCS	398
プリテンショナー	398
ブレーキ	397, 399
ブレーキホールド作動表示灯 ...	399
マスターウォーニング	400

警告ブザー	
シートベルト非着用.....	401
シフトダウン制限.....	205
接近警報（レーダークルーズ コントロール）.....	242
手放し運転警告（LKA）.....	253
パーキングブレーキ	
未解除走行時.....	209
半ドア.....	119, 127
ムーンルーフ開.....	180
リバース.....	205
警告メッセージ.....	403
化粧ミラー（バニティミラー）.....	324
けん引.....	393
けん引のしかた.....	393
フック.....	394

こ

コインホルダー.....	314
交換	
キーの電池.....	376
タイヤ.....	407
電球（バルブ）.....	382
ヒューズ.....	378
工具（ツール）.....	408, 418
航続可能距離.....	94
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換.....	384

高電圧部位.....	70
コーションラベル.....	70
コートフック.....	351
後方ブリクラッシュセーフティ システム.....	280
子供専用シート.....	50
選択方法.....	50
取り付け方.....	58
小物入れ.....	318
コンソールボックス.....	317
コンフォータブル・エアシート.....	336
コンライト （自動点灯・消灯装置）.....	214

さ

サービスプラグ.....	70
サイドエアバッグ.....	40
サイド方向指示灯.....	207
電球（バルブ）の交換.....	384
方向指示レバー.....	207
サイドミラー（ドアミラー）.....	172
操作.....	172
ブラインドスポットモニター （BSM）.....	283
リバース連動機能.....	173
サンシェード	
ムーンルーフ.....	179
リヤ.....	344
リヤドア.....	348
サンバイザー.....	324

し

- シート 140, 147
 - 子供専用シート 50
 - コンフォータブル・
 - エアシート 336
 - シートポジション
 - メモリー 158, 163
 - 正しい運転姿勢 32
 - 調整 140, 147
 - 手入れ 357
 - ドライビングポジション
 - メモリー 158
 - パワーイージーアクセス
 - システム 143
 - ヘッドレスト 165
 - ペルビックサポートシート 151
 - メモリーコール機能 160
 - リヤシートポジション
 - メモリー 163
 - リヤシートリラクゼーション
 - システム 153
- シートベルト 34
 - お子さまの着用 35, 36
 - 緊急時シートベルト固定機構 36
 - シートベルト非着用警告灯 400
 - 高さ調整 34
 - 正しく着用するには 34
 - 着け方・はずし方 34
 - 手入れ 358
 - 妊娠中の方の着用 37
- シートベルトコンフォートガイド 35
- シートベルト非着用警告灯 400
- シートベルトプリテンショナー 35
 - 機能 35
 - プリテンショナー警告灯 398
- シートポジション
 - メモリー 158, 163
- シガレットライター 328
- 事故が発生したとき
 - (ハイブリッドシステムの注意) 74
- 室内灯 308
 - W数 458
 - スイッチ 308
- 始動のしかた 193
- シフト照明 307
- シフトポジション 201
- シフトレバー 201
 - シフトレンジの切りかえ 202
 - シフトロックシステム
 - (解除ボタン) 433
 - 操作 201
 - リバース警告ブザー 205
- シフトレバーが
 - シフトできないときは 433
- 締め付けトルク (ホイール) 416
- 車高調整
 - 電子制御エアサスペンション ... 262
- ジャッキ
 - ガレージジャッキ 363
 - 車載ジャッキ 408, 418
- ジャッキハンドル 408, 418
- 車幅灯 214
 - 電球 (バルブ) の交換 384
 - ランプスイッチ 214

車両型式.....	458
車両仕様（スペック）.....	454
車両接近通報装置.....	67
車両データの記録.....	7
車両を緊急停止するには.....	392
収納装備.....	311
ジュニアシート.....	51
瞬間燃費.....	95
仕様（車両仕様）.....	454
衝撃感知ドアロック	
解除システム.....	130
初期化	
（タイヤ空気圧警報システム）.....	370
侵入センサー（オートアラーム）.....	80

す

水温計.....	88
スイッチ	
EVドライブモード.....	198
アダプティブハイビーム	
システム.....	217
イグニッション.....	193
ウインドウロック.....	175
ウォッシュャー.....	226
オーディオ※	
クリアランスソナー※	
クルーズコントロール.....	233, 237
コンフォータブル・	
エアシート.....	336
シート調整.....	140, 147
シートポジション	
メモリー.....	158, 163

車間距離切りかえ（レーダー	
クルーズコントロール）.....	239
車両接近通報一時停止.....	67
助手席側面.....	141
侵入センサー OFF.....	80
ステアリングヒーター.....	334
スノーモード.....	204
タイヤ空気圧警報リセット.....	370
DISP.....	94
電話※	
ドアミラー.....	172
ドアロック.....	128
トーク※	
ドライビングポジション	
メモリー.....	158
ドライブモードセレクト.....	258
トランクオープナー.....	133
トランクオープナーメイン.....	134
トランククローズ.....	134
ナイトビュー.....	288
パーキングブレーキ.....	208
パドルシフト.....	202
パワーウインドウ.....	175
パワースイッチ.....	193
ハンドル位置調整.....	169
非常点滅灯	
（ハザードランプ）.....	389
VSC OFF.....	265
フォグランプ.....	224
ブラインドスポットモニター	
（BSM）.....	283
プリクラッシュブレーキ	
OFF.....	272
ブレーキホールド.....	211
ヘッドランプクリーナー.....	229

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

方向指示レバー	207
ホーン（警音器）	213
ムーンルーフ	178
ランプ	214
リセット（タイヤ空気圧警報 システム）	370
リヤウインドウテフオッガー※ リヤシートポジション メモリー	163
リヤドアサンシェード	348
リヤサンシェード	344
レーダークルーズ コントロール （全車速追従機能付）	237
レーンキーピングアシスト （LKA）	251
ワイパー	226
スタック	450
ステアリングヒーター	334
ステアリングホイール （ハンドル）	169
位置調整	169
オートアウェイ& オートリターン機構	143
ステアリングヒーター	334
ドライビングポジション メモリー	158
ステアリングロック	195
解除できないとき	195
ストップランプ（制動灯） 緊急ブレーキシグナル	264
電球（バルブ）の交換	384
スノータイヤ（冬用タイヤ）	300
スピードメーター	88
スペアタイヤ	407
空気圧	458
交換方法	407

スペック（車両仕様）	454
SPORT ランプ	92
スマートエントリー& スタートシステム	116
アンテナの位置	118
カスタマイズ設定	459
警告ブザー	119
作動範囲	118
正常に働かないとき	439
節電機能	122
電波がおよぼす影響について ...	125
ドアの解錠・施錠	117
トランクの解錠	117
ハイブリッドシステムの 始動	193
スモールランプ（車幅灯）	214
電球（バルブ）の交換	384
ランプスイッチ	214

せ

清掃	354, 357
アルミホイール	354
外装	354
シートベルト	358
ドライバーモニター用カメラ ...	279
内装	357
レーダーセンサー	248
制動灯 緊急ブレーキシグナル	264
電球（バルブ）の交換	384
積算距離計（オドメーター）	88
機能	88
切りかえスイッチ	90

セキュリティインジケータ ... 76, 77
接近警報 (レーダークルーズ コントロール) 242
節電機能 215
センサー
アダプティブハイビーム システム 223
インナーミラー 171
雨滴感知センサー 227
侵入センサー 80
ライトセンサー 215
レーダー センサー 245, 272, 287
洗車 354
前照灯 (ヘッドランプ) 214
節電機能 215
電球 (バルブ) の交換 384
ライトセンサー 215
ランプ消し忘れ防止機能 215
ランプスイッチ 214

そ

走行時間 95
走行モード (ドライブモード) 204, 258
送信機 (タイヤ空気圧警報システム) 369
速度計 (スピードメーター) 88

た

ターンシグナルランプ (方向指示灯) 207
電球 (バルブ) の交換 384
方向指示レバー 207
タイヤ 368
空気圧 458
交換 407
締め付けトルク 416
スペアタイヤ 407
点検 368
パンク応急修理キット 417
パンクしたときは 407, 417
ホイールサイズ 458
ローテーション (位置交換) 368
タイヤが空まわりする (スタックした) 450
タイヤ空気圧警報システム 369
ID コードの登録・選択 371
アンテナの位置 374
機能について 369
空気圧バルブ/ 送信機について 369
空気圧表示画面 96
初期化 370
タイヤ空気圧警告灯 400
電波がおよぼす影響について ... 374
タイヤチェーン 300

ち

チェーン (タイヤチェーン)	300
チャイルドシート	50
ISOFIX バーでの取り付け	61
シートベルトでの固定	60
選択方法	50
チャイルドプロテクター	129
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	208
解除できないとき	434
操作	208
パーキングブレーキ表示灯	399
未解除走行時警告ブザー	209
メンテナンスデータ	457

つ

ツール (工具)	408, 418
----------------	----------

て

ディファレンシャル	
フロントディファレンシャル ...	456
リヤディファレンシャル	456
手入れ	354, 357
アルミホイール	354
外装	354
シートベルト	358
ドライバーモニター用カメラ ...	279
内装	357
レーダーセンサー	248
テーブル	342
テールランプ (尾灯)	214
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	214
デフォッガー (リヤウインドウ デフォッガー) ※	

電気モーター	70
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	382
ワット数	458
点検基準値	
(メンテナンスデータ)	454
電子キー	110
作動範囲	118
正常に働かないとき	439
電池が切れた	439
電池交換	376
電池交換 (キー)	376
電話スイッチ※	

と

ドア	128
オートドアロック・	
アンロック機能	130
衝撃感知ドアロック解除	
システム	130
スマートエントリー&	
スタートシステム	116
チャイルドプロテクター	129
ドアガラス	175
ドアロックスイッチ	128
半ドア警告灯	400
ロックレバー	128
ワイヤレスリモコン	126
ドアカーテシランプ	307
ドアポケット	314

ドアミラー.....	172
操作.....	172
ブラインドスポット	
モニター (BSM).....	283
リバース連動機能.....	173
ドアミラー照明.....	307
電球 (バルブ) の交換.....	384
盗難防止装置	
イモビライザーシステム.....	76
オートアラーム.....	77
トークスイッチ※	
時計.....	326
時計照明.....	307
時計調整※	
トップテザーアンカー.....	58
ドライバーモニター.....	273
ドライビングポジション	
メモリー.....	158
トラクションコントロール	
(TRC).....	263
トランク.....	133
イージークローザー.....	135
オープナー.....	133
キー閉じ込み防止機能.....	135
クローズスイッチ.....	134
電子キーが正常に	
働かないとき.....	439
トランクオープナーを使用	
できなくするには.....	134
トランク内の装備.....	321
パワートランクリッド.....	133
メインスイッチ.....	134

トランクリッドランプ.....	135
ワット数.....	458
トランクリッドランプ.....	135
ワット数.....	458
トランスミッション.....	201
シフトダウン制限警告ブザー ...	205
操作.....	201
パドルシフトスイッチ.....	202
メンテナンスデータ.....	456
トリップインフォメーション	
(マルチインフォメーション	
ディスプレイ).....	94
トリップメーター.....	88
機能.....	88
切りかえ・リセットスイッチ.....	90

な

内装	
収納装備.....	311
手入れ.....	357
ナイトビュー.....	288
「ナノイー」※	
ナビゲーションシステム※	

に

ニーエアバッグ.....	39
荷物	
積むときの注意.....	192
トランク.....	133
荷物固定用フック.....	321

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック) ...	450
----------------------	-----

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ね

燃費	
給油後平均燃費	95
瞬間燃費	95
平均燃費	95
燃費画面	104
燃料	454
給油	230
種類	454
燃料残量警告灯	400
容量	454
燃料計	88

は

パーキングブレーキ	208
解除できないとき	434
操作	208
ブレーキ警告灯	399
未解除走行時警告ブザー	209
メンテナンスデータ	457
パーソナルランプ	309
ワット数	458
Harmonious Driving Navi. 画面	105
排気ガス	65
灰皿	327
ハイビーム (ヘッドランプ)	214
アダプティブハイビーム システム	217
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	214

ハイブリッドシステム	66
EV ドライブモード	198
運転のアドバイス	298
オーバーヒート	445
回生ブレーキ	67
ガス欠になったとき	72
緊急始動機能	432
緊急時の停止方法	392
緊急停止システム	71
駆動用電池冷却用吸入口	71
高電圧部位	70
サービスプラグ	70
事故が発生したとき	74
始動できないときは	431
始動方法	193
車両接近通報装置	67
充電	68
注意	70
特徴	66
特有の音と振動	69
パワー (イグニッション) スイッチ	193
補機バッテリーがあがった	441
メンテナンス・ 修理・廃車するとき	69
ハイブリッドシステム インジケーター	91
ハイマウントストップランプ 電球 (バルブ) の交換	384

ハザードランプ（非常点滅灯）.....	389
スイッチ	389
電球（バルブ）の交換.....	384
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ.....	176
パワートランクリッド.....	135
ムーンルーフ.....	179
リヤサンシェード.....	344
発炎筒	390
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換.....	384
バックガイドモニター*	
バッテリー（駆動用電池）.....	70
充電について	68
搭載位置	70
冷却用吸入口	71
バッテリー（補機バッテリー）.....	360
搭載位置	360
補機バッテリーがあがった.....	441
補機バッテリーを	
交換するとき	361
パドルシフトスイッチ	202
パニティ（化粧用）ミラー	324
パニティミラーランプ	324
装備について	324
ワット数	458
バリアブルギヤレシオ	
ステアリング（VGRS）.....	263
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）.....	382
ワット数	458
パワーイージーアクセス	
システム	143

パワーウィンドウ	175
ウィンドウロックスイッチ	175
閉めることができないときは ...	176
操作	175
ドアロック連動ドアガラス	
開閉機能	176
挟み込み防止機能.....	176
パワーコントロールユニット.....	70
パワー（イグニッション）	
スイッチ	193
パワーステアリング.....	263
パワーステアリング警告灯.....	398
パワートランクリッド	133
バンクした	
スペアタイヤ装着車.....	407
タイヤバンク応急修理キット	
装着車	417
番号灯	
（ライセンスプレートランプ）.....	214
電球（バルブ）の交換.....	384
ランプスイッチ	214
ハンドル	
（ステアリングホイール）.....	169
位置調整	169
オートアウェイ&	
オートリターン機構.....	143
ステアリングヒーター	334
ドライビングポジション	
メモリー	158

*：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	263
ビークルダイナミクス	
インテグレイテッド	
マネージメント (VDIM)	264
ヒーター	
エアコン・デフォッガー※	
ステアリングヒーター	334
非常点滅灯 (ハザードランプ)	389
スイッチ	389
電球 (バルブ) の交換	384
尾灯 (テールランプ)	214
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	214
ヒューズ	378
表示灯	86
日よけ (サンバイザー)	324
ヒルスタートアシスト	
コントロール	263

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	441
フォグランプ	224
スイッチ	224
電球 (バルブ) の交換	384
ワット数	458
ブザー	
シートベルト非着用警告	401
シフトダウン制限警告	205
接近警報 (レーダークルーズ	
コントロール)	242
手放し運転警告 (LKA)	253
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告	209
ムーンルーフ開警告	180
リバース警告	205
フック	
買い物フック	321
けん引フック	394
コートフック	351
荷物固定用フック	321
フロアマット固定フック	30

フューエルメーター（燃料計）.....	88	ブレーキ付近からキーキー音が 聞こえる	188
フューエルリッド（給油口）.....	230	ブレーキフルード	457
給油口が開かない.....	232	ブレーキホールド	211
給油のしかた	230	フロアマット	30
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....	300	フロントシート	140
冬用タイヤ.....	300	コンフォータブル・ エアシート	336
ブラインドスポットモニター （BSM）.....	283	シートポジションメモリー	158
プリクラッシュセーフティ システム（PCS）.....	270	正しい運転姿勢.....	32
機能.....	270	調整.....	140
プリクラッシュブレーキ OFFスイッチ	272	手入れ.....	357
PCS 警告灯	398	ドライビングポジション メモリー	158
ブレーキ		パワーイージー アクセスシステム	143
回生ブレーキ	67	ヘッドレスト	165
緊急ブレーキシグナル.....	264	フロントフォグランプ	224
警告ブザー	397	スイッチ	224
パーキングブレーキ.....	208	電球（バルブ）の交換	384
ブレーキ警告灯	397, 399	フロント方向指示灯	207
ブレーキホールド.....	211	電球（バルブ）の交換	384
メンテナンスデータ.....	457	方向指示レバー.....	207
ブレーキアシスト	263		
ABS & ブレーキアシスト 警告灯.....	398		
機能.....	263		

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

へ

平均車速.....	96
平均燃費.....	95
ヘッドランプ.....	214
クリーナー.....	229
節電機能.....	215
電球（バルブ）の交換.....	384
ライトセンサー.....	215
ランプ消し忘れ防止機能.....	215
ランプスイッチ.....	214
ヘッドランプオートレベリング	
システム.....	215
ヘッドレスト.....	165
アクティブヘッドレスト.....	166
調整.....	165
プリクラッシュインテリ	
ジェントヘッドレスト.....	280
ベビーシート.....	51
ベルビックサポートシート.....	151
ヘルプネットスイッチパネル*	
ペンライト.....	408, 418

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）.....	407
メンテナンスデータ.....	458
方向指示灯.....	207
電球（バルブ）の交換.....	384
方向指示レバー.....	207
ホーン（警音器）.....	213
補機バッテリー.....	360
交換するとき.....	361
搭載位置.....	360
補機バッテリーがあがった.....	441
保証.....	9
ボンネット.....	360
開け方.....	360

ま

マスターウォーニング.....	400
マルチインフォメーション	
ディスプレイ.....	93
エネルギーモニター.....	102
警告メッセージ.....	403
トリップインフォメーション.....	94
レーダーセンサー.....	248

み

ミラー	
インナーミラー	170
ドアミラー	172
バニティミラー	324

む

ムーンルーフ	178
警告ブザー	180
操作	178
ドアロック連動ムーンルーフ	
開閉機構	179
挟み込み防止機能	176

め

メーター (計器類)	88
警告灯	397
照度調整	90
表示灯	86
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	93
メーター	88
メカニカルキー	111
メモリーコール機能	160
メンテナンスデータ	454

も

モーター (電気モーター)	66
モーターでの走行	
(EVドライブモード)	198

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	459
雪道ですべて動けない	
(スタックした)	450
油脂類	454

ら

ライセンスプレートランプ	
(番号灯)	214
電球 (バルブ) の交換	384
ランプスイッチ	214
ラゲージマット	322
ラゲージルーム	
(トランク)	133, 321
ラジエーター	
オーバーヒート	445
メンテナンスデータ	456

ランプ

インテリアランプ.....	308
室内灯	308
節電機能	215
電球 (バルブ) の交換.....	382
パーソナルランプ.....	309
バニティミラーランプ.....	324
非常点滅灯 (ハザードランプ)	389
フロントフォグランプ.....	224
ヘッドランプ (前照灯)	214
方向指示灯 (ターニングナル ランプ/ウインカー)	207
ライトセンサー	215
ランプ消し忘れ防止機能.....	215
リヤフォグランプ.....	224
ワット数	458
ランプ消し忘れ防止機能	215

り

リバース連動機能	
ドアミラー	173
リヤサンシェード.....	345
リモートタッチ※	
リヤウインドウデフォッガー スイッチ※	
リヤサンシェード	344
リヤシート	
コンフォータブル・ エアシート	337
シートポジションメモリー	163
調整	147
テーブル	342

リヤシートリラクゼーション

システム	153
リヤドアサンシェード	348
リヤフォグランプ	224
スイッチ	224
電球 (バルブ) の交換	383
ワット数	458
リヤブリクラッシュセーフティ システム	280
リヤ方向指示灯	207
電球 (バルブ) の交換.....	384
方向指示レバー.....	207

る

ルームミラー (インナーミラー) ...	170
ルームランプ (室内灯)	307

れ

冷却水.....	456
水温計	88
冬の前の準備	300
メンテナンスデータ	456
冷却装置 (ラジエーター)	456
オーバーヒート.....	445
メンテナンスデータ	456
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付)	237
接近警報	242
レーダーセンサー.....	245
レーンキーピングアシスト (LKA)	249
操作	251
レクサスクライメイト コンシェルジュ.....	306

レバー

シフト	201
方向指示	207
ボンネット解除	360
ロック (ドア)	128

ろ

ロック

ウインドウロック	175
シフトロック	433
スマートエントリー& スタートシステム	116
チャイルドプロテクター	129
ドア	128
ワイヤレスリモコン	126

わ

ワイパー& ウォッシャー	226
ワイパーブレード (寒冷地用)	301
ワイヤレスリモコン	126
作動の合図	127
操作	126
電池の交換	376
半ドア警告ブザー	127
ワックス	354
ワット数	458

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。

ボンネットフック

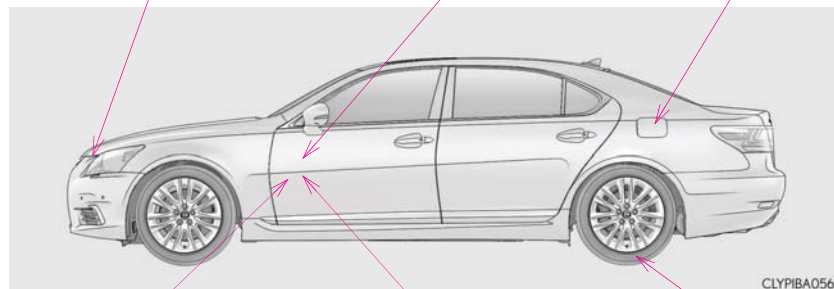
P. 360

トランクオープナー

P. 133

給油口

P. 231



ボンネットオープナー

P. 360

給油口オープナー

P. 231

タイヤ空気圧

P. 458

燃料の容量 (参考値)	84L		
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン (無鉛ハイオク) P. 454		
タイヤが冷えている ときの空気圧	タイヤサイズ	前輪 kPa(kg/cm ²)	後輪 kPa(kg/cm ²)
	235/50R18 97W	230 (2.3)	240 (2.4)
	235/50R18 97V	230 (2.3)	240 (2.4)
	245/45R19 98Y	230 (2.3)	250 (2.5)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 :		8.4L
	オイルとフィルター交換時 :		9.0L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30)		

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp>にて掲載しております。



M50D24
01999-50D24
NAC-2012年10月 4日
2012年10月 11日初版

LS600h / LS600hL